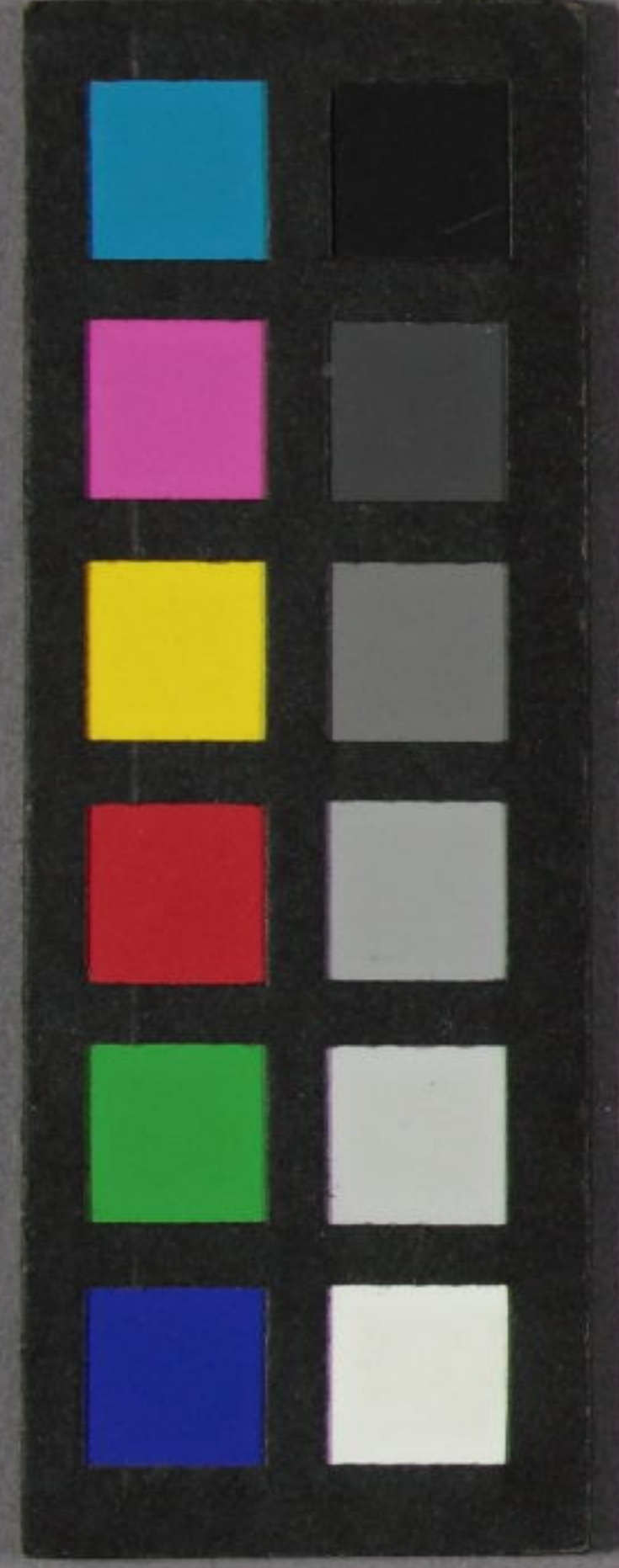


嬰鳴雜誌

從第二十卷  
至第二十九號

文苑  
庫

學  
45  
1





7  
45  
/

明治十三年第四月一日刊行

下

- 國會編制ノ順序
- 政体ハ猶器械ノ如シ
- 綿糖共進會ノ意見(前號ノ續キ)
- 國政論第一回

青木  
大石  
狩野  
平田



吉田次郎校閱  
青木匡編輯

櫻鳴雜誌

第十壹號



例言

- 一本誌嚶鳴ヲ以テ名クル者ハ嚶鳴社員ノ議論文童ヲ掲載スルガ爲メナリ然レモ其意見ニ至テハ必ラズシモ衆社員ノ賛成ヲ得タル者ニ非ズ要スルニ其社員タル一箇人ノ私論ニ過ギサルノミ
- 一本誌ノ目的ハ社員ノ論說ヲ集録シテ廣ク世人ニ問ハントスルニ在レモ若シ卓論偉說アラバ何人ヲ論セズ其投寄ヲ待テ之ヲ採收ス可シ
- 一本誌刊行ハ毎月二回ヨリ少カラズ五回ヨリ多カラズ

嚶鳴雜誌第十一号

國憲編制ノ順序

青木

長谷川誠也

氏贈

國憲制定ノコトニ關シテハ此頃日報記者ト朝野記者トノ討論アリ今兩記者が討論ノ大旨ヲ舉クハ日報記者ハ國會ヲ開設スルニ先チ國憲ヲ制定スルヲ以テ其順序ノ最モ宜キヲ得タル者ト云ヒ朝野記者ハ今日ハ未ダ國憲制定ニ從フヘキ時ニ非ラス全國ノ有志者互ニ結心協力シテ國會ノ開設ヲ政府ニ請願セサル可カラズ若シ將タ今日ニ於テ一地方ノ人民ハ國會開設ヲ請願シ他ノ一地方ノ人民ハ國憲制定ニ力ヲ盡ス如キヲアラハ民間ノ國會論モ遂ニ政府ノ方向ヲ變セシムルニ足ルヘキ勢力ヲ有スル能ハサルニ至ルト云ヒ未ダ其ノ凱歌ノ孰シノ方面ニ起ル歟ヲ知ル可



カラス然レモ情々世上ノ形勢ヲ觀察スルニ公議輿論ハ已  
ニ國會開設ノ一點ニ傾向シタル者ノ如ク今日ニ於テハ一  
人ノ國會尙早論ヲ唱フル者ナシ勢ヒ斯ノ如シ我政府ハ遲  
クモ明年ニハ國會開設ヲ許可スルノ政策ニ出ツルナルヘシ  
諸君ヨ諸君ハ國會開クレハ則チ其ノ組成ノ如何ニ拘ハラ  
スノ之ヲ慶賀スルヤ國會ハ民選議院一局ノミヲ以テ成立  
スルヲ得ヘク將タ元老民選兩局ヲ以テ成立スルヲ得  
ヘシ蓋シ一局ヲ以テ成立スルト二局ヲ以テ成立スルトハ大  
ニ人民權力ノ強弱ニ關スル所アリ且ツヤ國會ノ掌握スヘ  
キ權力ノ如キ固ヨリ國憲ノ組成如何ニ由テ大小強弱ノ別  
ナキヲ能ハス然ラハ則チ今日ニ於テ國會開設ヲ願望スル  
者ハ亦今ヨリ國憲編製ハコトニ注意スルハ吾輩カ最モ嘉

賞スル所ナリ况シヤ國會ハ國憲ヲ制定スヘキ者ニ非ラズ  
國憲立テ後チ國會之ニ從フベキニ於テオヤ又況ンヤ國會  
願望者カ其ノ願望書ト與ニ國憲草案ヲ政府ニ奉呈スルニ  
於テハ若シ万一政府ガ國憲草案ヲ起シテ人民ノ會議ニ附  
スルニ當テ或ハ政府ノ參考ニ供スルノ益アルニ於テオヤ  
其レ然リ國會開設ニ先ツテ國憲ヲ編製スルハ其ノ順序ノ  
最モ正シキ者タルヲ固ヨリ辨チ待タス然ラハ則チ諸君ハ  
政府ニ於テ國憲草案ヲ起シ之ヲ國民議會ニ附スルト國民  
議會ニ於テ該草案ヲ起シ後チ政府ノ裁可ヲ得ルト孰レチ  
取り孰レチ捨テントスルヤ試ニ歐米諸國ノ國憲ヲ見ヨ米  
國ハ即チ國民議會ニ於テ現行國憲ヲ編製シ之ヲ十三州ノ  
裁定ニ附シ英國憲法ノ一部ナル權利ノ請願書及ヒビルオ



フライイト(權利ノ定書)「英國人民ノ手ニ成リ而シテ國王之ヲ裁可シタリ之ニ反シテ學國々憲ハ政府之ヲ草創シテ國會ノ議決ニ附シ佛國現行國憲モ亦路易那勃翁之ヲ編制シテ同ク國民ノ聽斷ニ附セシナリ而シテ其ノ國憲ノ下ニ成ルト上ニ成ルトハ誠ニ國民ノ權利ニ大ナル關係ヲ有スル者ニシテ現ニ英米二國々憲ノ其ノ人民ニ權力ヲ與フルノ大ナルハ學佛兩國々憲ノ政府ニ強大ノ權力ヲ與ヘ人民ノ權力ヲ減縮セシカ如キ者トハ與ニ日ヲ同フシテ論ス可カラサルモノアリ是故ニ吾輩ハ日本國憲ハ其ノ草案ヲ國民議會ニ起シ之ヲ政府ノ裁可ニ附スルヲ以テ其ハ編制ハ順序ト爲シテ切ニ希望スルナリ」

抑モ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルハ必ズ起草スヘキノ理由

アリテ而シテ起草スル者ニアラス唯一時ノ便宜ニ依ルノミナリ吾輩ハ以爲ラク國憲ハ政府ニ於テ起草ス可キノ理由ナキニ之ヲ起草スル固ヨリ不可ナリ且ツ其便宜ト謂フ所ノ者決シテ眞ノ便宜ニ非ラス却テ非常ノ弊害ヲ其間ニ招クコトアルヘシト請フ詳ニ其理由ヲ陳ヘン

第一今ノ日本政府ハ立憲政府ニ非ラス即チ純然タル特裁政府ナリ蓋シ純然タル立憲政府ハ國憲ニ依テ之ヲ構成スヘシ例ヘハ國憲ハ猶鑄形ノ如シ立憲政府ハ猶被鑄物ノ如シ果シ然ラハ被鑄物タルヘキ政府カ其ノ鑄形ヲ造クルハ恰モ鑄形ニ由テ砲丸ヲ造ラスシテ砲丸ヲ以テ鑄形ヲ造ラントスル者ノ如シ天下豈ニ斯ノ如キノ理アラシヤ是レ吾輩カ政府ニ於テ國憲草案ヲ



起スヲ不可トスル第一理ナリ  
 第二今ノ日本政府ハ維新ノ功臣ヲ以テ組成スル者ニシ  
 テ維新ノ當時ニ在テハ廟堂有司諸君ハ拔群ノ人物ナ  
 ルヘシ亦人民ノ迷夢未タ覺メサルノ時ナレハ政府ノ  
 處置ハ悉ク急進ノ處置タルモノ、如キモ今日ニ至テ  
 ハ大ニ之ニ反シ人民ハ即チ改進ノ位置ヲ占メ政府ハ  
 即チ保守ノ地位ニ止ル者ニ似タリ改進ト保守トハ政  
 治ノ主義大ニ殊ナルハ諸君カ能ク明知セラル、所ナ  
 リ其ノ然リ若シ政府チシテ國憲ヲ起草セシメハ或ハ  
 大ニ政府ノ便利ヲ謀ル猶李佛國憲ノ政府ニ向テ大ニ  
 ル權力ヲ與ル如キニ至ルノ恐レナシトセズ試ニ思ヘ  
 凡ソ人ノ家屋ヲ建築スルヤ之ヲ旅宿ニ用ヒ之ヲ割烹

店ニ用ヒ之ヲ通常ノ商館ニ用フル等各々其ノ家屋ヲ  
 建築セントスル者ノ思想ノ殊ナルニ由テ家屋ノ構成  
 ナ殊ニスルハ自然免ル可カラサルノ勢ナリ其ノ然リ  
 政府カ自己ノ權力ヲ強フシ人民ノ權力ヲ弱セントス  
 ルノ精神ヲ以テ起草シタルノ國憲ハ自ラ政府ニ便利  
 ナル所アルニ至ルヤ必セリ已ニ其ノ精神ヲ殊ニセリ  
 國民議會ニ於テ僅ニ數十條ノ刪除修正増加ヲ爲ス  
 モ決シテ人民ノ手ニ於テ直ニ國憲ヲ起草シタル如キ  
 ノ益ヲ見サル猶家屋ノ窓戶及ヒ入口ヲ改ムルモ其ノ  
 間取ノ尙不都合アルカ如シ是レ吾輩カ政府ヲシテ國  
 憲ヲ起草シシムルヲ不可トスル第二理ナリ  
 第三既ニ政府ニ於テ國憲草案ヲ起スノ甚タ不可ナルヲ



知ル然ラハ之ヲ起ス者ハ果シテ誰シヤ曰ク國民ナリ何  
 ナレハ則チ民ハ本ニシテ政府ハ末ナリ之ヲ詳言スレ  
 ハ一國ノ主權ハ國民之ヲ掌握シ政府ハ唯國民ニ代テ  
 其主權ヲ用フル者ニ過キス再ヒ之ヲ詳言スレハ人民  
 アリテ政府ヲ要シ政府アリテ人民ヲ要スルニ非サレ  
 ハナリ其レ然リ國憲ヲ起草スルハ權力ヲ有スル者ハ  
 獨リ國家ノ主權者即チ全國人民ニ非ラズ誰シヤ是  
 レ吾輩カ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルヲ不可トスル第二理ナリ  
 其レ斯ノ如シ若シ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルニ於テ以上  
 三ツノ不理アリ何ソ國民議會ヲ開テ之レカ草案ヲ起カシ  
 メ以テ政府ノ裁可ヲ受クルノ順序ニ出テサルコト得ンヤ  
 然ト雖モ我カ政府ハ或ハ李佛兩國ニ倣テ國憲草案ヲ起シ

以テ之ヲ人民ノ會議ニ附スルノ手段ニ出ルモ亦知ル可カ  
 ラス然ラハ即チ今日ニ於テ立憲政体ヲ熱望スルノ論者ハ  
 各々國憲ヲ起草シテ國會開設願望書ト與ニ之ヲ政府ニ上  
 呈セハ亦以テ万一政府カ國憲ヲ起草スルノ參考ニ供スル  
 ノ益ナシトセズ抑吾輩ハ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルコトヲ  
 好ム者ニ非ラズ新立ノ國會ニ於テ之ヲ起草スルコトヲ好  
 ム者ニ非ラズ唯特別ノ國民議會ヲ開テ國憲ヲ起草スルノ  
 最モ切要ナルコトヲ感スルカ故ニ此ニ一言シテ聽衆諸君ニ  
 質スト云爾

政体ハ猶器械ノ如シ大石正巳演說  
 古人謂ヘルアリ曰ク長袖能ク舞ヒ多錢克ク買フト器械善  
 良ナレハ則チ能ク其ノ目的ヲ達スルコトヲ得其レ然リ弱兵



ノ強兵ニ於ケル弓矢ノ銃砲ニ於ケル鈍刃ノ利刀ニ於ケル  
 人車ノ馬車ニ於ケル其ノ効用ノ便否ヲ論スレハ相去ルコ  
 雲泥モ啻ナラス然ラハ則チ吾人カ一箇ノ目的ヲ達セント  
 欲セハ其最モ善良ナル器械ヲ撰ハサル可カラサルハ理ノ  
 固ヨリ然ラシムル所ナリ蓋シ海川ニ向テ其ノ船舶ヲ撰ム  
 ニ當テハ唯船舶ノ大小ヲ撰ハスシテ其ノ能ク海川ニ適ス  
 ル者ヲ撰ハサル可カラズ人アリ疾病ニ苦シミ之レカ醫藥  
 ナ撰ムニ當テヤ醫藥ノ上下ヲ論スルニ非ラスシテ唯其ノ  
 疾病ヲ瘥治スルニ適當ナル者ヲ撰ハサル可カラズ其ノ斯  
 ノ如シ然ラハ則チ一國人民ニ向テ其ノ政体ヲ撰ムニ當テ  
 ハ亦政体ノ形質ヲ論スヘキニ非ラスシテ唯其人民ノ狀勢  
 ニ適スル者ヲ採擇セサル可カラサルナリ

今ヤ我邦政体ハ恰モ能ク人民ノ狀勢ニ適當スル所アル乎  
 異論天下ニ滿チ建白政府ニ迫リ其他吾人カ筆紙ニ名狀ス  
 可カラサルノ事實陸續トシテ發起シ人民ハ恰モ大洋ニ漂  
 流セル孤舟ニ乗ルノ思ナシトセス且ツ大臣參議ハ道路ヲ  
 往來スルコト恰モ敵陣ヲ往來スルカ如ク騎兵ノ其ノ前後ヲ  
 護衛スルアリ加之内ハ元氣ヲ失ヒ外ハ万国ニ侮ラレ金力  
 ハ痿微振ハサルアリ是レ皆今日ノ政体ノ我邦人民ノ狀勢  
 ニ適セサルノ証ナル乎吾輩大ニ之カ明解ニ苦マサルヲ得  
 サルナリ

春氣至レハ忽チ移テ夏氣トナリ晴天ハ俄ニ變シテ雨天ト  
 ナリ海潮大ニ滿ツレハ亦大ニ乾キ氷ハ深山ヨリ流出シテ  
 大海ニ入り大海ヨリ蒸發シテ深山ニ落チ或ハ眼ヲ轉シテ



他ノ一方ヲ見レハ草木ノ芽ヲ生スルアリ葉ノ枯落スルアリ禽獸ノ死スルアリ生スルアリ又或ハ眼ヲ人事ニ轉スルニ弓矢ハ銃砲ト變シ和船ハ汽船ト化シ飛脚ハ電信トナリ駕籠ハ瀛車トナルアリ其レ斯ノ如ク宇宙ノ事物ハ其ノ天然物ト人造物トヲ問ハス一トシテ變遷轉化セサル者ナシ而シテ政体獨リ依然トシテ改メサレハ其ノ大ニ人民ニ適モサルモ亦恠シム可キニ非ラサルナリ思フニ人民ハ猶家屋ノ如ク政体ハ建具ノ如シ然ルニ舊來ノ政体ヲ改メスシテ之ヲ開化進歩ノ人民ニ當テントスルハ恰モ戸障子及ヒ其他ノ古物ヲ以テ新規ノ家屋ニ充ツルニ異ナラス是レ亦其ノ用法ヲ誤リタル者ト謂フヘシ或ハ之ヲ他物ニ譬ヘンニ人民ハ猶童子ノ如ク政体ハ衣裳ノ如シ童子ノ益ス生長スルヤ亦其ノ衣裳ノ大サヲ變セサル可カラサルハ自然ノ勢ナリ然リ而シテ人民ハ全ク昔日ノ惡習ヲ脱シ社會漸ク開明ノ域ニ達セントスルニ臨ンテ依然トシテ其ノ政体ヲ變セサルハ所謂ル大人ヲ蓋フニ童子ノ服ヲ以テスルカ如シ其ノ政体ノ今日我邦ノ狀勢ニ適セサルモ亦宜ナラスヤ

英王 チャールズ 一世ノ王位ヲ奪ハレ佛王 ルイ 十六世カ其頭ヲ到ラレ英國ノ北米殖民地ヲ失ヒ秦ノ二世ノ天下ヲ失フモ皆當時政体ノ其ノ國情ニ適セサルノ致ス所ナリ政体ヲ撰ムニ其ノ國民ノ状態ヲ察セサルハ恰モ疾病ヲ知ラズシテ之ニ藥ヲ施シ海川ノ淺深ヲ測ラスシテ船舶ヲ浮ブルカ如シ苟モ藥ト名クヘキ者ハ如何ナル疾病ヲモ癒治シ船舶ト云ヘハ如何ナル海川タリヒ渡航スルヲ得ル者ト



思考スルハ危険モ亦甚シト謂フヘシ政体豈ニ獨リ如何ナ  
 ル社會ニテモ適當スルノ理アラソヤ  
 然ラハ則チ如何ナル方便ニ由テ以テ一國人民ノ情勢ヲ知  
 ルヘキ乎曰ク公議輿論是ナリ思フニ輿論ハ風雨針ノ如シ  
 天氣ノ善惡之ニ依レハ則チ判然タリ人民ノ情勢ハ當時ノ  
 輿論ニ依テ以テ之ヲ判別スルコトヲ得此故ニ航海者ハ風雨  
 針ヲ要シ政治家ハ輿論ニ依ルコトヲ要ス苟モ政治家ニシテ  
 輿論ニ依ラサルハ猶航海者ニシテ風雨針ニ依ラサルカ如  
 シ茫々タル大洋ニ在テ亦危険ナリト謂フヘシ我邦政府輿  
 論ヲ以テ人民ノ情勢ヲ判別スルノ方針トナスコトヲ知ラサ  
 ル乎吾輩大ニ惑フ所アリ識者幸ニ明解ヲ賜ヘ  
 綿糖共進會ノ意見(前号ノ續キ) 狩野元吉稿

又近頃中國岩國ヨリ得タル通信ニ曰ク我カ地方多年綿作  
 ナ以テ名アリ就中某村ニ於テハ一村舉テ該作ニ從事シ其  
 ノ收穫ヲ以テ容易ニ生計ヲ營ムコトヲ得タリシモ近年ニ至  
 テハ地價非常ノ高度大凡(五十圓位)ニ達シ實綿ノ收穫モ亦  
 其ノ割合ニ應ジテ増加セサルト之ヲ耕ス者ノ賃銀大ニ騰  
 貴(大凡二十錢ヨリ二十五錢)シタルトナ以テ該作ハ年々追  
 フテ益ス衰微ノ徴ヲ現ハスモノ、如シ之ニ反シテ米作ハ  
 地價ノ高度ナルト勞銀ノ騰貴シタルトニ拘ハラス近來運  
 輸ノ便大ニ開ケ從テ之ヲ他國ニ販賣スルノ甚々容易ナル  
 ニ至リタルヨリ其價俄ニ騰貴シ農夫ハ概皆米作ニ從事セ  
 ントスルノ意アルカ如シト是ニ由テ之ヲ觀レハ岩國地方  
 モ亦米作ニ利アリテ綿作ニ不利ナリト云フモ決シテ不可



ナキナリ

今ヤ印度綿作入費ト我邦ノ綿作入費トテ比較スルニ其間

甚大ナル差等アルヲ見ル試ニ左ノ一表ヲ閱覽セヨ

印度地價 一「エー」ル (我カ四反八)ニ付 平均百七十五弗

日本地價 四反ニ付 平均二百圓

印度勞銀 一人一日ニ付 平均十七「セント」

日本勞銀 同 平均二十二錢

印度金利 四朱乃至九朱

日本金利 一割以上

我輩ハ前段ニ於テ綿作ノ實地大ニ我風土ニ適スルアルモ

尙ホ往々外國ノ製産入費ニ對シテ割安トナルヲ能ハサル

ノ理由ヲ陳述シ之ヲ説明スルニ明治十二年橡木縣報告ヲ

以テシ今又日印兩國綿作入費比較表ヲ此ニ掲出シタルハ

此ノ報告并ニ比較表ヲ讀ミタル人ハ天保年度及ヒ嘉永年

度ノ實綿ハ當時米穀ニ對スレハ其價産高ク之ニ反シテ明

治年度ニ收獲シタル實綿ハ其價大ニ低キヲ知ルナラン其

價既ニ低シ現時我邦綿作ノ不利ニシテ米作ノ大ニ利アル

ヲ甚明瞭ナリ又我邦ノ地價ハ印度ノ地價ニ對スレハ其價

甚高ク我邦ノ勞銀ハ印度ノ勞銀ヨリモ一層高度ナルヲ并

ニ金利ノ如キモ彼我ノ間ニ於テ亦大ナル差等アルヲ了

知セシナルヘシ之ヲ要スルニ我邦ノ綿作入費ハ外國ノ綿

作入費ノ甚タ廉ナルニ若カサルナリ

其レ斯ノ如シ此時ニ當テ假令綿作ノ事業ヲ勸奨セントス

ルモ誰カ敢テ該作ニ從事スル者アラシヤ否該作ニ從事ス



ル者ナキハ即チ我邦ノ幸ナルノミ何トナレハ則チ我邦ニ  
 於テ強テ實綿ヲ殖産セシメ外國ノ輸入綿ト互ニ競争スル  
 ニ至ラハ其時コソ日用必需ノ綿ハ我邦ニ生スヘシト雖ヒ  
 其ノ結果ニ至テハ到底非常ニ價高ナル綿ヲ購求セサル可  
 カラサルノミナラス綿作ニ抛用スヘキ資本ヲ我邦ニ最モ  
 適當シタル他ノ殖産即チ米作ニ充用スヘキ者ヨリ引去ラ  
 サルヘカラサルニ至レハナリ是レ豈策ノ得タルモノナラ  
 ソヤ

蓋シ物産ノ最モ能ク我カ風土ニ適シ從テ其ノ産額ノ甚タ  
 多ク且ツ之ヲ獲ルニ最モ容易ナル者ハ即チ米ナリ而シテ  
 我國ノ米タル外國無比ノ良質ヲ有シ外國人モ亦漸ク其美  
 質タルヲ知リテ之レカ價格ヲ高位ニ置クニ至リタレハ我

カ米穀ノ輸出ヲ益ス擴張シ貿易ヲ平均ニスルハ此ノ時チ  
 棄テ其レ何ノ時ニカ在ル實ニ千歲逢フヘカラサルノ好時  
 機ナリ然ルニ論者ハ何故ニ我邦ノ綿ハ外國ノ綿ニ比較ス  
 レハ其價高ク外國ノ製産入費ハ何故ニ我邦ノ製産入費ニ  
 比スレハ甚低キヤチ知スシテ唯一概ニ此等ノ物産ヲ我邦  
 ニ繁殖セシムルハ我邦ヲシテ益ス富強ナラシムルノ良策  
 ナリト云フモノ、如シ嗚呼謬見ノ甚キ何ソ一ニ此ニ至ル  
 ヤ蓋シ斯ノ如キ空想論者ハ我輩カ與ニ論壇ニ立テ天下ノ  
 經濟ヲ論スルニ足ラサルモノナリ又他ノ一方ヨリ之ヲ考  
 フレハ今日我邦事業ノ精神ハ何レノ點ニ歸着シ我邦貿易  
 ノ主義ハ自由保護何レノ點ニ傾向スルヤチ知ラズシテ唯  
 我邦ニ一物ヲモ多ク生スレハ輸出ノ額ヲ増シ貿易ノ平均



ヲ得ント思フタルモノ、如シ是レ又財理ノ何物タルヲ知  
ラサル論ナリ蓋シ我政府カ今回綿糖共進會ヲ開キタルノ  
意ハ決シテ論者ノ如キ意想ニ基ク者ニ非ラス唯之ヲ一場  
ニ集メ其精粗美惡ヲ互ニ比評シ今日我邦事業ノ才智ハ何  
ノ點ニ達シタル歟ヲ知ラントスルニ止マルヘシ若シ然ラ  
スシテ政府益ス之ヲ内國ニ殖産セシメントセハ我輩ハ果  
シテ其好結果ヲ得ルヤ否ヲ知ラサルナリ

附言砂糖殖産ノ道ニ就テハ我輩未ダ精細ノ調査ヲ終  
ラサルヲ以テ他日ヲ待テ別ニ之ヲ論セントス(畢)

國政論第一回

平田八郎演說

余ノ不學無識ヲ以テ聽衆君子ノ面前ニ於テ漫ニ鄙懷ヲ吐  
露セントスル心竊ニ之ヲ恥ツ然リト雖モ余モ亦嚶鳴社員

ノ末ニ列スルヲ以テ今日此堂ニ上リ諸君ヲ見ルノ榮ヲ得  
ル如何ンソ喜ンテ鄙意ヲ陳セサルヲ得ンヤ故ニ不肖淺劣  
ヲ願ミス茲ニ國政論一篇ヲ演說セント欲ス  
見ヨ々々六合溟漠究極スル所ナキヲ見ヨ人類ノ賴テ以テ  
生息スル此ノ地球ノ如キハ雷ニ河海ノ一滴ノミ夫ノ物類  
ノ繁キ事端ノ多キ景象ノ夥シキ固ヨリ枚擧ス可カラスト  
雖モ天象人事一トシテ規律ノ有ルアリテ之カ秩序ヲ保タ  
サルモノナシ而シテ此ノ規律ナルモノハ英語ニ所謂ル(ナ  
チアルロウ)即チ天理天律ト稱スル者ニシテ事物ノ然ラサ  
ルヲ得サル所以ノ理ナリ夫ノ草木ノ花ヲ生シ實ヲ結ヒ鳥  
獸蟲魚ノ飛動匍遊スル等皆此ノ天理天律即チ事物ノ然ラ  
サルヲ得サル所以ノ理ニ由ラサルハナシ



夫レ然リ入類ノ相聚マリ相結フモノハ稱シテ邦國ト謂フ  
 而ノ邦國ナシテ其ノ秩序ヲ紊ラス治安ヲ保タシムル爲メ  
 規則ヲ設ク之ヲ國法ト言フ抑モ國法ナルハ人ノ制定スル  
 モノナリト雖モ國歩ノ先後ニ從ヒ文化ノ開否ニ應シ屢々  
 變更セサルヲ得サルハ即チ夫ノ天理天律ニ基スルモノニ  
 シテ所謂事物ノ然ラサルヲ得サル所以ナリ若シ果シ然ラ  
 サレハ必ラス非常ノ災害ヲ招ク者アラン是レ即チ何法タ  
 ルヲ論セス昨是今非彼善此惡地方ノ狀態ト時勢ノ變遷ト  
 ニ由テ其宜シキヲ異ニシ未ダ曾テ千古一定ノ法律ナキ所  
 以ナリ之ヲ概言スルニ開化未ダ進前セサル片ハ國法甚ダ  
 疎惡ニシテ制度亦頗ル簡易ナリ然ルニ文明漸ク進歩スル  
 ニ應シテ國法モ亦彌ヨ詳密ヲ加ヘ制度從テ繁雜ナルニ至

リ陳チ去リ新ニ移リ其ノ變革實ニ極リナシ蓋シ其制度ヲ  
 變革スルヤ固ヨリ時勢ノ然ラサルヲ得ス事情ノ止ムヘカ  
 ラサルニ基クキハ必ラス一般社會ニ大ナル利益ヲ及ホス  
 モノアリ若シ之ニ反シテ時勢ノ然ラサルヲ得ス事情ノ止  
 ム可カラサルニ至リテ因循姑息徒ニ舊慣ヲ株守シテ制度  
 ナ改革スルコトナケレハ亦非常ノ大動亂ヲ招クノ恐ナキニ  
 非ラス昔者(カトリック)教法當サニ改正スヘクシテ而シテ改  
 正セス教法三十年ノ禍亂ヲ招キ英佛政法當サニ改革スヘ  
 クシテ而シテ改革セス遂ニ王ヲ廢シ君ヲ弑スルノ殘況ヲ現  
 ハセリ近クハ徳川政府宿弊重疊宜シク改革スヘクシテ而  
 シテ改革セス遂ニ其霸業ヲ失墜スルニ至リリ豈ニ慎戒セザ  
 ルベケンヤ且ツヤ時勢民情ノ如何ヲ察セス漫リニ新法ヲ



制定スル者ノ如キモ亦必ラス失敗ヲ取ルアリ現ニ彼ノ佛  
 國ノ如キ其鮮血ヲ漑テ北來ノ共和政體ヲ模倣シ而シテ其  
 業久カラスシテ地ニ落チ又埃及國ハ徒ラニ歐亞ノ文物制  
 度ヲ擬シテ今日ノ衰運ヲ致シニ非ラスヤ惟フニ是等ノ  
 失敗ヲ取ルモノハ他ナシ皆時勢ノ止ム可カラサルヲ得ス  
 事物ノ然ラサルヲ得サルノ理ニ背悖スレハナリ爲政者タ  
 ランモノ豈ニ慎戒セサルベケンヤ  
 今ヤ我國維新日猶淺シ而シテ夫ノ廢藩置縣等ノ如キハ所  
 謂時勢ノ然ラサルヲ得ス事情ノ己ム可ラサルモノニシテ  
 其改革スヘキヲ改革シ千古無比ノ果斷タル固ヨリ余輩ノ  
 稱讚ヲ俟タス其他善政美舉算フルニ暇アラスト雖ヒ如何  
 セン智者ノ千慮一失アリ愚者ノ千慮一得アルノ理ニシテ

余輩不肖ト雖ヒ我カ政府ノ處置ニ就テ聊反對ノ意見ナキ  
 能ハサル者アリ故ニ余ハ所謂時勢ノ然ラサルヲ得ス事情  
 ノ止ム可ラサルニ出ルノ處置ト其ノ然ラサル所ノ者トナ  
 舉ケテ一々縷陳セント欲スト雖ヒ議論頗ル冗長多岐ニ涉  
 リ或ハ聽衆諸君ノ欠伸ヲ招クノ恐アルヲ以テ其細目ノ如  
 キハ之ヲ他日ノ演說ニ譲リ本日ハ僅ニ其ノ一班ヲノミ演  
 シテ茲ニ口ヲ閉サスモ亦事情止ムヲ得サルノ類乎

東京神田區美土代町二丁目一番地

兵庫縣士族

編輯主任 青木匡

同日本橋區元柳町十四番地寄留

青森縣士族

出版人 根津親徳

假本局

求友社

東京府平民

大平三  
 同京橋區銀座二丁目廿一番地

販行人

西宮松之助  
 同銀座四丁目十番地



弊社雜誌ノ儀ハ代價並ニ遞送税トモ前金ニ御遣シ無之候テハ遞送致サレル社則ニ有之候間何部分ニテモ御見込次第前金ヲ以テ御注文奉冀候也  
 壹冊定價五錢 五冊前金二十二錢五厘 十冊前金四十三錢 二十冊前金八十錢  
 但シ府外ノ分ハ別ニ郵税申受候

東京銀座四丁目 朝野新聞社 同神田區雉子町三十二番地 巖々堂  
 同日本橋區藥研堀 報知社支店 同虎ノ門外琴平町 靜海堂  
 同日本橋區元大坂町 法木德兵衛 同芝區三田同朋町 靜霞堂  
 同淺草區元鳥越町廿一番地 共致社 同芝源助町 春陽堂  
 橫濱太田町二丁目 伊勢屋梅藏 取次所 同芝源助町 春陽堂  
 東京銀座四丁目 博聞社 橫濱野毛町二丁目 鈴木木糸吉  
 同麴町區三番町 杉田秀之助 石川縣金澤尾張町 牧野作平  
 同牛込神樂坂壹丁目十番地 積善堂 大坂太島中壹丁目 靜雲舍  
 同表神保町九番地 大黒屋金之助 岐阜大田町 春陽堂  
 同赤坂裏壹丁目十六番地 赤川五平 信州松本南深志町 窪田重平  
 同本郷區本郷四丁目十番地 高橋屋 大坂本町四丁目 岡島眞七  
 淺草並木町二十六番地 湊屋小兵衛 相州橫須賀旭町 窪田眞七  
 日本橋區室町三丁目 秋山茂左衛門 西京新極藥師下ル 大塚靜喜  
 同兩國吉川町二番地 大黒屋平吉 下総千葉 內國通運會社

明治十三年第四月十三日刊行

- 内閣分離論
  - 社會黨豫防ノ策(前号ノ續キ)
  - 支那恐ル、ニ足ラス
  - 法律上ノ成語定ム可カラス
- 草間時福  
 室原重福  
 東直之助  
 丸山名政

吉田次郎校閱  
 青木匡編輯  
 櫻鳴雜誌  
 第十二號





例言

- 一本誌嚶鳴ヲ以テ名クル者ハ嚶鳴社員ノ議論文章ヲ掲載スルガ爲メナリ然レモ其意見ニ至テハ必ラズシモ衆社員ノ賛成ヲ得タル者ニ非ズ要スルニ其社員タル一箇人ノ私論ニ過ギサルノミ
- 一本誌ノ目的ハ社員ノ論說ヲ集録シテ廣ク世人ニ問ハントスルニ在レモ若シ卓論偉說アラバ何人ヲ論セズ其投寄ヲ待テ之ヲ採收ス可シ
- 一本誌刊行ハ毎月二回ヨリ少カラズ五回ヨリ多カラズ

嚶鳴雜誌第十二號

内閣分離論

草間時福演說

諸君ニ余ハ諸君カ業既ニ内閣分離ノ問題ニ向テ適當ノ觀察ヲ下シ而シテ其利害ノ在ル所明晰セラル、ヲ信ス且ツ此ノ問題ハ一時新聞紙及ヒ演說場ノ論說ヲ一點ニ吸集セシ程ノ勢力アル者ナレハ諸君ノ注意モ殊ニ深カルヘキハ余ノ決シテ疑サル所ナリ然レモ余ハ今日諸君ニ相會スルノ機會ヲ幸トシテ此問題ニ向テ聊カ鄙見ヲ吐露スルノ榮キ得ントス

抑内閣分離論ナル者ハ諸君カ既ニ明悉セラル、如ク今ヲ去ル五年前舊參議某氏ノ發言ニ創基スル者ニシテ今日俄ニ湧出シタル者ニモ非ラズ只本年初メテ之ヲ實施シタ



ル迄ノコナリト謂ベキナリ然レモ某氏ノ分離論ト今日ノ  
 分離トハ其實果シテ相吻合スル者ナルカ余ハ未タ俄ニ其  
 然ルヲ保ツ能サレハ姑ク之レヲ論外ニ附ス可シ又其分離  
 ノ未タ全カラスシテ外務開拓兩長官ノ尙ホ兼任參議タル  
 ハ既ニ世人ガ一般ニ疑團ヲ抱ク所ナリト雖モ外務開拓ノ  
 二務ニ關シテハ未タ適當ノ人ヲ得ス故ニ姑ク之レヲ兼  
 任トシ除カニ其人ヲ待テ分離專任ノ實ヲ舉クルノ主意ナ  
 リト謂ハハ余ハ亦之ヲ論セザル可キナリ然ラハ則チ余ハ  
 内閣分離ニ就キ何ヲカ論セン曰ク今日諸君ニ向テ演述セ  
 ントスル所ノ者ハ此ノ内閣分離ハ政府ノ責任ヲ輕減セシ  
 ムルノ傾斜無キ歟ノ一點ナリ

草間報論

蓋シ政府ノ行政事務ヲ種別シテ之レヲ諸省長官ニ負擔セ

シムルハ行政上ノ便益ヲ謀ルニ出ル者ニシテ何レノ國ノ  
 政府ニテモ行政ノ事務ハ必ラス之レヲ諸省ニ分割シテ整  
 理セシメサルハナシ然レモ行政ノ事務タル立法ノ事務ト  
 自ラ異ナル所アリ其上官ト下官トヲ論セス總テ行政官吏  
 ハ各自一個ニ專任ノ職務アリ故ニ其職務ハ誰レノ負擔ス  
 ル所及ヒ其責任ハ誰レノ有スル所タルコト之レヲ詳言スレ  
 ハ彼條ハ誰レカ成功シ此件ハ誰レガ失敗セシコトノ如キハ  
 明々白々ナラサル可カフズ若シ然ラスシテ事ヲ敗ルモ誰  
 ナルヲ知ル能ズ事ヲ成スモ亦誰タルヲ辨スルナケレハ非  
 難讚賞共ニ歸スル所ナキニ至リ總ヘテ曖昧模糊的ニ歸セ  
 サルヲ得サルナリ然リ而シテ責任ナル者ハ其他一般ノ苦  
 痛ト其性質ヲ同シ之レヲ分テハ益ス輕ク之レヲ集ムレハ



愈ニ重シ故ニ俗諺ニ八人前ノ恥チチ一人ニテカクト謂フ  
 ハ苦痛ナル者ハ之レヲ集ムレバ重キチ加フルチ示ス者ナ  
 リ其レ然リ責任モ亦之ヲ負擔スル者ノ一人二人將タ三人  
 ト益ス多クシテ愈ニ其責任ヲ輕減シ初メニハ其人ノ行爲  
 ナ支配スル程ノ力アル責任モ之レヲ數個ニ別テハ遂ニ其  
 効力ヲ失フニ至ル可シ之ヲ概言スルニ責任ナル者ハ轉比  
 例ノ割合ニ同シク之ヲ負擔スル人ノ益ス多クシテ愈ニ減  
 スル者ナリ故ニ行政官ノ職務ハ其ノ高下難易ニ從テ之ヲ  
 隸屬ニ分ツハ甚タ可ナリト雖モ必ラス其一省ノ事務ニ關  
 スル非難賞讚ヲ總テ一身ニ負擔スル所ノ首官ナカル可カ  
 ラサルナリ何トナレバ若シ其責任ヲ負擔スル者單一ナラ  
 サレハ互ニ之ヲ他人ニ讓リ若シ不正不適當ノ所置アルモ

是レ彼ノ所爲ナリ我レ之レヲ知ラズト云フノ遁辭チシテ  
 甚タカアラシムルノ弊害アレハナリ  
 我政府ノ責任ハ從來甚タ微薄ニシテ動モスレハ人民ハ責  
 任ノ歸スル所ニ失迷スルノ事情アルハ既ニ世論ノ之レヲ  
 論議スルチ怠ラサル所ナリ然ト雖モ從前ノ制度即チ内閣  
 分離以前ハ其責任ノ微薄ナルニモ拘ラズ内務ノ事ニ關ス  
 ルノ責ハ内務卿之レニ當リ大藏ノ事ニ屬スルノ責ハ大藏  
 卿之レニ任シ陸軍文部各其主任ノ卿之レカ責任ヲ負フノ  
 姿アリ好シヤ未タ法律上確乎タル責任ナキモ德義上輿論  
 ニ對シ各其責任ヲ負擔シタルノ實アリキ何トナレハ其主  
 任單一ニシテ未タ内務卿外ニ内務ノ上官ナク陸軍卿上ニ  
 陸軍ノ上官アレサルチ以テ其一省ノ責任ハ自然ト其卿ノ



負、擔、ス、ル、外、ナ、キ、ニ、ヨ、リ、人、民、ノ、責、任、ヲ、歸、ス、ル、モ、亦、自、ラ、迷、ッ、  
 所、少、ナ、カ、リ、シ、テ、以、テ、ナ、リ、然、ル、ニ、内、閣、分、離、後、ハ、更、ラ、ニ、内、閣、  
 ニ、六、部、ヲ、置、カ、レ、其、職、ヲ、敢、テ、各、省、ノ、行、政、ニ、干、渉、セ、サ、ル、ニ、モ、  
 セ、ヨ、其、實、際、ヲ、觀、察、シ、去、ラ、ハ、内、務、卿、上、ニ、又、一、ノ、内、務、上、官、ヲ、  
 置、キ、陸、軍、省、外、ニ、又、一、ノ、陸、軍、省、ヲ、置、キ、タ、ル、カ、如、キ、ノ、形、跡、ア、  
 ル、ナ、奈、何、セ、ン、若、シ、果、シ、テ、然、ラ、ハ、人、民、ノ、惑、ヤ、益、ス、甚、シ、例、ヘ、  
 ハ、内、務、省、ニ、シ、テ、其、處、置、與、論、ト、背、馳、ス、ル、カ、如、キ、ア、ラ、ン、ニ、與、  
 論、ハ、其、責、任、ヲ、内、務、卿、ニ、要、メ、ン、カ、内、務、卿、ハ、之、レ、内、閣、内、務、部、  
 ノ、知、ル、所、ナ、リ、我、レ、之、レ、ヲ、知、ラ、ス、ト、謂、フ、然、ラ、ハ、之、レ、ヲ、内、務、  
 部、專、任、ノ、參、議、ニ、歸、セ、ン、カ、内、務、部、專、任、參、議、ハ、之、レ、内、務、卿、ノ、  
 知、ル、所、ナ、リ、我、レ、之、レ、ヲ、知、ラ、ス、ト、謂、フ、蓋、シ、如、斯、ノ、事、實、ハ、決、  
 テ、其、ノ、無、キ、ヲ、信、ス、ト、雖、モ、若、シ、疑、惑、ヲ、茲、ニ、起、コ、セ、ハ、斯、ク、觀、

察、ス、ル、コ、ト、ナ、キ、能、ハ、ザ、ル、ナ、リ、故、ニ、若、シ、此、内、閣、分、離、ナ、ル、者、ハ、  
 内、閣、諸、相、ヲ、シ、テ、互、ニ、其、責、任、ヲ、讓、ル、ノ、便、ア、ラ、シ、メ、人、民、ヲ、シ、  
 テ、責、任、ヲ、要、求、ス、ル、ノ、點、ノ、單、一、ナ、ラ、サ、ル、ニ、苦、マ、シ、ル、ノ、不、便、ア、  
 リ、ト、評、ス、ル、者、ア、ル、モ、余、ハ、之、レ、カ、惑、ヲ、解、ク、ニ、苦、マ、サ、ル、ヲ、得、  
 サ、ル、ナ、リ、然、レ、モ、專、任、ノ、内、閣、參、議、新、任、ノ、省、卿、ト、ハ、均、ク、一、等、  
 官、タ、リ、其、權、力、固、ヨ、リ、輕、重、ナ、カ、ル、ヘ、シ、ト、雖、モ、先、キ、ニ、沼、間、氏、  
 カ、演、述、セ、ラ、レ、タ、ル、如、ク、夫、ノ、護、衛、兵、ノ、有、無、ヲ、觀、察、セ、ハ、輿、論、  
 ノ、責、任、ヲ、歸、ス、ル、所、モ、又、彼、レ、ニ、在、リ、テ、此、ニ、在、ラ、ザ、ル、カ、如、シ、  
 人、民、ノ、惑、ヤ、益、ス、甚、シ、ト、謂、ヘ、シ、去、レ、ハ、内、閣、分、離、ナ、ル、者、ハ、定、  
 メ、テ、施、政、ノ、便、益、モ、ア、ル、ベ、シ、將、タ、利、世、安、民、ノ、道、ニ、於、テ、深、ク、  
 見、ル、所、ア、リ、テ、然、ル、者、ナ、ル、ベ、シ、ト、雖、モ、廟、議、深、遠、余、ハ、不、幸、ニ、  
 シ、テ、未、ダ、其、ノ、果、シ、テ、然、ル、ヲ、知、ル、能、サ、ル、ヲ、奈、何、セ、ン、嗚、呼、内、



閣分離ナル者ハ果シテ此後政府ノ責任ヲシテ輕減セシムル傾斜ナキカ是レ余ノ思想ヲシテ茲ニ吸集セシムル一疑問タリ

社會黨豫防ノ策(前号ノ續キ)

吾輩ハ既ニ前号ニ於テ社會論ハ今ヤ殆ント全歐洲ニ蔓延シ又將ニ我邦ニ傳染セントスルノ恐レアレハ吾人ハ宜シク之ガ豫防ノ策ヲ討究セサル可カラサルヲ論シタリ而シテ社會論ノ一大根據トスル所ハ即チ人間ハ皆同等タル主義ニシテ其說ノ蔓延ヲ助クル者ハ他人ノ富榮ヲ羨怨スルノ情即チ是ナリ蓋シ他人ノ富榮ヲ羨怨スルノ情ハ唯其說ノ蔓延ヲ助クルノミナルカ故ニ若シ其說ノ根據ヲ破壊セハ固ヨリ同說ノ天下ニ蔓延スルノ憂ナシ故ニ社會黨

ノ傳染ヲ防クノ策ハ單ニ其說ノ根據タル人間同等ノ說ヲ排撃シ以テ其ノ跡ヲ社會ニ絶タシムルノ一事ニアルノミ而シテ人間同等ノ說ヲ排撃セントセハ蓋シ平凡通常ノ說ノ以テ當ル可キモノニ非ス必スヤ非常ノ新論卓說ヲ以テセズンハアラサルナリ

抑人間同等說ノ歐洲ニ於テ其ノ端緒ヲ發シタルハ遙ニ古代ニアリ然レモ其說ノ漸ク一般ニ行ハルニ至リシヨリ今日ニ至ルマテ未タ幾星霜ヲ經過セズ且ツ其ノ說ノ如キ固ヨリ万物成リ行キノ實驗ヨリ來リシ者ニアラス唯一時一局ノ現像ニ依テ成立スル者ニ非ラサルハナシ故ニ人生變進ノ理ヲ辨知スル者ノ如キハ決シテ信セサル所ニシテ之ヲ信スル者ハ啻ニ凡夫野人ニ過キサルノミ加之更ニ一



歩ヲ進メテ同等トハ如何ナルモノヲ指稱スルヤテ問ヘハ  
 即チ人權物權ノ二ツハ吾人ノ固有セル者ニテ各人ノ間ニ  
 決シテ差等アルヲ理ナシト云フニ過キス然リト雖モ其人  
 權物權ナル者ハ果シテ人間固有ノ者ニシテ各人ノ間ニ差  
 等アルノ理ナキヤ是レ未タ容易ニ信ス可カラズ嘗ニ信ス  
 可カラサルノミナラス吾輩ハ斷然其妄說ナルヲ知ル試ニ  
 ニ活物世界ノ状態ヲ見ユ強キハ弱キヲ制シ大ハ小ヲ壓ス  
 ルノ勢アルハ禽獸魚鼈草木ニ至ルマデ一トシテ皆然ラサ  
 ルハナシ是レ万物自然ノ道理ナリ豈ニ獨リ人間ニ於テ然  
 ラサルノ理アラシヤ故ニ亞非利加ノ土人ノ有スル人權物  
 權ハ英人ノ有スル人權物權ニ等シキヲ得ス亞米利加ノ土  
 蕃ノ有スル同權ハ亦合衆國人民ノ權ト相對較スルヲ得サ

ルナリ現ニ亞非利加及ヒ亞米利加土人ノ數ハ曾テ白人ノ  
 抑壓ヲ受ケサル以前ノ數ト比較セハ殆ント三分ノ二ヲ減  
 シタリト云フ其レ斯ノ如ク人口増加ノ通理ニ反對シテ其  
 土人ノ數ノ益ス減少スルニ至リシハ即チ人權物權兩ナカ  
 ラ等シキヲ得ス愚弱者ノ益ス智強者ニ壓セラル、ノ實証  
 ト云フヘニ又我邦ニ於テモ平氏盛ナルノ時ハ源氏之レ  
 ト二權ヲ競フヲ得ス源氏盛ナル時ハ平氏亦之レト二權  
 ヲ爭フヲ得ス帝王ノ權勢盛ナル時ハ人民ノ二權全キヲ  
 得ス人民ノ權勢盛ナル時ハ帝王ノ二權亦甚危シ之ヲ要  
 スルニ智強者ハ益々愚弱者ヲ壓抑シ獨リ其ノ權勢ヲ逞フ  
 スルノミ是レ自然ノ道理ナリ然ラハ則チ夫ノ人權物權ノ  
 二ツハ各人ノ間ニ於テ決シテ差等ナシトス可カラズ既ニ



各人ノ間ニ於テ差等ナシトセハ又何ンソ人間ハ同等ナリト云フコトヲ得ンヤ是故ニ一時一局ノ現像ニ依リテ成立セル人間同等ノ説ト彼ノ万物成行キノ實驗上ヨリ來リタル人生變進ノ理トハ常ニ相兩立セサル者ナリ眞理起レハ空説止ム人生變進ノ眞説起レハ人間同等ノ空説ハ消滅センノミ苟クモ愛國ノ心アル者務メテ人生變進ノ説ヲ擴張セハ人間同等ノ説ヲシテ其跡ヲ社會ニ絶タシムルモ又何ノ難キコアラシヤ夫レ此ノ如ク社會論ノ一大根據タル人間同等ノ説ヲシテ一タヒ其跡ヲ社會ニ絶タシメハ社會黨ノ説ハ其レ何ニ依リテ存スルヲ得ン故ニ余輩ハ斷シテ曰ハントス社會黨ノ傳染ヲ防絶スルノ得策ハ力メテ人生變進ノ説ヲ擴張スルニアリト

(畢)

支那

東直之助演説

支那恐ルベキヤ否ノ問題ハ今日ニ於テ漸ク陳腐ニ屬シタルガ如シト雖モ事實ニ就テ之ヲ考フルニ寔トニ目下重要ノ問題タルカ故ニ余ハ今日敢テ諸君ニ向テ之ヲ演述セント欲ス然レモ余ハ本題ニ入テ演説ヲ爲スニ先チ傍聽諸君ノ注意ヲ請ハサルヲ得サル者アリ曰ク例ハ爰ニ軀幹長大年齒七八十ニシテ氣力衰弱容貌呆然タル老人ノ睡臥シルアリ而シテ其老人ノ祖先ハ甚タ賢明ナリ其老人ハ能ク灑掃若クハ奔走ノ苦ニ堪ヘリ諸君ハ此ノ老人ニ就テ如何ナル感想ヲ懷クカ余輩ハ斷シテ曰ハシテ老人決シテ恐ルニ足ララスト既ニ其老人ノ恐ルニ足ラサルヲ知ル支那亦決シテ恐ルニ足ラサルヘシ今ノ支那ヲ論スル者動モスレハ曰ク支



那ハ亞細亞ノ一大國ナリ豈ニ恐レサル可ケンヤト是レ境  
 域ノ大小廣狹ヲ以テ其ノ國ノ強弱ヲ測ラントスルノ淺見  
 ニシテ恰モ老人ノ軀幹長大ナルカ故ニ之ヲ恐ルカ如シ  
 焉ソ其ノ理アラソヤ又曰ク支那ハ亞細亞ノ舊國ナリ故ニ  
 大ニ恐ルヘシト是レ亦建國ノ新舊ヲ以テ他邦ヲ評スル者  
 ニ過キス若シ其レ建國ノ新舊ヲ以テ國ノ強弱盛衰ヲ知ル  
 事ヲ得ル者トセバ埃及及ヒ希臘其ノ國ノ如キハ今日ノ歐  
 州諸國ヲシテ大ニ恐懼セシムルノ勢力ヲ保タサル可カラ  
 サルノ道理ナリ是レ恰モ人ノ才愚強弱如何ヲ論セズシテ  
 其ノ年ノ老タルカ故ニ大ニ之ヲ恐ルニ殊ナラス又曰ク  
 支那ノ上等人民ハ概テ皆寬裕ナリ即チ支那恐ル可キノ一  
 事ナリト是レ支那人民ノ寬裕ナルニ非ラス唯論者カ常ニ

支那ニ對シテ畏懼ノ念ヲ抱クカ故ニ夫ノ軀幹長大容貌呆  
 然タル老人チ一瞥シテ是レ寬裕ノ大人ナリト妄想スルニ  
 異ナラサルナリ又曰ク支那ハ猶臥龍ノ如シ其ノ一旦醒起  
 スルノ時ニ至ラハ如何ナル變動チ亞細亞ノ大局面ニ起ス  
 ヤ測ル可カラズ是レ恐ル可キノ一事ナリト吁嗟何等ノ妄  
 想ナルソヤ蓋シ國土ヲ評スルニ臥龍ナル文字ヲ以テスル  
 ノ果シ適當ナルキハ地球上到ル所トシテ臥龍的ノ國土ナ  
 ラサルハナシ之ヲ此レ恐ルハ恰モ一老人ノ睡臥セシルヲ  
 見テ此人若シ其ノ眠チ覺マサハ如何ナル動作チナスヤ知  
 ル可カラズトテ大ニ之ヲ恐怖スルニ異ナラサルナリ又曰  
 ク支那人ノ能ク勞苦ニ堪ヘ艱難ヲ忍フハ世人ノ一般ニ了  
 知スル所ニシテ西人ハ雇テ以テ水夫若クハ鑛夫トナセリ



是レ亦恐ルヘキノ一事ナリト余輩ハ以爲ラク是レ奴隸ノ  
 忍耐ノミ、豈ニ克ク乃公ヲシテ恐レシムルニ足ランヤ又曰  
 シ支那ハ西洋諸國ニ先テ火藥及ヒ絹布等ヲ發明シ并ニ禮  
 教ヲ重シタルノ國土ナリ其ノ今日ニ於テ振興ノ氣力ニ  
 乏キモ古代ノ文明ノ再ヒ開發スルニ至ランモ亦知ル可カ  
 ラス是レ豈ニ恐レザル可ケンヤト余輩ハ以爲フク昔時支  
 那國ノ文明ナルカ故ニ大ニ之ヲ恐怖スルハ恰モ祖先ノ大  
 ニ賢明ナルヲ以テ其ノ子孫モ亦必ス賢明ナラント臆斷シ  
 而シ堯舜ノ子ニ丹朱商均アルヲ知ラサルカ如シト  
 以上陳述スル所ニ由リ論者ハ支那決シテ恐ル、ニ足ラサ  
 ルヲ了了解セシナラン而シ現時支那國ノ情勢ヲ觀察スル  
 ニ全國政府ハ常ニ因循政策ヲ取テ動カス同國人民ハ常ニ

守舊主義ヲ持シテ惑ハス此ノ二原因ノ上文ニ陳示セル道  
 理ノ外ニ存スルアリ愈々支那國ノ決メ恐ル、ニ足ラサル  
 ナ知ルヘシ  
 論者或ハ曰ハン汝ノ如キハ支那現時ノ狀勢ニ就テ觀察ヲ  
 下シタルニ過キス將來ニ於テモ亦支那果シテ恐ル、ニ足  
 ラサル乎ト余輩答テ曰ハン版圖ノ至大ニシテ且ツ異族ノ  
 人民ノ混居セル支那其國ノ如キハ永ク現時ノ狀勢ヲ保ツ  
 可ク得ス其勢遂ニ必ス分裂シサルヲ免レヌ其レ然リ支  
 那ハ即チ其名固ヨリ帝國タリト雖ヒ其實ハ寧ロ合衆聯邦  
 ト稱スルノ大ニ適當ナルニ似タル者アリ故ニ早晚之レカ  
 分裂ヲ招クノ恐レナシトセズ國既ニ分裂ス何ソ之ヲ恐ル  
 、ニ足ランヤ論者又或ハ曰ハン支那國ニシテ萬或ハ魯國



ニ并吞セラル、ノ變アラハ其ノ搏噬ノ餘焰ハ焉ソ我ニ及  
 ハサルヲ得ンヤト其レ然リ豈ニ其レ然ランヤ試ニ魯國ノ  
 現狀ヲ見ニ虛無黨ハ日ニ月ニ國內ニ蔓延シ今帝「亞歷山」ノ  
 如キハ該黨ノ爲ニ暗殺セラレントスルコト既ニ七回ノ多キ  
 ニ及ヘリ其レ斯ノ如ク帝黨ト虛無黨トノ軋轢ハ常ニ休止  
 スルコトナク其國恰モ累卵ノ危キニ臨ム者ノ如シ何ソ他國  
 ナ謀ルニ違アラシヤ又何ソ他國ヲ并吞スル如キコト得ン  
 ヤ否、仮令之ヲ并吞セントスルモ歐洲諸國ノ間ニ夫ノ所謂  
 均權ノ行ハル、アリ豈ニ英佛及ヒ獨國カ徒ニ魯國ヲシ  
 テ亞細亞ノ一大帝國タル支那國ヲ并吞スルノ慾望ヲ達セ  
 シムル如キノ拙策ニ出ルコトヲ爲サンヤ  
 其レ斯ノ如ク支那ハ現時ニ於ケルモ將タ將來ニ於ケルモ

吾人カ決シテ恐ルヘキノ實ナシ然レモ汕斷大敵ナル俗諺  
 ハ大ニ吾人ノ戒シムヘキ所ナリ諸君ニ諸君ハ設令支那ノ  
 恐ル、ニ足ラサルヲ知ラル、モ敢テ其ノ戒嚴ヲ忽ニスル  
 コトナカラシムハ今余ガ此ノ演說ヲ終ルニ臨ミ切ニ諸君ノ注  
 意ヲ請フ所ノモノナリ  
 法律上ノ成語定ム可ラス 丸山名政郵送  
 有名ナル高梨哲四郎氏ハ去ル十四日ノ嚶鳴社演說會ニ於  
 テ法律上ノ成語定メサルヘカラスト云フ論題ヲ演ヒラレ  
 タリ余輩氏ノ說ヲ聞キ大ニ疑フ所アルヲ以テ茲ニ斯ノ稿  
 ナ草シテ高梨氏ニ質サントス  
 氏曰ク法律上ノ成語ヲ定ムルハ二個ノ利益アリ第一原  
 被對審ノ際ニ當リ無用ノ贅語ニ費サ、ルヲ以テ訴訟ヲ速



決スルヲ得第二不正代言人ハ足テ法庭ニ入レサルニ至ル  
 へシ何トナレハ若シ高尙ナル成語ヲ以テ互ニ辨論セサル  
 へカラストスルキハ無學無識ナル代言人ハ遽カニ其間ニ  
 周旋シテ惡計ヲ逞フスルヲ得へカラサレハナリ是レ令セ  
 スシテ代言人ノ陋習ヲ一洗スルノ得策ナルカ故ニ余ハ速  
 ニ成語ヲ定メラレシヲ希望ス云々ト  
 其第一義ナル法律上ノ成語ヲ定ムルキハ裁判ヲ速決スル  
 ヲ得ルトノ主意ハ余輩モ亦氏ト説テ同フスレモ其第二義  
 即チ不正代言人ヲ屏斥スト云フノ段ニ至テハ實ニ氏ノ説  
 ノ不可思議ナルニ驚カサルヲ得サルナリ  
 高梨氏ニ請フ少シク省思スル所アレ抑モ氏ハ法律上ノ成  
 語ヲ定メ法庭ニ於テハ之ヲ用非サルへカラスト云ハレタ

レモ其法庭トハ如何ナル法庭ヲ指ス乎之ヲ民事裁判所ニ  
 限ルノ意乎將タ刑事ノ裁判へモ及ホスノ意乎若シ刑事ノ  
 裁判へモ及ホスノ意ナリトセハ我邦人民ノ訴訟權ハ地ヲ  
 掃フニ至ルへシ其故如何トナレハ氏モ知ラル、如ク我邦  
 ニテハ未タ刑事裁判ニ代言人ヲ許サレヌ又辨護人ノ制ナ  
 シ此ノ時ニ際シ突然夫ノ漢語調ノ成語ヲ以テ辨論セサル  
 へカラズトセハ刑事ノ被告人ハ如何ナル手段ヲ以テ已レ  
 ノ自由權利ヲ保護スルヲ得へキゾ左ナキダニ公場ニ立テ  
 罪科ノ有無ヲ辨争スルハ我日本人ノ短所ナルニ更ニ又  
 成語ヲ使用セサルへカラストセハ我邦ノ刑事裁判所ハ罪  
 人ヲ羅織スルノ場所タラサルナキヲ得ンヤ  
 且ツ假令刑事裁判ニ代言人ヲ許サレ辨護人ヲ置カレタリ



トスルモ余輩ハ成語ヲ制定スルノ正理ニ適スルヲ見サル  
 ナリ蓋シ誰レ彼レヲ問ハス訴訟權ヲ有セサル人ハアラサ  
 ルヘシ而シテ人々專業アルヲ以テ萬人ガ萬人皆法律ニ通シ  
 辨説ニ巧ナル能ハス是ニ於テ乎代理人ナルモノ有リ以テ  
 法律ニ暗ク口辨ニ訥ナル者ニ代リテ其權理ヲ申暢スルヲ  
 得セシム故ニ一般人民ハ委託者ニシテ代理人ハ被託者ナ  
 リ代理人ニ委託スルト否トハ委託者ハ意中ニアリテ他人  
 ハ左右スヘキニアラス然ルニ今成語ヲ定メテ之ヲ使用ス  
 ルトトセハ取モ直サズ一般人民ニ令シテ成語ニ通シタル  
 代理人ニ委託スルニ非レハ出訴ノ權ナシト云フニ同シ更  
 ニ一步ヲ進メテ云フキハ成語ニ通セサル者ハ法庭ニ出ル  
 勿レト命スルカ如シ法庭ヲ設ケテ人民ノ權理ヲ保護スル  
 ナ務メ乍ラ却テ其權理ヲ滅殺スルカ如キ處置ハ切ニ我國  
 土ニ行ハレサランコトヲ希望スル也

代理人ニ要スル所ノモノハ獨リ學識快辨ノミニ非ス併セ  
 テ委託人ノ信任ヲ得サルヘカラス今夫レ委託人ノ心術ヨ  
 リ云フキハ雄辨達識ニシテ成語ニ通シタル代理人ニ託セ  
 ノヨリハ寧ロ左程學識ナキモ我カ信任スル温厚實着ノ老  
 成人ニ託スルヲ勝レリトスル時機ナシトセス斯ノ如キ場  
 合ニ臨ミ此ノ委託人ハ誰ニ向テ我カ訴訟權ノ申暢ヲ望マ  
 ノカ自カラ法庭ニ訴ン乎成語ニ通セサルハ如何セン信任  
 者ニ託セン乎信任者モ亦成語ヲ知ラズ到底不安心ナル代  
 言人ニ託セサルヘカラサルノ不幸アルベシ尤モ成語ニ通  
 スル程ノ代理人ハ決シテ委託者ノ損害トナルヘキ處置ハ



爲サ、ルベシト雖モ委託人ノ一方ヨリ觀察スルキハ氏ノ  
說ハ太シキ不公平ナル僻論ナリト云ハサルヘカラス高梨  
氏ヨ若シ說アラハ幸ニ高論ヲ惜ム勿ン

東京神田區美土代町二丁目一番地

同日本橋區元柳町十四番地寄留

兵庫縣士族

青森縣士族

編輯主任 青木匡

出版人 根津親徳

東京々橋區新肴町十壹番地

假本局

求友社

東京府平民

大平三次

販行人 西宮松之助

同京橋區銀座一丁目廿一番地

同銀座四丁目十番地

明治十三年第四月廿八日刊行



○專制ト公益トハ兩立セズ

吉田次郎

○米國政黨論第一回

青木匡

○徵兵令ト集會條例ノ矛盾

波多野傳三郎

吉田次郎校閱  
青木匡編輯

櫻鳴雜誌

第十三號





專制ト公益トハ兩立セズ

吉田次郎撰

專制政治ノ主義ハ全國ノ公益ヲ圖ルノ主義ト兩立セズ既

ニ專制政治ノ實アリ公益ノ名豈ニ之ニ從テ得ン此ノ如ク

ニ論鋒ヲ進メ來タラハ世人ハ必ス余ヲ目シテ峻急刻迫ノ

論者ナリト呼ハンモ社會万般ノ事理ヲ談スルニ當リテハ

直素主義ノ外好手段ナキヲ如何セン施治者カ廟堂ノ上ニ

立テ專制ノ政ヲ行フニ當リテハ常ニ其進路ヲ二三參政者

ノ協議ニ取リ或ハ當路全權乃至一個君主ノ意見ニ任シ全

國一般ノ黎庶ヲ左右シ甚シキハ則チ其性命ノ如キモ亦舉

テ之ヲ委スルニ至ル故ニ聖君上ニ在リ賢相之レガ輔弼ト

ナリテ事ヲ處シ治ヲ爲スノ間ハ稍ヤ人民ノ塗炭ヲ救フカ





如シト雖モ其人々ノ公益ヲ起シ人々ノ満足ヲ致スカ如キ  
 ハ決シテ之レ無キモノタリ其ノ解ノ如キハ姑ク之ヲ下段  
 ニ譲リ更ニ轉シテ一步ヲ進メハ其君未ダ聖域ニ達セズ宰  
 相未ダ賢階ニ位ニサルトキハ必スヤ公益ハ變シテ施治者  
 ノ私益トナリ満足ハ變シテ人々ノ不満足トナラン若シ將  
 タ君既ニ暗弱ニシテ宰相亦庸愚ナラハ黎庶ヲ擧ケテ溝瀆  
 ニ委スルノ外ナキナリ好シヤ其君果シテ聖ニシテ其宰相  
 果シテ賢ナルモ一人一個ノ私見ヲ以テ全國億万ノ生靈ヲ  
 左右スルニ當リ設ヒ四目八耳アルノ施治者ト雖焉ソ幾万  
 生靈ノ一個臟腑ニ其眼ヲ達シ一個事情ニ其耳ヲ聽ニスル  
 ナ得ンヤ自家カ認メテ公益ナリトスル所ノモノハ人民一  
 個ノ感格ニ取リテハ必シモ公益ニ非ストシ其勸獎シテ而

シテ進ムノ事業ハ彼或ハ認メテ以テ干涉主義ナリ之レ無  
 クモガナト咳クニ至リ又人民ガ認メテ以テ公益トナス所  
 ノモノニシテ施治者即チ君主宰相ノ治ヲ爲スノ針路ト相  
 違フ事アルガ如キハ必スヤ制シテ之ヲ抑ユルアルベシ夫  
 レ此ノ如シ如何シテ公益ノ實ヲ以テ專制政治ノ時ニ望ム  
 ナ得ン况ンヤ君未ダ聖ナラス宰相未ダ賢ナラサルノ時ニ  
 於テチヤ况ンヤ其君暗弱其宰相庸愚ナルノ時ニ於テチヤ  
 善キモ惡シキモ押ナベテ所謂公益主義ノ專制政治ト一途  
 ニ進マサルヤ明カナリ  
 今茲ニ一例ヲ擧ケンニ漢儒カ押シテ以テ名君ナリト爲ス  
 所ノ李唐ノ太宗ハ其在位中最モ著シキ貞觀ノ政治ヲ爲ス  
 ニ當リ囚徒ヲ放チテ獄ヲ出タシ時ヲ期シテ以テ其獄ニ歸



ラシムト太宗ハ必スヤ以爲ラク予カ信テ人民ニ得ルノ一  
 手段ニシテ即チ予カ掌握スル所ノ唐室ノ基礎ヲ鞏固ニシ  
 生靈將來ノ公益ヲ圖ルノ好政畧ナリト幸ニシテ當時ノ人  
 民カ太宗ヲ盲信セシヲ以テ囚徒ハ獄ニ歸リ人民ハ益ス太  
 宗ヲ重シトセシモ尙シ余ヲシテ當時ニ生レシメハ必スヤ  
 疾頭蹙額以テ謂ント大咄怪ナラスヤ余ガ君主ハ豺狼ヲ善  
 羊ノ群ニ放テリト然則太宗カ獨リ好政畧即チ全國ハ公益  
 ト認メシ所ノモノハ當時焉ゾ余ト意想ヲ同クセシモノア  
 リテ暗々地不満足ヲ抱キシモノナキヲ保セシヤ將タ又當  
 時ニ於テ國會議院ナルモノアリテ存シメハ太宗カ此ノ  
 如キ布告案ハ果シテ難ナク議會ヲ經過シ去ラン乎嗚呼余  
 ノ豈ニ酷ニ專制政治ヲ罪ヒンヤ又豈ニ無殘ニ上世名君賢

相カ爲セシ所ノ事蹟ヲ嫌ハンヤ唯專制施治者ガ獨リ認メ  
 テ以テ公益主義ナリト爲ス所ノモノハ或ハ人民一般ノ公  
 益主義ト背馳シ其極遂ニ施治者ノミチ利益シテ被治者ヲ  
 利益セサルノ實相ヲ顯シントス此レヲ純粹白一ノ專制國  
 タル支那開國以來ノ史乘ニ徵スルニ着々其例ヲ得結局余  
 輩ヲシテ支那ノ土壤ニ公益ナルモノヲ載セスト大呼セシ  
 ムルニ至ラシム而シテ其原因如何ヲ徵スルニ他ナシ陶虞  
 以來茲ニ幾千年世ヲ換ヘ命ヲ革ムルモノ亦幾百ヲ以テ數  
 フルニ拘ハラズ未ダ曾テ一回ノ國民議會ナルモノアリテ  
 國政ヲ議セシヲ聞カザレハナリ  
 我カ前内務卿ニシテ當時内閣參議ノ顯職ニ列セラレ、伊  
 藤博文閣下ハ夙ニ英國ニ漫遊シ殊ニ使命ヲ奉シテ各國ヲ



經過シ其政体ノ良否ヲ通覽シ頗ル事体ニ達シタルノ人ナ  
 リト聞シガ閣下ハ尙内務卿ニ在任ノ日即チ明治十二年十一  
 月十日ヲ以テ宮城商法會議所ノ開會式ニ當リ左ノ論說ヲ  
 演セラレタリト過ル十九日ノ報知新聞ニ見ヘタリ  
 諸君ニ告ク余北ニ遊テ奥ノ州ヲ觀ル遙遠ナル其野膏沃  
 ナル其壤之レチ全國ニ冠タリト云モ可ナリ顧ミテ運輸  
 ノ便ヲ問ヘハ北上川ノ南部ニ出テ流脉五十有餘里ヲ經  
 テ而シテ石卷ニ注キ大陸ヲ貫穿シテ東海ヲ控扼ス蓋天  
 候地理ノ奧ノ民ニ幸スル厚カラストセズ試ニ諸君ニ問  
 ハントス奥ノ民果シテ能ク地力ヲ盡シ利源ヲ導イテ遺  
 ス所アルコトナキ耶果シテ能ク有無相賀ヘ一方ノ富ヲ以  
 テ擴メテ天下ノ富ト爲スコトヲ得ル耶方今交道日ニ新ニ

八紘鄰ヲ成ス需要漸ク急ニソ供給益々廣シ産ヲ殖シ業  
 ヲ勸ルコト斯レ民事ノ務タリ是レ諸君ノ夙ニ講究スル所  
 ニソ余カ言ヲ待タサル者ナリ矧ヤ我政府ハ國庫ヨリ資  
 金ヲ支出シ山ヲ開キ水ヲ導キ阜頭ヲ築鑿シ以テ海陸ノ  
 便ヲ通ス其奥民ノ爲ニ有爲ノ機ヲ啓クコト到ラストセズ  
 嗚呼大業ハ必ス衆力ニ倚ル諸君誠ニ能ク心志ヲ叶同シ  
 資力ヲ給合シ天賦ノ物力ヲ暢達セハ豈唯タ一州ノ爲ニ  
 後世子孫ノ康福ヲ肇ムルノミナランヤ亦將ニ全國ノ爲  
 ニ無盡ノ公益ヲ遺サントス若夫舊ニ慣レ故ニ安シ一邑  
 ノ計ヲ務メテ公衆ノ爲メニ善舉ヲ圖ルコトヲ爲サスハ  
 猶ホ良田耘キラスメ稔莠ニ委スルカ如シ將ニ自ラ爲スヘキノ  
 事業ト榮譽トヲ舉テ之レヲ異郷他人ノ手ニ讓ルニ至ラントス



余ハ諸君ノ必ス之レヲ樂マサルヲ知ルナリ諸君ト相見ルノ觀ヲ  
 得聊カ此言ヲ以テ諸君ニ告クルコアリ唯諸君ノ擇フ所ノマ、也  
 此ノ演說筆記ヲ見ルニ大業ハ必ス衆力ニ倚ルト云ヒ又全  
 國ノ爲メニ無尽ノ公益ヲ遺サントアリテ衆力ト云ヒ公益  
 ト稱スルモノ皆余カ前段ニ於テ專制政治ト并ヒ立タスト  
 極論セシ所ノ公益主義ナリ而シテ一步ヲ退キ現時我邦ニ  
 行ハル、所ノ政体タル果シテ君民同治カ將タ專制政治カ  
 ト顧ミ去ランニ天皇陛下ノ聖明ナル左右輔弼ノ老熟セル  
 能ク政治ヲ垂聽サル、アリ又能ク政機ヲ運營スルアリテ  
 百事其緒ニ就クト雖モ其出ル所ノモノハ廟堂二三元老ノ  
 意ニ止リ其欽定批准サル、所ノモノハ畏クモ天皇陛下方  
 寸ノ聖意ニ是レ據レリ明治初年ノ聖詔及八年ノ濬勅アリ

シト雖モ猶其實ヲ社會ニ奏スルニ到ラス何トナレハ則憲  
 法未タ官民ノ權限ヲ定メサルナリ人民未タ參政ノ權利ヲ  
 有セサルナリ然ラハ則チ直ニ之ヲ目シテ君民共治ノ政体  
 ト云フカ蓋シ云ヒ難カルベシ既ニ未タ其良否ヲ問ハス專  
 制政治ノ政体ナリトセバ公益ヲ遺サント云ヒ又衆力ニ倚  
 ルト稱スル如キ彼ノ主義ニシテ此ノ主義ト混同スル恐ク  
 ハ矛盾ノ嫌ヒナキヲ保スルヲ得ス是レ余カ疑團ノ解スル  
 能ハサル所ナリ  
 然リ而シテ千思万考始メテ之カ解ヲ得シモノアリ抑前内  
 務卿閣下ハ曾テ親シク外國ニ遊ヒ又能ク其事理ニ通スル  
 既ニ前ニ述ルガ如クナレバ其各國政体ノ良否ヲ察スルヤ  
 必ス詳カナルベシ然ラハ則虚心夷氣其成敗ノ數ヲ測ルニ



當リ亦必專制政治ノ君民同治ノ政体ニ如カサルヲ知ラン  
 然ルモ猶依然舊慣ニ仍リ國會猶早シテ以テ論旨ヲ今日ニ  
 維持スルモノ豈他アラシヤ人民智度ノ此ニ達スルヲ待チ  
 シモノニ外ナラス而シテ今公然公衆ニ對シ衆力ト云ヒ公益  
 ト稱シ重キヲ人民ノ部分ニ委ヒシカ如キハ知ル可シ銳敏  
 ノ聞全國ニ響キタル前内務卿閣下ハ業ニ既ニ其機ノ熟達  
 セルヲ察シ國會ノ今日ニ興スヘシ人民ノ智度方ニ政治ニ  
 參スベキヲ悟リ乃チ肚裏精神ヲ人表ニ吐露シ人民ヲシテ  
 大ニ興起スル所アラシメントノ誠意ニ出シヤ疑ヲ容レサ  
 ルナリ若夫我天皇陛下ハ再ヒ聖勅ヲ下シテ公議ヲ執リ國  
 憲ヲ立ルノ旨ヲ示サレタリ而カモ猶其結果ヲ見サルガ如  
 キハ或ハ云フ内閣議官ノ猶早シトシテ之ヲ支ユルニ據ル

ト聞キシモ今ヤ内閣ニ勢力ヲ有シ常ニ機密ニ與カル所ノ  
 前内務卿閣下ニシテ既ニ衆力ト公益トニ見ルアリ國會猶早  
 ノ論ハ其勢力ヲ内閣ニ殺キタリト云フモ誣ヒサルナリ由  
 是觀之聖天子カ曾テ望マセラル、所ノ立憲政体即チ君民  
 共治ハ其端ヲ發スル其レ近キニ在ン乎他ナシ余ハ夙ニ前  
 内務卿閣下ノ言語ヲ苟モセサルノ君子人ナルヲ信スレバ  
 ナリ於此乎殊ニ前說ヲ喋々ノ以テ專制公益ノ兩立セサル  
 テ明ニシ前内務卿ノ演說ニ仍聊カ私見ヲ露呈スルヲ然リ  
 米國政黨論第一回 青木 匡講述  
 政黨ハ社會ノ妨害物ニ非ラサルノ理由ト非政黨論者ガ認  
 メテ政黨ノ弊害ト稱スル所ノ者ハ悉ク政黨ノ利益即チ社  
 會幸福ノ由テ基ク所タルヲハ余既ニ本誌第五号ニ於テ之



ナ詳論シタリキ故ニ今ヤ進ンテ米國政黨ノ機ニ觸レ時ニ  
 應シテ屢々轉遷變化シタル跡ヲ詳細ニ講述シ以テ政黨ハ  
 決シテ社會ノ妨害ヲ爲スモノニ非ラサルノ的例ヲ示サン  
 トス  
 北米合衆國政黨ノ最モ舊古ナルモノハ諸君カ既ニ了知セ  
 ラル、如ク夫ノ革命時代ノ民權黨并王權黨即チ是ナリ抑  
 モ此ノ民黨并王黨ノ名稱ハ米國革命前凡ソ二百年初メテ  
 英國ニ於テ發現シタル者ニシテ當時國王ヲ輔助シ巨大ノ權  
 勢ヲ掌握セシメシメシ者ヲ名ケテ王權黨ト云ヒ人  
 民ノ權利自由ヲ擴張シ王權ヲ減縮シシ者ヲ名ケテ民  
 權黨ト云ヒ其ノ如シ米國革命ノ時ニ當テ十  
 三州獨立ノ已ム可カラサル理由ヲ主唱シ遂ニ英國政府ニ

向テ自由ノ義旗ヲ揚ケタル者ヲ名ケテ民權黨ト云ヒ之ニ  
 反シテ其ノ獨立ヲ妨ケ英國政府ノ權勢ヲシテ永ク亞米利  
 加大地ニ行ハレシメシメシ者ヲ呼テ王權黨ト云  
 ヒリ而シテ當時米國人ニシテ王權黨ニ與スル者ハ甚尠ナク  
 人心ハ一ニ英國政府ノ羈輓ヲ脱シ各自ノ權利自由ヲ伸張  
 シテ以テ一世ノ幸福ヲ保全セントスルノ一點ニ歸向シ英  
 國政府カ如何ナル強大ノ兵力ヲ以テスルモ容易ニ之カ精  
 神ヲ挫折スルコト能ハス民權黨ノ忍耐ハ遂ニ自由ノ花ヲ米  
 國ニ開カシムルニ至リタリ諸君ニ諸君ハ當時ノ兩政黨中  
 孰カ正黨ニシテ孰カ不正黨リナト思量セラル、ヤ惟フニ  
 民權黨ノ主唱スル所ノ議論及ヒ哀訴スル所ノ條件ハ一ト  
 シテ天地ノ公道ニ協ハサルハナク自然ノ人情ニ適セサル



ハナカ、ルヘシ、知ルヘシ、諸政黨中、某政黨ノ最大權力ヲ得テ、  
其他ノ政黨ヲ壓滅スルコトヲ得ル所以ノ者ハ、一國ノ人民概  
テ皆其ノ政黨ノ説ヲ可認シ、從テ之ヲ助ケ之ヲ救ハンコトヲ  
力ムルニ歸スルヲ之ヲ要スルニ其政黨ノ大ニ權勢ヲ得ル  
ニ至ルハ、其黨論ト當時ノ公議輿論ト相一致スルニ基カサ  
ル者ナシ

ナショナルコンベンション

米國十三州カ其獨立ヲ全フスルニ至ルヤ直ニ國民盟會ヲ  
開テ國憲ヲ制定センコトヲ企テタリ此會ニ於テハ「ヘデラル  
并」アンチヘデラル」ノ二黨互ニ其所見ヲ殊ニシ「ヘデラル」黨  
ハ革命戰爭中米國ニ存立シタル聯合政府ヲ保續センコトヲ  
冀ヒ之ニ反シテ「アンチヘデラル」黨ハ從來ノ聯合政府ヲ廢  
シ更ニ國憲ヲ制定シテ新種ノ政府ヲ設立センコトヲ企テタ

リ然レヒ米國ノ諸學士モ既ニ論辨スルカ如ク革命戰爭中  
米國ニ存立シタル夫ノ聯合政府ハ當時ニ在テハ固ヨリ大  
ナル効用ヲ實際ニ顯ハセシモ平時ニ於テハ頗ル不便利  
ナルモノナキニ非ラス故ニ「アンチヘデラル」黨ハ揚言シテ  
曰ク從來ノ聯合政府ハ永ク各州ノ聯合ヲ維支スルニ足ラ  
ス其ノ之ヲ維支スルニ足ルヘキ方便ハ唯新國憲ヲ制定ス  
ルニ在ルノミト是ヨリ後々人心ハ一ニ新ニ國憲ヲ制定セ  
ントスルノ一點ニ傾向シ却テ新ニ國憲ヲ制定シテ國家ノ  
大權ヲ新立政府ニ委任センコトヲ冀望スル者ヲ名ケテ「ヘデ  
ラル」黨ト云ヒ從來ノ聯合政府ヲ保續センコトヲ謀ル者ヲ呼  
テ「アンチヘデラル」黨ト云フニ至リタリ其レ斯ノ如ク「ヘデ  
ラル」黨（前キニ「アンチヘテ」ノ議論ハ日ヲ逐ヒ時ヲ重テ漸



ク其勢力ヲ得遂ニ合衆國現行國憲ヲ制定シ今日ニ至テハ  
 大ニ改正ヲ要スル條件許多アルベシト雖ヒ米國人民ノ權  
 利自由ハ是ニ由テ彌ニ安全ヲ得タル者ノ如シ蓋シ當時ヘ  
 デラル黨カ大ニ權勢ヲ得テ遂ニ其ノ目的ヲ達スルニ至リ  
 タルヤ一朝一夕ニ非ラス夫ノ有名ナル「マジンソン」「ハミルト  
 ン」及ヒ「マルシヤルゼー」ノ三氏カ頻ニ國憲ヲ新定スルノ要  
 ナ論辨シ以テ一般人民ヲシテ益ス其說ニ左袒セシメタル  
 ニ由ル然ト雖ヒ人心ノ專ラヘデラル黨ニ歸向セシモノハ  
 當時人々ガ國憲ヲ新定スルノ一日モ米國ニ缺ク可カラサ  
 ルコト知了スレハナリ余輩ハ正義ヲ唱ヘ真理ヲ主張スル  
 所ノ政黨カ權勢ヲ政治上ニ得タルヲ聞クモ未ダ邪說ヲ主  
 張シ非理ヲ唱フル黨派即チ虛無黨又ハ社會黨ノ如キモノ

其權勢ヲ政治上ニ逞フシタルヲ聞カス是レ豈正理ニ賴  
 ルノ黨派カ勉メテ邪黨ノ權勢ヲ挫折セシトスルノ致ス所  
 ニ非ラサルナキヲ得ンヤ  
 續テ華盛頓大統領トナルニ及ンテ革命戰時ニ當リ各州ニ  
 於テ募集シタル公債ハ中心政府ニ於テ負擔スヘキヤ否并  
 ニ國立銀行創立ノ可否ニ就キ世人ノ議論分レテ二派トナ  
 リタレヒ未ダ以テ黨論ト謂フヘキニハアラス然レヒ外交  
 ノ事ニ關シ頗ル紛議ヲ生シタル者アリ何ソヤ曰ク佛國ニ  
 應援スルノ一事是ナリ抑モ當時佛國ハ革命ノ後ニシテ其  
 ノ餘焰ハ施テ全歐州ニ及ヒ英ニ魯ニ壤ニ皆其ノ兵鋒ヲ佛  
 國ニ向ケサルハナク就中英國ノ如キハ拿破翁ノ智畧ヲ以  
 テスルモ容易ニ之ヲ擊破スル能ハサルノ強敵手タリ是レ



諸君カ早ニ央乘ニ就テ熱悉ヒラル、所ナリ然リ而シ佛國  
 ハ米國革命ノ時ニ當テ大ニ米人ヲ輔翼シ與ニ其自由ノ花  
 ナ當時ニ開カシメタルノ功アルカ故ニ米人ハ自然ニ佛國  
 ナ友愛シ從テ同國ニ同盟シテ以テ英國ニ敵抗センコト主  
 張スル者往々之レアリ而シテ大統領華盛頓モ亦大ニ佛國ヲ  
 憐マサルニ非ラスト雖ヒ米國カ歐洲ノ戰爭ニ關カルノ大  
 ニ非ナルヲ早ニ了知シ固ク局外中立ノ地位ヲ保タンコト決  
 意セリ斯ノ如ク大統領ハ世人ノ議論ヲ採取ヒサルヲ以テ  
 或ハ英國ニ左袒シントスルノ意アリトノ讒評ヲ受クルニ  
 至リ爾來凡ソ二十五年間英國又ハ佛國ニ應援ヒント欲ス  
 ルノ意念ハ即チ新政黨分裂ノ淵源トナリタリ其後ヘデラ  
 ル黨ニ反對スル黨派即チ「アンナヘデラル」黨ハ其名稱ヲ變

シテ「レ」パブリック黨トナリ「シ」ジョン「ア」ダム「氏」（第二）代大統領  
 人ナリ（一）在職ノ期終ルニ及ンテ該黨ノ巨魁ト「マ」スセ「フ」エ  
 ル「ソ」ン「氏」撰レテ大統領トナリ以テ一國ノ大權ヲ掌握シタ  
 リ爾來ヘデラル「并」レパブリック「カン」ノ兩黨ハ永ク米國ニ成  
 立セシカ英米兩國第二回戰爭ノ終ニ至テヘデラル黨ハ漸  
 ク其勢ヲ失却シタリ  
 其レ斯ノ如ク政黨ナル者ハ終始其勢ヲ同フスルニ非ラス  
 昨日ハ大ニ權勢ヲ政治上ニ逞フシタルノ黨派モ今日ハ忽  
 チ變シテ微弱ノ黨派トナリ甚キニ至テハ全ク其跡ヲ社會  
 ニ絶ツカ如キ「ア」リ是レ他ナシ其ノ時勢民情ノ漸ク變遷  
 スルニ從テ先キニ甲黨ニ在リシ者モ移テ乙黨ニ加ハリ以  
 テ從來ノ弱黨ヲシテ強黨ト其地位ヲ變換セシムルナリ然



レ、正、道、ハ、正、道、ヲ、壓、ス、ル、能、ハ、ス、邪、黨、ハ、正、黨、ニ、勝、ツ、ト、能、ハ、  
サ、ル、ハ、自、然、ノ、常、ナ、リ、其、レ、然、リ、甲、黨、倒、レ、テ、乙、黨、起、ル、ハ、邪、正、  
ヲ、壓、シ、曲、直、ニ、勝、チ、タ、ル、ニ、非、ラ、ス、唯、先、キ、ニ、時、勢、ニ、背、馳、シ、民、  
情、ニ、協、ハ、サ、ル、乙、黨、主、義、ノ、漸、ク、社、會、ニ、行、ハ、ル、ノ、好、時、機、ニ、  
達、シ、タ、ル、ノ、ミ、之、ヲ、詳、言、ス、レ、ハ、則、チ、公、議、興、論、ノ、甲、黨、主、義、ニ、  
リ、乙、黨、主、義、ニ、轉、遷、シ、タ、ル、ナ、リ、諸、君、ヨ、諸、君、ハ、尙、ホ、一、概、ニ、政、  
黨、ヲ、認、メ、テ、社、會、ノ、妨、害、物、ト、斷、定、ス、ル、乎、否、

徵兵令、集會條例ノ矛盾、波多野傳三郎撰

我政府ハ曩時、政官第十二号ヲ以テ集會條例ヲ天下ニ布  
告シ其第七條ヲ以テ私立學校ノ生徒カ耳ニ政談ヲ聞キ口  
ニ政論ヲ談スルノ二大自由ヲ措束セラレタリ爾來茲ニ數  
日各社新聞紙上ニ掲載セシ所ノ論說ヲ見ルニ一トシテ之

チ否トセサルナキハ恰モ符節ヲ合スカ如ク然リ吾黨モ亦  
私立學校生徒カ耳口ノ自由ヲ措束セラレ、ニ至リニ悲  
シマサルニ非ラスト雖モ亦爲メニ聊悦フ所アリ請フ試  
ニ之ヲ陳述セン  
昨明治十二年十月廿七日太政大臣ノ名ヲ以テ全國ニ發布  
セラレタル徵兵令ヲ案スルニ其第十九條ニ曰ク公立師範  
學校同中學校同專門學校文部省所轄官立及公立學校并其  
他省使ニ屬スル學校ニ於テ卒業ノ者ハ平時ニ於テ兵役ニ  
免スト又其第卅條ニ曰文部省所轄并ニ其他省使ニ屬スル  
官立學校及ヒ公立師範學校ニ於テ修業壹ケ年ノ課程ヲ卒  
リタル以上ノ生徒并ニ公立中學校及ヒ同專門學校ニ於テ  
修業三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒ハ平時ニ於テ一



ケ年ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘシト然ルニ一言半句ノ獨學ス  
 ル者又ハ私立學校生徒ニ及フヲ見ス是果シテ公平ト謂フ  
 へキ乎否決シテ公平ニ非サルナリ故ニ此不公平ヲ救ハ  
 ト欲セハ宜シク教育令第卅五條ニ公立師範學校ハ本校ニ  
 入學セサル者ト雖モ卒業證書ヲ請フ者アラハ其學業ヲ試  
 驗シ合格ノ者ニハ卒業證書ヲ與フベシトアルヲ改正シ官  
 立及ヒ公立學校ハ云々ト爲シ獨學スル者又ハ私立學校生  
 徒ト雖モ其學力官立及ヒ公立學校生徒ニ均シキ者ハ其ノ  
 生徒ト全シク免役又ハ徵集猶豫ノ特典ニ與カラシムヘシ  
 云々ハ吾黨會テ東京橫濱毎日新聞第二千七百八十一號論  
 說欄内ニ於テ論述シタリキ  
 吾黨ハ獨學スル者又ハ私立學校生徒ト雖モ其學力官立及

ヒ公立學校生徒ニ優ル者アリト思惟シテ前說ヲ吐露セリ  
 然ルニ我政府ハ均シク學術ヲ研究シ又全シク日本ノ人民  
 タル者ニ唯其學ヲ所ノ學校ニ官立公立及ヒ私立ノ差異ア  
 ルカ爲メニ一ハ驅テ兵役ニ充テ一ハ其好ム所ニ隨フテ業  
 ナ營ミ生テ計ルノ特典ニ與カラシメラル、所以ハ蓋シ學  
 識ノ淺深ハ其學ヲ所ニ因テ自ラ差異アル者ニシテ官立及  
 ヒ公立學校生徒ハ博學多識ナレハ之ヲ驅リテ兵役ニ充テ  
 ノヨリハ寧ロ他ノ業ニ就カシムルノ却テ國家ニ益アリ之  
 ニ反シ獨學スル者又ハ私立學校生徒ハ淺學寡聞ナレハ之  
 カ兵役ヲ免シ他ノ事ヲ成サシムルモ敢テ國家ニ利アラヌ  
 ト考察セラレシニアルナラン  
 然ルニ集會條例第七條ニハ官立公立及ヒ私立學校生徒ハ



政治上ニ關スル事項ヲ講談論議スル會場ニ臨ミ又ハ其社  
 ニ加入スルヲ得スト明記シテ其學フ所ノ學校ニ官立公  
 立及ヒ私立ノ差異アルニ係ハフス生徒タル者ノ耳口ノ自  
 由ヲ均シク掛束セラレタリ是蓋シ其學フ所ノ學校ニ官立  
 公立及私立ノ差異アリト雖モ其學識ニ至リテハ全ク全一  
 ナリト思惟セラレシカ爲メナラン  
 吾黨嘗テ之ヲ道路ニ聞ク我政府ハ過テハ則改ムルニ憚ル  
 勿シト果シテ然ラハ前キニ徵兵令ヲ發スル時ニ當リテハ  
 官立及ヒ公立學校生徒ノ學識ト獨學スル者又ハ私立學校  
 生徒ノ學識トニ差異アリト誤認セラレタリト雖モ今ヤ則  
 其差異ナキヲ確認セラレタル以上ハ日ナラズ教育令第卅  
 五條若クハ徵兵令第廿九條及ヒ第卅條ヲ改正シ獨學スル  
 者又ハ私立學校生徒ト雖モ官立及ヒ公立學校生徒ト全シ  
 シ免役又ハ徵集猶豫ノ特典ニ與カラシメラルハ必然ナ  
 リ是吾黨カ集會條例ノ發布ニ遭ヒ私立學校生徒ハ爲メニ  
 一ハ以テ悲シミ一ハ以テ悦ブ所以ナリ

東京神田區美土代町二丁目一番地

同日本橋區元柳町十四番地寄留

兵庫縣士族

青森縣士族

編輯主任

青木匡

出版人

根津親徳

東京々橋區新着町十壹番地

假本局

求友社

東京府平民

大平三次

販行人

西宮松之助

同京橋區銀座一丁目廿一番地

同銀座四丁目十番地



弊社雜誌ノ儀ハ代價並ニ遞送税トモ前金ニ御遣シ無之候テハ遞送致サハル社則ニ有之候間何部分ニテモ御見込次第前金ヲ以テ御注文奉冀候也  
 壹册定價五錢 五册前金二十二錢五厘 十册前金四十三錢 二十册前金八十錢  
 但シ府外ノ分ハ別ニ郵税申受候

東京銀座四丁目 朝野新聞社 同神田區雉子町三十一番地 巖々堂  
 同日本橋區元大坂町 報知社支店 同虎ノ門外琴平町 靜霞堂  
 同日本橋區元大坂町 法木德兵衛 同芝區三田同朋町 靜海堂  
 同淺草區元鳥越町廿一番地 共致社 同芝源助町 春陽堂  
 橫濱太田町二丁目 伊勢屋梅齋 同芝源助町 春陽堂  
 東京銀座四丁目 博聞社 橫濱野毛町二丁目 鈴木作平  
 同麴町區三番町 杉田善之助 石川縣金澤尾張町 牧野雲堂  
 同牛込神樂坂壹丁目十番地 大黒屋金之助 大坂堂島中壹丁目 春陽堂  
 同表神保町九番地 赤川五平 信州松本南深志町 窪田眞重  
 同赤坂裏壹丁目十六番地 高橋屋小兵衛 大坂本町四丁目 岡島眞七  
 同本郷區本郷四丁目十番地 湊屋小衛門 相州橫須賀旭町 大塚靜喜  
 淺草並木町二十六番地 秋山茂左衛門 西京新極藥師下ル 太田權七  
 日本橋區室町三丁目 大黒屋平吉 下総千葉 內國通運會社  
 同兩國吉川町二番地

明治十三年第五月十二日刊行

下茂

○ 歷制至難論 田口卯吉  
 ○ 演說條例論(前篇) 丸山名政

○ 論士ノ迷妄 青木匡

吉田次郎校閱 青木匡編輯  
 櫻鳴雜誌 第十四號





古來專制政府ノ上ニ立テ治國ノ大權ヲ握レルモノ或ハ其  
爵位ノ貴キカ爲メニ無上ノ自負心ヲ胸裏ニ發シ專制抑壓  
ヲ以テ容易ニ行ヒ得ヘキモノ、如ク思量シ終ニ國家ノ大  
害ヲ釀生セシ事其例尠カラズ蓋シ爵位ナルモノハ能ク人  
ヲシテ議論ニ勝ヲ得セシメ亦他人ノ敬禮ヲモ受ケシムル  
ノ力アレハ專制政治國ノ主治者カ何條六ヶ鋪事ノアルベ  
キヤ我コソ壓制ヲ施シ吳レシトノ慢心ヲ生スルニ至ルモ  
一應ハ其理ナキニアラス然レモ眞ニ能ク壓制ヲ行ヒ得ル  
ホドノ人ハ多クアラサルモノナリ父ノ子ニ於ケル其親愛  
恭敬ノ情太ク周密ニシテ心ニ思フ所ハ眞ニ其面ニ顯ハレ  
所謂ル隔心ナド云ヘル事ハ絶テナキ間柄ナレドモ父ノ過



嚴ナル往々其子ナシテ不滿ノ心ヲ抱カシメ淫僻ノ性ヲ得  
 セシムルアリ其レ然リ治者ノ被治者ニ於ケル血縁アルニ  
 アラス面識アルニアラス北條早雲嘗テ伊豆ノ民ニ諭シテ  
 曰ク「互ニ主トナリ臣トナル如何ナル因縁ゾ是レ偶然ノ事  
 ニアラス」ト是レ全ク才士ノ言ニシテ實ハ偶然ト申シテモ  
 更ニ差支ナキ事ナリ斯ノ如ク因縁ナキ者ニシテ人民ノ望  
 ム所ヲ抑ヘ其望マザル所ヲ與ヘント欲ス豈ニ容易ノ事ナ  
 ランヤ素ヨリ失敗シテモ差構ヒナシトノ覺悟ニテノ事ナ  
 レハ徒ニ後世ノ笑ヒヲ遺スマデノ事ナレトモ巧ニ之ヲ行  
 フハ大有力者ニアラザレハ爲シ能ハサル事ナリ况シテヤ  
 專制政府ノ組立タル其廟議常ニ秘密ニ渡リテ情味ノ相通  
 スル事決シテ父子ノ間柄ト同一論タラサルニ於テチヤ

夫ノ秦ノ始皇ヲ見ヨ其ノ人タル天性剛戾天下ノ事大小ト  
 ナク皆之ヲ一身ニ決シ衡石ヲ以テ書ヲ量ルニ至リ日夜程  
 アリ休息ヲ得ス而シテ相丞ニハ李子ノ如キアリ將軍ニハ  
 王賁王翦ノ如キアリ皆戰慄シテ命ヲ奉シ敢テ怠ルアルナ  
 シ始皇ノ之ヲ用ユル臂ノ指ヲ使フカ如シ故ニ始皇ノ政府  
 タル其狀恰モ一塊ノ固結物ノ如クナリキ斯クノ如キ政府  
 ナ造リ得タレハヨソ能ク四百余州ノ人民ヲ制服シ其治世  
 ノ間暴戾抑壓ヲ極ムト雖モ一人ノ能ク氣息ヲ出スモノナ  
 カリシナリ是レ豈ニ尋常人士ノ能クスル所ナランヤ又夫  
 ノ佛帝ルイ十四世ヲ見ヨ同帝ハ至テ短身ノ人ナリシガ  
 其在世ノ間親近扈從ノモノト雖モ其形軀ノ長短ヲ知ルモ  
 ノナク皆以テ長大ノ人ト爲セリ然ルニ佛國革命黨起リテ



其慕ヲ發キ其尸ヲ量ルニ及ビテ始メテ其常人ホトノ丈モ  
 ナカリシ事ヲ見出セリ是レ其眼光炯々人ヲ射テ嚴威恐ル  
 ベキカ爲メニ人能ク仰キ見ル能ハザリシニ因ルニアラズ  
 ヤ是ヲ以テ其内政肅然トシテ善ク整ヒ端乎トシテ善ク理  
 マレリ既ニ善整ヒ善理マル乃チ以テ外ヲ謀ルヘシ是ニ於  
 テカ學士ヲ聘シテ其德ヲ稱セシメ兵ヲ出シテ四隣ヲ恐レ  
 シメ宗教ヲ助ケテ人心ヲ治メ租稅ヲ厚クシテ驕奢ヲ恣ニ  
 シ負債ヲ起シテ後世ノ人民ヲ苦マシムルニ至ルモ五十餘  
 年ノ治世ノ間一人ノ之ニ背クモノアルナシ  
 嗚呼一撃ノ電光ハ以テ千尋ノ古木ヲ裂クベシ一隊ノ軍人  
 ハ以テ百万ノ農夫ヲ制スヘシ始皇ル一能ク政府ヲ固結  
 セシムルヲ得是其能ク壓制ヲ擅ニスルヲ得タル所以ナリ

然リト雖ヒ人心長ク制スヘカラズ此二帝皆二世ヲ傳ユス  
 シテ亡フ世ノ始皇ル一イダラサルモノ素ヨリ此固結政府  
 ナ建ツル能ハズ焉ソ能ク長ク人心ニ逆フヲ得ンヤ  
 然ラハ則專制政治國ニアリテ民情變遷ノ時ニ際シ其國安  
 ナ維持シ毒害ヲ避クルノ方法果シテ如何ソヤボナバルテ  
 嘗テ曰クル一イ十六世ノ政府ヲシテ更ニ專制ナラシメハ  
 佛國革命ノ弊未タ此ノ如ク甚シカラサルヘシト蓋シル一  
 イ十六世ノ時ニ至リ政權微弱ニシテ一定ノ國是ナク或ハ  
 壓抑ヲ行ヒ或ハ自由ヲ施シ自ラ人民ノ輕侮ヲ招ケリ此政  
 府ヲ以テ自由ヲ熱望セル人民ヲ抑制セント欲ス其倒ルヤ  
 素ヨリ免ルベカラサルナリ若シボナバルテシテ其政ニ  
 當ラシメハ必ス先ツ其政府ヲ固結シテ而シテ後專制ヲ勉



メシ事必ス革命後ノ政ヲ承ケシ時ハ如クナラノルイ十  
 六世ノ政府ヲ以テ直ニ專制ヲ行ハント欲セハボナバルテ  
 ト雖モ亦必ス革命ノ魚肉タルヲ免カルベカラサルベシ  
 今ヤ自由ノ愛漸ク日本人民ニ感染シ國會開設ヲ願望スル  
 モノ續々踵ヲ接シテ元老院ノ門ヲ叩ケリ其論スル所ハ皆  
 一身ノ權利ヲ重シ公衆ノ幸福ヲ計ルニ出ツルト雖モ其  
 間或ハ過激ニ失シ粗暴ニ流ル、如キノ弊害ナシトスベカ  
 ラサルナリ我政府ハ此弊害ヲ避ルニ如何ナル手段ヲ以テ  
 セント欲スル乎余私ニ恐ル我政府ガボナバルテノ説ヲ容  
 レ專制以テ其衝ニ當ラント欲セン事ヲ何トナレハ我政府  
 タル賢明有司ノ淵叢ニシテ歐米ノ事情ニ通曉セル學士ニ  
 富マサルニ非ラスト雖モ彼ノ壓制ニ必要ナル肅然固結ノ

一性ニ至リテハ全ク之ヲ欠ケハナリ我政府ノ組立タル如  
 何ニ壓制ヲ爲サント欲スルモ爲ス能ハサルノ性質ナリ如  
 何ニ人心ニ逆ハント欲スルモ逆ヒ能ハサルノ性質ナリ百  
 ノ秦始皇ルイ十四世テ一時ニ生セシメ此政府ノ上ニ置  
 クトモ此組立ヲ以テハ一日モ其欲ヲ擅ニスル能ハサルノ  
 性質ナリ余ヲ以テ之ヲ見ルニ今日ニ在リテ國安ヲ維持ス  
 ルノ方法豈ニ他アラシヤ唯タ多數人民ノ望ニ從フニアル  
 ハミ既ニ多數人民ノ望ニ從フ一二過激者アリト雖モ焉ソ  
 其志ヲ違ハスルヲ得ンヤ若シ其レ此ニ出テスシテ人心ノ  
 希望之レヲ抑ヘントスルヤ民權論ノ其性質ヲ變シテ粗暴  
 論トナリ終ニ國家ノ大害ヲ爲スニ至ル事夫ノ往年愛國心  
 ノ變シテ鎖港攘夷論トナリシ如クナラント必然ナリ世



情茲ニ至ラハ日本帝國タルモノ終ニ如何ソヤ  
思フニ此事ヤ廟堂有司既ニ瞭知セラル、所ナラシ然レト  
モ世或ハ抑壓ヲ以テ容易ニ行ヒ得ベキモノト誤迷セラルモ  
ノアリ而シテボナバルテノ語或ハ此迷謬ヲシテ益々甚シ  
カラシムルノ恐レアリ況ンヤ古來執政者此理ヲ悟ラズシ  
テ國事ヲ過リシモノ其人ニ乏シカラサルヲヤ余此言ノ贅  
言ニ屬スルヲ知ル果シテ贅言ニ屬セハ余輩ノ大幸ナリ

演說條例論(前篇)

丸山名政稿

吾人ハ智腦アリ故ニ能ク思慮ス吾人ハ舌アリ故ニ能ク言  
フ吾人ハ四肢五感アリ故ニ能ク動キ又能ク視聽臭味觸ノ  
作用ヲナス而シテ其ノ之ヲ思ヒ之ヲ言ヒ之ヲ作スハ即チ吾  
人ノ自由權利ニシテ苟モ天理人道ニ背カサル以上ハ王公

ノ威モ之ヲ動かス能ハス貴育ノ勇キ之ヲ奪フ能ハス比斯  
馬亞ノ智モ亦之ヲ侵ス能ハサル也然リ而シテ世間一種ノ權  
力アリテ能ク此堅固ナル權利ニ向テ侵入スルモノアリ法  
律ノ力即チ是ナリ故ニ法律ニ於テ何々ノ事ハ爲スヘカラ  
ス何々ノ事ハ論議スヘカラス之ニ背クモノハ何々ノ刑ニ  
處スヘシト定マルモ其國ノ人民タルモノハ謹テ之ヲ遵  
奉セサルヘカラス嗚呼我が愛スベキ自由權利ニ汝ノ身体  
ヲ侵畧シ得ベキモノハ天下唯ダ一ノ法律アルノミ汝ヲ其  
レ法律ノ許ス處ニ逍遙シテ汝ガ天然ノ本性ヲ盡セ  
然ルニ茲ニ一ノ恠ムヘキコトアリ演說ノ禁止是ナリ夫レ  
演說ハ吾人ガ貴重ナル自由權利ノ一部分ナリ法律ヲ以テ  
スルノ外豈ニ夫レ他人ノ侵畧ヲ受クベキモノナランヤ然



ルヲ行政官吏タルモノが一己ノ想像ヲ以テ是レ國安ヲ妨害スルモノナリト認テ其ノ發言ヲ禁止スルハ抑モ何ソヤ之レ果シテ法律ノ許ス所ナル乎  
 各府縣ニ於テ演說ヲ禁止セラレタル達書ヲ見ルニ其方ノ演說ハ國安ヲ妨害スルモノト認ルニ付自今當管内ニ於テ公衆ヲ集メ演說討論スルヲ禁ズト云フガ如キ主意ナリ余輩此ノ達書ニ付キ二個ノ疑問アリ第一國安ヲ妨害シサウナ論說也ト認ムルノ意乎(未來ノ想像)第二國安ヲ妨害シタル論說也ト認ムルノ意乎(犯罪ノ證據)若シ行政官吏ノ意タル第一疑ニアリトセシカ是レ國安ヲ妨害セザル無罪人ノ口ヲ箝スルナリ若シ第二疑ニアリトセシカ是レ國安ヲ妨害セザルモノナレバ之キ刑事ノ處分ニ委セザルベカラズ

或ハ曰ク司法官吏ニアラザレバ刑罰ヲ人ニ施スヲ得ズ然ルニ演說禁止ノ權ヲ行政官ガ有スルヲ以テ見レバ個ハ之レ純然タル行政處分ニ屬スルヲ知ルヘキ也ト此說ヤ益ス余輩ヲシテ疑團ヲ生セシム抑モ行政處分トハ一定ノ法律ニ依リ行政官吏ニ委任サレタル事務ヲ處分スルノ義ニシテ各自ノ事務章程ニ從フテ處置スルノ外復タ爲スヘキノコトナシ我カ内務卿ノ事務章程中此ノ如キ條款ナシ又政府カ發布シタル別種ノ法律ヲ以テ斯ノ如キ權力ヲ委任シタルヲナシ内務卿ノ命令ヲ奉スル府知事縣令及大警視ハ如何ナル法律ニ據リ此ノ處分ニ施ス乎モシ其ノ法律ナシトセハ是レ其職權ヲ犯スモノナリト云ハサルベカラズヨシヤ其ノ法律アリトスルモ演說禁止ノコトタル固ヨリ刑



事ノ性質ヲ備ルモノナルカ故ニ之ヲ行政官吏ニ委任スル  
 ハ恰モ兒童ニ及物ヲ持タルガ如シ害用ノ憂豈ニ其レ無キ  
 ナ必スベケンヤ或ハ曰ク演說禁止ハ決テ刑事ノ性質ヲ備  
 ルモノニアフズ何トナレハ其ノ命令ノ及フ所ハ獨リ其地  
 方ニ限リ管テ他府縣ニ及ヒシコトナシ譬ハ兵庫縣ニテ禁止  
 ノ命ヲ蒙リシ人ハ兵庫縣内ニ於テコソ發言ノ權利ヲ剝奪  
 サレタレモ他府縣ニ到ルトキハ純粹ナル自由人民ナレハ  
 ナリト之レ大ニ誤レリ夫レ人既ニ發言ノ權利ヲ有ス矣則  
 チ時ト處トニヨリテ其ノ有無ヲ異ニスルノ理アルベカラ  
 ズ自由ノ舌ヲ以テ自由ノ思想ヲ吐露セシメガタメニ自由ノ  
 身体ヲ以テ自由ノ地ニ往來ス東西南北何ノ所カ自由ナラ  
 ザル地アルベケンヤ而テ其自由ニ異同アル所以ノモノハ

即チ其人ノ發論權ノ幾分ヲ剝奪サレタルモノニシテ其命  
 令ハ刑法ノ性質ヲ備フルモノナリト云ハザルベカフズ  
 斯ク論シ去ルヲ觀ハ當ニ知ルヘシ演說條例ヲ設クルノ緊  
 要ナルヲ前ニモ陳ベシ如ク國安ヲ妨害セシ論說ハ既ニ犯  
 罪ノ證據ナリトモハ之ガ處分權ハ無論刑事ノ職掌ナリ而  
 テ現今顯然タル條例ナシ之レ即チ刑事處分ニ委ヒスシテ  
 行政處分ニ委スル所以ナルヘシ余輩ガ演說條例ヲ設クベ  
 シト云フノ意ハ兒童カ所持スル及物ヲ奪テ之ヲ至當ノ人  
 ニ使用セシメ及物ノ及物タル効用ヲ尽サシメント欲スル  
 ニアリ

論士ノ迷妄  
 青木 匡稿  
 曩時ニ陸軍卿カ陸軍各隊ニ向テ諸生徒并下士兵卒ノ演說



講談場ニ臨ムヲ禁制スル達書ヲ發セラル、ニ當テヤ東京横濱毎日新聞記者ハ速ニ其達書ノ趣意ニ就テ一篇ノ論說ヲ掲出シ續テ集會條例ノ發布アルニ遭フヤ同記者ハ又其第七條ヲ以テ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者ノ政談場ニ臨ミ又ハ之ニ加入スルヲ禁スルノ甚不當ナル所以ヲモ開陳シタリキ然ルニ去月十一日及同十八日發兌ノ兵事新聞第二百四十三四兩号ヲ閱スルニ兵事記者ハ前ノ陸軍卿ノ達書及ヒ今回發行ノ集會條例ハ共ニ其適當ヲ得タルヲ論辨シ以テ毎日記者ニ駁撃ヲ試ミタリ其文ヤ滔々數千言ノ多キニ涉リ從テ議論稍ヤ詳細ナルモノアリト雖ヒ邪論ヲ以テ正論ヲ壓伏スルハ到底爲シ得ヘカラサルノ事タリ兵事記者ノ駁論ハ未ダ以テ毎日記者ノ惑ヲ解

クニ足ラサルヘシ否吾輩傍觀者ナシテ益ス惑ニ惑ヲ重テシムル如キノ狀ナキニ非ラズ是レ此一篇ヲ草スル所以ナリ記者乞フ暫ク吾輩カ辨明スル所ヲ聞ケ記者曰ク「軍隊ナル者ハ外侮ヲ禦キ内亂ヲ鎮メ以テ國家人民ノ安寧幸福ヲ保護スルカ爲ニ設クル者ナリ故ニ天下不逞ノ徒アレハ之ヲ膺懲スルヲ任トシ其君主將帥ノ令スル所ハ一意ニ之ヲ遵奉スヘキナリ是ヲ以テ其自由ヲ得サルノ點ハ實ニ演說聽聞ニ止マラス之ヲ他ノ人民ニ比スルニ特ニ甚キ者アリ看ミ彼ノ軍律ノ如キモ之ヲ尋常ノ法律ニ比スルトキハ其峻嚴苛刻果シテ如何ソヤ」ト來タレ來タレ來ツテ我カ言ヲ聞ケ我レ今汝ニ教ユル所アラン抑モ軍隊ナル者ハ國家人民ノ安寧幸福ヲ保護スルノ重任ヲ負擔ス



ルコハ吾輩既ニ之ヲ知ル又君主將師ノ令スル所ハ一意ニ  
 之ニ恭順セシメサル可カラザルコモ吾輩既ニ之ヲ悟ル而  
 シテ兵士ノ氣象ハ常ニ勇猛ニシテ其舉動亦頗ル暴激ニ流  
 レ易キノ狀アルカ故ニ尋常一般ノ法律ヲ以テ容易ニ之ヲ  
 拘束スルコト能ハス己ムヲ得ス尋常法律ヨリ差ヤ峻嚴ナル  
 軍律ヲ設テ以テ之ヲ箝束セサル可カラサルコトモ業ニ既  
 ニ之ヲ熟知セリ然レヒ吾輩ハ記者ニ向テ一事ノ教フヘキ  
 モノアリ曰ク軍律ナル者ハ如何ナル者ソ軍人カ罪犯ノ明  
 カナルニ及ンテ其罪ノ輕重ト罪犯ノ事情トヲ酌量シテ初  
 テ之ヲ軍律ニ處スルニアラスヤ故ニ其ノ律ノ通常法律ヨ  
 リ一層峻嚴ナルト否トニ拘ハラス既ニ何罪ヲ犯シタル者  
 ハ何條ニ依テ何罰ニ處スルコトヲ定メタル以上ハ軍人ニシ

テ罪ヲ犯ス者アレハ即チ之ヲ該律ニ處シテ可ナリ然リト  
 雖ヒ其軍人カ未ダ罪過ヲ犯サハルニ當テ演說聽チ禁シ  
 且ツ演說會社ニ加入スルコトヲ制止シ以テ之ヲ夫ハ犯罪後  
 ニ於テ實用スヘキ軍律ト同一物ノ如ク視做スハ抑モ誤レ  
 ルノ甚キ者ナリ何ソ軍人タル者ハ演說ヲ聽聞スルヲ得サ  
 ルノ不自由ヲ受ケサル可カラサルノ理アラソヤ又何ソ演  
 說ヲ聞クノ軍人ハ君主將帥ノ命令ニ恭順セス且ツ彈丸雨  
 射劍光電閃ノ間ニ奮前シテ死ヲ鴻毛ノ輕キニ比シ義ヲ富  
 岳ノ重キニ比スルコトヲ爲シ能ハサルノ理アラソヤ  
 記者又曰ク政權ナル者ハ國ヲ治ルノ大權ナレハ苟モ兵馬  
 ノ權ヲ有スル者ニシテ之ヲ與知スルニ至ラハ專權武斷ノ  
 弊害ヲ生スルノ恐レアリ故ヲ以テ世ノ開クルニ從ヒ此二



權ノ分劃漸ク明ニ今日歐洲諸國ニ於テハ軍人ヲシテ演説  
 講談ノ如キハ概テ之ヲ聽カシメス以テ毫モ政治ヲ與知セ  
 シムルコトヲ許サス是レ蓋シ國ヲ治ムルノ要道ナリ云々ト  
 是レ兵事記者カ一篇ノ論説ノ骨髓ナリ嗚呼記者ハ如何ナ  
 ル眼ヲ以テ今日ノ日本社會ヲ觀ルヤ現ニ陸海軍將官ニシ  
 テ内閣參議タルアリ全佐官ニシテ行政部ノ書記官タルア  
 リテ記者カ最モ嫌忌スル所ノ政兵二權ヲ併有スルノ實ア  
 ルニ非ラヌヤ獨リ我邦ニ於テ然ルノミナラス英國ニ於テ  
 モ亦現ニ陸海軍大將カ上下院ノ議席ヲ保ツニ非ラヌヤ其  
 レ然リ軍人ヲシテ政治ヲ與知セシムルノ果シテ不可ナル  
 アレハ政府ハ奮ニ軍人カ演説ヲ聽聞スルコトヲ禁制スルニ  
 止マラス何ソ進テ文武兩官ヲ兼任スルコトヲ廢セサルヤ思

ハ我政府ハ文武官兼任ノ制度ヲ廢止セサル以上ハ命令  
 軍人ノ演説講談ヲ聽クコトヲ禁スルモ決シテ記者ノ目的ヲ  
 達スルコト能ハサルヘシ  
 記者又曰ク若シ軍人カ擅ニ政治ノ論場ニ臨ミ處士ノ横議  
 ニ盪惑セラレテ政黨ノ正邪ニ疑心ヲ懷ク如キコトアラハ他  
 日國家事アルノ日ニ當リ如何ナル患害ヲ醸生センモ知ル  
 可カラスト吁嗟是レ何等ノ言ソヤ試ニ記者ニ問ハン今日  
 東京及ヒ各地方ニ於テ講談演説ニ從事スル者ハ如何ナル  
 目的ヲ有スルヤ今日ノ演説講談者ハ濫ニ在上ヲ誹議シ又  
 ハ公衆ヲシテ政府ニ反抗セシムルコトヲ勸メントスルニ非  
 ラス唯日本社會ノ安樂幸福ヲ進メ又ハ日本國權ノ基ヲ固  
 フシ又或ハ愚民ノ蒙眼ヲ啓カントスルノ外一モ目的アル



コナカルヘシ去レハ明治十三年ノ今日ニ至ル迄演説講談  
 ニ從事スル者ニシテ夫ノ魯國虛無黨ノ如キ暴舉ヲ企ツル  
 者未タ曾テ有ラサルナリ今日ノ演説者ハ其身廟堂ニ位セ  
 スト雖モ其ノ目的ハ即チ政府ト與ニ一國ノ治安ヲ保チ人  
 世百般ノ事物ヲ改良セントスルニ在リ何ソ軍人カ演説者  
 ノ議論ヲ聽テ徒ニ政府ヲ怨望スル如キコトヲ爲ソヤ又何ソ  
 廟堂諸有司ト民間ノ有議者トノ間ニ正黨邪黨ノ區別アラ  
 ヲヤ果シテ然ラハ仮令軍人ヲシテ自由ニ演説講談ヲ聽カ  
 シムルモ決シテ他日國家ノ患害ヲ生スルノ恐レアルコトナ  
 キナリ吁嗟我陸軍卿ハ何ノ遠慮アリテカ陸軍下士兵卒ノ  
 演説場ニ臨ムコトヲ制止セラレタルヤ吁嗟我政府ハ何ノ見  
 ル所アリテカ集會條例第七條ヲ以テ陸海軍人常備豫備後

備ノ名籍ニ在ル者ヲシテ政談場ニ臨ミ政談會社ニ加入セ  
 シムルコトヲ禁制セラレタルヤ吾輩決シテ其理由ヲ看出ス  
 ルコト能ハサルナリ  
 記者又曰ク今ノ軍人ノ其光榮報酬ヲ國家人民ヨリ享受ス  
 ルノ大ナルヤ殆ント舊時ノ武士ニモ讓ラサルモノアリ軍  
 人タル者安ソ自ラ愛シ自ラ重シ以テ其光榮ヲ全フセンコ  
 トヲ務メサル可ケンヤ又安ソ少許ノ不自由ナル所アルモ其  
 理ノ當然ナルヲ考察シテ之ニ満足セザル可ケンヤト嗚呼  
 何ソ淺見ノ卑薄ナル一ニ此ノ如キノ甚シキヤ記者試ニ歐  
 洲各國ノ憲法ヲ觀ニ結社集會及ヒ發言ノ自由ハ即チ榮譽  
 ノ權利ト與ニ其ノ條中ニ含蓄セリ是レ此ノ三權利ハ夫ノ  
 身体財産ノ二權利ニ次テ人類ノ最モ貴重スヘキモノタル



ナ以テナリ其レ然リ記者カ軍人ノ政談會社ニ加入メ自由  
 ニ演説ヲ爲シ及ヒ演説ヲ聽聞スルヲ禁止セラレ而シテ  
 結社集會及ヒ發言ノ自由ヲ失フヲ以テ少許ノ不自由ナリ  
 ト言フハ取モ直サズ軍人ノ光榮ヲ貴重スルニ過キ結社集  
 會及ヒ發言ノ權利ヲ輕視スルヨリ來ス所ナリ結社集會及  
 ヒ發言ノ自由ハ軍人ノ光榮ト與ニ其ノ貴キヲ全フス何ッ  
 軍人カ演説場ニ臨ミ及ヒ全會社ニ加入スルヲ能ハサルノ  
 不自由ヲ以テ少許ノ不自由ト爲テ可ケンヤ又何ッ軍人ノ  
 光榮ヲ受クル者ハ此ノ如キノ不自由ヲ満足セサル可カラ  
 サルノ理アラシヤ之ヲ要スルニ軍人ニシテ通常人民ト同  
 シ演説講談場ニ臨ミ或ハ全會社ニ加入スルヲ得テコソ  
 其光榮ノ光榮タル實アリ若シ然ラスシテ今日ハ制度ノ如

不自由ニ由テ消滅セサルヲ得サルナリ  
 以上陳述スル所ニ由テ兵事記者ノ迷夢ハ既ニ覺破シタリ  
 ト信スト雖モ吾輩ハ尙記者ニ向テ一事ノ説明ヲ請ハサル  
 ヲ得ザル者アリ何ソヤ曰ク記者カ其論説ノ末文ニ於テ陳  
 述シタル軍人ナル者ハ平素ニ於テハ恭順謙退身ヲ修メ學  
 ヲ講シ云々ノ一節即チ是ナリ抑モ學トハ如何ナル學ヲ指  
 フヤ記者既ニ軍人ノ政治ニ關與スルノ不可ナルヲ説ケリ  
 其政治學法律學ニ非ラサルヲ知ルヘシ軍人ハ農商業ヲ營  
 ム者ニ非ラス其ノ農學商學ニ非ラサルヲ亦知ルヘシ然ラ  
 ハ則チ記者カ指名スル所ノ學トハ兵學ナルカ將タ名將戰  
 爭記ナルカ吾輩ハ未タ其何種ノ學タルヲ知了セスト雖



凡ソ學ヲ講シ書ヲ閱スル以上ハ兵士ナシテ益ス其知識  
 ナ發達シ從テ事ノ正邪直曲ヲ判定スルノ力ヲ得セシムル  
 ハ固ヨリ論ヲ待タサルナリ其レ然リ記者ハ一方ニ於テハ  
 軍人ノ演說ヲ聽聞スルヲ禁シテ軍人ノ知識ノ發  
 達ヲ妨グル如キ達書及ヒ條例ヲ適當ノ者トシカ  
 ニ於テハ軍人ノ知識ヲ發達スルハ他ノ一方ニ於テハ  
 獎シ吾輩ナシテ到底記者ノ目的ノ何邊ニ在ルヤチ看出  
 ルニ苦マシメリ嗚呼記者若シ吾輩ノ說ニ服セサル所アレ  
 ハ幸ニ一篇ノ答論ヲ爲スヲ客ムナカレ

東京神田區美土代町二丁目一番地  
 編輯主任 兵庫縣士族 青木匡  
 東京々橋區新肴町十壹番地  
 出版人 青森縣士族 根津親德  
 同日本橋區元柳町十四番地寄留  
 東京府平民 大平三三次  
 同京橋區銀座一丁目廿一番地  
 假本局 求友社  
 販行人 西宮松之助 同銀座四丁目十番地

明治十三年第五月廿三日刊行

下茂

○政權ノ變遷  
 ○不平論

肥塚龍  
 高井俊

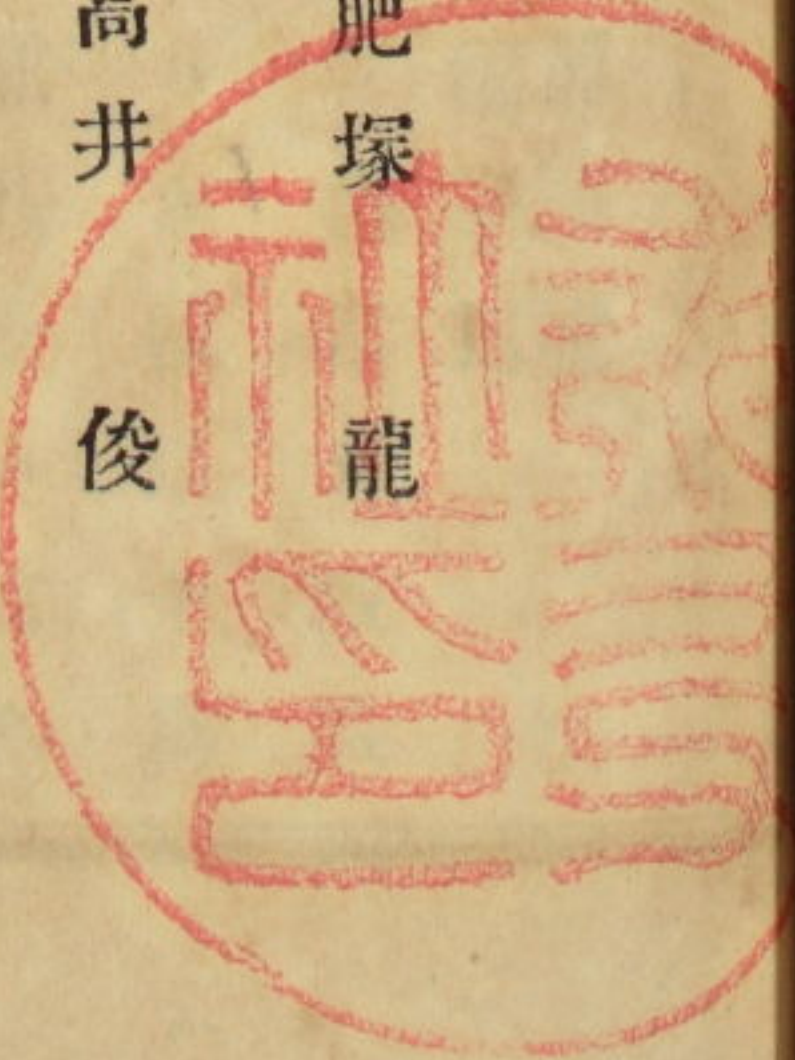
○演說條例論(後篇)  
 ○天下懼ル可キハ何物ソ

丸山名政  
 沼間守一

末廣重恭校閱  
 吉田次郎編輯

嚶鳴雜誌

第十五號





政權ノ變遷

肥塚 龍演說  
青木 匡筆記

諸君ト政談場ニ於テ相見ザルコト已ニ久シ是レ諸君ガ政談  
 ナ聽クコト欲セザルノ致ス所ナル歟將タ我々が政談ヲ爲  
 スコト怠リタルカ故歟決シテ然ラザル可シ唯我々ハ彼ノ  
 集會條例ノ爲メニ聊カ箝束セラレ進ント欲シテ進ム能ハ  
 ス退ント欲シテ亦聊カ心ニ安セサル所アリ荏苒トシテ遂  
 ニ幾ント一月ノ久キヲ經過シタルナリ然ルニ今日此政談  
 場ニ於テ諸君ト相會スルハ余ノ誠ニ歡喜ニ堪ヘサル所ナ  
 リ斯ク考察シ來レハ此集會條例タル吾人ニ不治ノ苦惱ヲ  
 與ヘシ者ノ如ク見ユレト退テ再思スレハ亦多少吾人カ思  
 想ヲ慰スル者ナキニアラズ諸君試ニ社會ノ歡樂ヲ見ヨ歡



樂ノ分量ハ必ス定分アル者ニテ封建時代ニハ社會ノ歡樂  
 ハ王公相將ノ一身ニ集リ全國一般人民ノ歡樂ハ其分量甚  
 タ少シ一般人民ノ歡樂少キカ故ニ王公將相ノ歡樂大ナリ  
 今夫レ集會條例ノ發スル以前ニ當リ演說聽聞ノ自由ハ三  
 千万人共有ノ自由ナリシニ此條例ノ出テシヨリ聽聞ノ自  
 由ハ封建ノ狀ヲ爲シ全國多數ノ人民ガ受ケ能ハザル自由  
 ナ少數ノ諸君等ノミ受クルコトヲ得セシムルニ至レリ即チ  
 此集會條例タル少數ノ諸君ニ歡樂ヲ與フル者ニ非スシテ  
 何ヅヤ  
 以上ハ集會條例發布以來今日余カ初テ政談場ニ昇ルニ際  
 シ聊カ感スル所アリテ開陳シタルニ過キス故ニ是ヨリ本  
 題ニ入テ古今政權ノ基本大ニ變遷シタル所以ヲ詳細ニ論

述セン夫レ政權ナル者ハ其出ツル所古今大ニ差異アリ是  
 レ社會万般ノ事物ハ常ニ變遷轉化シテ己マサルノ致ス所  
 ニシテ勢ノ自然ニ免ル可カラサル者ナリ蓋シ政權ヲ生ス  
 ルノ基本ニ二種アリ曰ク土地曰ク智識是ナリ思フニ古ノ  
 政權ハ概テ土地ヨリ生シ今ノ政權ハ多クハ智識ヨリ生ス  
 而シテ古ハ政治上ニ於テ智識ヲ活動セシムルハ甚タ無用  
 ナリ夫ノ祖先傳來ノ土地ヲ保有スル者ヲ見ヨ唯其土地ヲ  
 有スルガ爲メニ幾分ノ政權ヲ掌握セザルハナシ例ヘハ諾  
 耳曼、ウイリヤム、カ英國ヲ掠奪セシ時ニ際シ英國全土ヲ  
 分チテ六万區トナシ以テ之ヲ自家ノ從臣ニ分與セリ而シ  
 テ其土地ヲ有スル者ハ皆幾分ノ政權ニ與リタリ獨リ英國  
 ノミナラス佛國ニ於テモ亦然リ一千七百年以前ノ佛國ヲ



見ヨ當時王公侯伯ハ皆方千里乃至百里ノ土地ヲ有セリ是  
 レ土地ト政權ト相密着スルノ適例ナリ然ルニ其後人智益  
 ス發生シ政府屢々改革ヲ經ルニ從テ政權ハ漸ク智識ヨリ  
 生シ其土地ヨリ生スルノ政權ハ次第ニ跡ヲ社會ニ絶ツニ  
 至リタリ諸君ハ此二種ノ政權ヲ以テ孰ヲ可トシ孰ヲ不可  
 トナスヤ余ハ思フニ其ノ政權ハ土地ヨリ生スルモハ少  
 數ノ人士特ニ之ヲ掌領シ其ノ智識ヨリ生スルノ政權ハ人  
 々智カノ多少ニ由テ之ヲ占有スルヲ得ルノ事情アリ之  
 ナ詳言スレハ則チ多數ノ人士ガ與ニ政權ヲ把握スルヲ得  
 ルナリ是ニ由テ之ヲ考フレハ智識ニ由テ生スルノ政權ハ  
 土地ニ由テ生スルノ政權ニ勝ルヲ疑ハ入ル可カラズ  
 果ノ然ラハ我々自由論者ハ勉メテ政權ヲシテ智識ヨリ生

蓋シ此目的ヲ達セント欲セハ必ス法律ノ力ヲ假ラザルヲ  
 得ス然リ而シテ古ノ法律中亦政權ヲシテ土地ヨリ生セシム  
 ル如キ者アリ即チ一家相續法是ナリ諸君ハ既ニ知悉スル  
 ナラン古ノ相續法ニ依レハ即チ長子タル者ハ其賢不肖ヲ  
 問ハス土地ノ財産ハ悉ク之ヲ讓受シ從テ亦其官位ヲモ世  
 襲シ而シテ其弟タル者ハ概チ父ノ財産ヲ讓リ受クル能ハサ  
 リキ之ヲ要スルニ堯ノ子ニシテ丹朱アリ舜ノ子ニシテ商  
 均アルカ如ク子其父ノ智識ヲ相續スルヲ甚タ容易ナラ  
 サルモ財産ハ即チ如何ナル不肖ノ子ト雖モ容易ク之ヲ相  
 續スルヲ得タリ是レ政權ヲシテ智識ヨリ生セシムルヲ  
 ナ妨クルノ法ニアラスシテ何ソヤ若シ其レ政權ヲシテ漸



少智識ヨリ生セシムルニ至テハ社會人民一般ニ自由ノ樂  
 ナ受クルヲ得ヘキナリ今ヤ日本ノ政權ハ智識ヨリ生ス  
 ルカ將タ土地ヨリ生スルカヲ考ルニ維新以來茲ニ殆ト十  
 三年政府ハ大ニ日本社會ノ制度文物ヲ改良シタリト雖  
 今日ニ於テ尙ホ政權ヲシテ土地ヨリ生セシムル如キノ實  
 アルハ誠ニ慨嘆ニ堪ヘザルナリ試ニ今一二ノ例ヲ舉クレ  
 ハ近頃日本ニ於テ政權ヲ平等ニ分ツノ說アレト日本ノ平  
 等ハ真正ノ平等ニ非ラズ唯日本内地一部分ノ人民中ニ政  
 權ノ平等ヲ保ツ者ノ如シ試ニ見ユ舊薩長二藩人士ハ智識  
 ハ舊他藩ハ人士ト同等ナルニ其官職ハ遙ニ上等ノ地位ヲ  
 占メ從テ大ニ他藩人士ニ勝ルハ政權ヲ掌握スルニ非ラズ  
 ヤ是レ薩長ハ土地ト其他ハ土地トハ間政權ニ大ナル厚薄

ナ生スル者ナリ又府縣會議員選舉權及ヒ被選舉權ハ果  
 何物ヨリ生スルカ地租拾圓并五圓ヲ以テ此兩權ヲ得ルノ  
 制限トナスニ非スヤ故ニ余ハ斷シテ曰ハ日本ノ政權ハ  
 土地ヨリ生スルノ政權ニシテ智識ヨリ生スルノ政權ニ非  
 サルナリ然ラハ政權ヲシテ智識ヨリ生セシムルノ手段ハ  
 之ヲ如何ニス可キ此ノ天地間ニ立テ神通自在ノ力ヲ有ス  
 ル法律ニ依頼スルヨリ外ナラザルナリ何ヲ以テ法律ハ神  
 通自在ノ力ヲ有スト言フ例ヘハ法律ニ由テ以テ煙草ヲ喫  
 シ粟梨ヲ食スルヲ禁セハ如何ン煙草及ヒ粟梨ハ決シテ  
 毒物ト言フニ非ラズ然ルモ法律ノ力能ク之ヲ喫シ及ヒ  
 能ク之ヲ食セサラシム可シ然ラハ則チ法律ナルモノハ天  
 地間ニ立テ山ヲ拔キ川ヲ覆ヘスノ力ヲ有スル者ト云ハサ



ル可カラス而シテ現時我日本ニ於テ此法律ヲ立テ法律ヲ  
 取扱フ者ハ即チ智識ヨリ生スルノ政權ヲ有スル者ニ非ス  
 シテ土地ヨリ生スル政權ヲ有スル者ノ如シ然リ其政  
 權ヲシテ永ク土地ヨリ生セシメハ則チ遂ニ天下公衆ノ福  
 利ヲ進メ幸益ヲ達スルノ期ニ至ルヤ甚タ難カルヘシ故ニ  
 法律ヲシテ益々善良ナラシメントセハ政權ヲシテ智識ヨ  
 リ生セシムルノ手段ニ出テザル可カラズ而シテ其土地ヨ  
 リ生スルノ政權ヲ消滅スルハ即チ我々有志者ノ責任ナリ  
 然レモ今日輒ク其ノ目的ヲ達スルノ手段ヲ得ル能ハサル  
 者ハ何ッヤ人智ノ未ダ開發セサルハ故カ將タ政府ガ法律  
 ノ然ラシムルニ因ルカ諸君自ラ熟思セバ之レカ判決ヲ爲  
 スニ餘アレハ

不平論

高井 俊稿

存らへばまた此頃や忍ばれんうゝと見し世ぞ今ハ戀し死  
 ト個ハ是レ藤原清輔ガ述懐ノ歌ニシテ駿馬毎ニ痴漢走巧  
 妻毎ニ伴拙夫眠ト是レ則チ唐伯虎ガ作ル所ノ諷詩ナリ唐ト  
 大和ト異ナレド其ノ不平ノ心ヤ則チ同シ嗚呼世間ハ廣シ  
 何ゾ不平ノコトナカラシ人類ハ多シ何ゾ不平ノ人ナカラシ  
 今チ距ルコト僅ニ十四五年ノ前ニ於テハ常ニ美服ヲ着シ美  
 食ニ飽キ侍妾數十人其ノ前後チ擁シタル貴人ハ今ヤ其ノ  
 稱チ華族ト變シ之チ皮相視スレバ猶萬民ノ上流ニ立チ財  
 寶チ貯ヘ艶妾チ擁シ其ノ身ノ幸福ハ決シテ平民ノ占収シ  
 得ベキ所ニ非ザルガ如キモ其ノ一舉一動ハ尽ク華族會館  
 ノ規則ニ支配サレ其ノ身心チ舉テ皆其ノ族長ノ命ズル所



二從ハザルヲ得ズ吾輩必其ノ不平有ルヲ信ズルナリ其ノ  
 衣食ニ窮セザル華族猶然リ況ンヤ士族ヲヤ故ニ其ノ封建  
 時代ニ於テ頭ヲ家老用人ニ低ゲ無暗ニ叱咤罵詈サレタル  
 ノ輩ト雖モ何ソ憂シト見シ世ぞ今ハ戀一々ノ歎ナカラシ  
 ヤ而シテ平民ニ於テモ亦然リ大名旗本ノ出入ヲ爲シタル  
 者ハ勿論ニシテ仮令ヒ然ラザリシ者モ之ガ爲メニ間接ニ  
 利益ヲ享ケザル者ナカリキ一朝時世ノ變轉ニ因リ此ノ大  
 得意ヲ失ヒ俄カニ貧困ト爲リ忽チ零落シテ家ヲ潰セシハ  
 其ノ幾人ナルヲ知ラズ維新以來好機會ニ際會シ大ニ利益  
 ヲ享受セル者モ亦之レ無キニ非ザルモ之ヲ要スルニ農商  
 ノ不平ヲ抱クモノ蓋シ多キニ居ルヤ必セリ右ニ述ル所ハ  
 則チ今ヲ怨ンテ古ヲ慕フノ不平ナリ之ヲ言ヒ替ユレハ藤

原清輔ノ賛成者タルニ外ナラズ然レモ是クノ如キハ徒ラ  
 ニ一身ノ安逸ヲ欲スルノ愚痴心ヨリ發スルノミ社會ニ益  
 ナキノ不平タルヤ明ラカナリ而シテ此ニ一ノ社會ニ有益  
 ナル不平アリ是レ則チ政事上ノ不平ナリ法律上ノ不平ナ  
 リ外交上ノ不平ナリ理財上ノ不平ナリ蓋シ我カ政府ハ賢  
 明ノ淵叢ナルベキガ故ニ過大ノ失策ヲ爲スノ憂ナキモ不  
 平論者ノ思想ハ自己ガ充分ニ改進セル邦國ノ人民タラン  
 ヲ希望スルニ因リ一ヲ受ケテ十ヲ貪ボリ隴ヲ得レハ蜀ヲ  
 望ミ其ノ論ズル所ハ至善至美ノ世態ヲ欲スルニ在リ其ノ  
 志ス所ハ完全無缺ノ境域ニ達セントスルニ在リ夫レ今ノ  
 法律ヲ制定スル者モ固ヨリ半開ナル日本ト仮定スルニ於  
 テハ此上モナキ人物ナリ今ノ政柄ヲ執ルモノ亞細亞洲中



彈丸黒子ノ一小弱國ナル日本ナリト明ラメルニ於テハ無  
 類老功ノ豪傑ナリ我邦ハ神國ナリ國訓神ハ紙ト通ズ宜シ  
 シ紙幣ヲ以テ日本ヲ組織スベシト謂ハ、今ノ財政ヲ司ル  
 者ハ實ニ絶群ノ理財家ナルベク我邦ハ蜻蛉洲ナリ小サキ  
 虫ケラノ身ヲ以テ迎モ鷲獅ニ敵對スベクモ非ズトテ常ニ  
 蛇ニ卷カレタル兒ヲ氣取り長イ物ニハ卷カレロノ秘訣ヲ  
 守ル可クシバ今ノ外交ニ當ル者ハ拔群ノ才子ナルベシト  
 雖モ今日ノ論者ハ我カ日本ヲ半開ナリト言フヲ願ハズ小  
 弱國ヲ以テ自ラ居ルヲ欲セズ紙ヲ信用スルヲ金銀ノ如ク  
 ナラズ外國政府ヲ視ル鬼神ノ如クセザルナリ吾儕ガ之ヲ  
 此ニ明言スルハ近頃甚々残念ナガラ日本ハ實ニ半開小弱  
 ニ相違ナク金銀少ナク權力乏シ其レ然リ故ニ今ノ事ヲ執

ル者ハ實ニ日本ノ時勢狀態ニ適當スル者ナリ論者ノ漫ニ  
 唐伯虎ヲ真似テ駿馬癡漢ヲ駄シ巧妻拙夫ニ伴フヲ歎スル  
 ハ蓋シ亦破鍋ニハ破レ蓋アルベクシテ決シテ金銀ノ蔓ヲ  
 付ケル可カラザルヲ知ラザルノ過チノミ然レモ己レガ生  
 國チシテ至善至美ナラシメント欲スルノ誠意ヨリ發スル  
 ノ不平ヲ以テ徒ニ昔日ノ袖手坐食ヲ欲スルノ清輔者流ト  
 一般視スルノ謂アラシヤ世間愚人アリ其ノ性質ノ良否ヲ  
 判セスシテ漫ニ不平ノ二字ヲ忌ム者アリ因ツテ不平論ヲ  
 作ル

演說條例論 (後篇)

丸山 名政

參政ノ權理ハ人生固有ノモノナリト雖モ懲役一年以上實  
 決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未ダ辨



償ヲ終ヘサルモノハ此ノ權理ヲ得ルヲ能ハズ身体ノ自由  
 ハ人生固有ノモノナリト雖モ罪アリ獄裏ニ鎖鋼セラレ、  
 ノ間ハ此ノ自由ヲ得ル能ハズ由是觀之刑罰ナルモノハ權  
 理自由ヲ害スルノ性質ヲ備フルモノナルヤ明カナリ人ノ  
 權理自由ヲ害スルハ不可ナリト雖モ害スヘキ理由アリテ  
 之ヲ害スルハ嘗ニ不可ナラザルノミナラズ之ヲ稱シテ國  
 安ヲ保護スルモノト云フテ可ナリ天理政法ニ背犯セル演  
 說ハ即チ國安ヲ害スル者ナルヲ以テ至當ノ法律ヲ設ケテ  
 之ヲ罰スルハ當然ノ理ナリ世ノ論者ガ此ノ理ヲ知ラスシ  
 テ妄ニ演說條例設クベカラスト喋々スルハ寔ニ憫笑ニ堪  
 ヘザルナリ  
 夫レ天理ニ背犯シ政法ヲ誹譏スル演說ノ制止セザルベカ

ラザルヤ斯ノ如ク明カナリトセハ天理ニ背犯セズ政法ヲ  
 誹譏セサル演說ノ制止スヘカラサルヤ瞭然タリ演說條例  
 ヲ設ケテ國安ヲ妨害スルモノヲ制止スルハ可ナリト雖モ  
 併セテ國安ヲ妨害セサル者ヲモ制止スルハ不可ナリ蓋シ  
 一利アレハ一害アルハ事物ノ常數ナルヲ以テ演說ト雖モ  
 此ノ常數ヲ免ル、能ハザル可シ政權ト雖モ亦此ノ常數ヲ  
 免ル、能ハザルベシ余輩ハ演說ノ害用ヲ防グノ緊要ナル  
 ヲ知ル更ニ一步ヲ進メテ先ツ政權害用ノ門ヲ閉サ、ルヘ  
 カラス余輩ハ政府カ演說條例制定ヲ賛ス更ニ一步ヲ進メ  
 テ先ツ國會ヲ設クテ以テ政權ノ害用ヲ防カシメヨト陳告セ  
 サルベカラズ凡ソ人ヲ正サント欲スル者ハ必ズ先ツ己レ  
 ヲ正フセサル可カラス政府ガ人民ニ向テ演說ノ害用ヲ正



サント欲セハ請フ先ツ自ラ正フシテ後ニ人民ヲ正セ若シ  
 夫ノ然ラズシテ偏ニ數千百條ノ法律ニ依頼シテ國安ヲ維  
 持セント欲セハ其國安ハ却テ條例ノ爲ニ妨害セラル、ニ  
 至ルコアルベシ  
 余輩ノ所謂ル演說ノ害用トハ國家ノ安寧ヲ害スル者ヲ云  
 フナリ專治政府ノ治安ヲ害スルノ謂ニ非ルナリ君主專治  
 ノ國ニ在リテハ外面ヨリ見レハ如何ニモ一体ノ如クニ見  
 ヲレモ内部ニ就テ之ヲ視レバ其國ハ即チ二個ノ身体ヲ備  
 フルモノ、如シ何トナレバ人民未タ參政ノ權理ヲ得ザル  
 ガ故ニ政府ト人民ト其利害ヲ異ニスル所アレハナリ而シ  
 君民同治或ハ共和政治ノ國ニ於テハ常ニ人民ヲシテ政治  
 ニ參與セシムルヲ以テ其國ハ一個ノ身体ヲ備ヘ政府ハ即

チ人民ニシテ人民ハ即チ政府ナリ故ニ立憲國ノ人民ガ政  
 府ヲ誹謗シ官吏ヲ讒誣スル者アレニ此ノ誹謗サレタル  
 政府ハ其國民ガ許シテ以テ政府トナセシ所ノモノナリ其  
 讒誣サレタル官吏ハ其國民ガ許シテ以テ官吏トナセシ所  
 ノモノナリ人民既ニ自ラ許シタル所ノモノヲ誹謗讒誣ス  
 ルハ即チ其國民ノ安寧ヲ害スルモノナルカ故ニ之ヲ罰シ  
 テ國安ヲ保護セサルヘカラズ專治國ノ人民ガ其政府ヲ誹  
 謗シ官吏ヲ讒誣スルモノアリトセンニ其誹謗サレタル政  
 府モ其讒誣サレタル官吏モ亦國民ノ許シテ以テ政府ト爲  
 シ官吏ト爲セシ所ノ者ニ非サルナリ既ニ國民ノ許ス所ニ  
 非サレハ是レ人民ノ政府ニアラスシテ政府ノ政府ナリ人  
 民ハ租稅ヲ出シテ政府ノ費用ニ供ス其處置ノ宜カラザル



所ハ之ヲ辨論セサルヘカラズ而シテ之ヲ辨論スルノ餘勢  
 或ハ政府ヲ誹謗シ官吏ヲ讒誣スルノ姿ヲ現スルコトナシト  
 セズ之ヲ認メテ國安ヲ妨害スルモノナリト云フテ其口ヲ  
 箝スルヲ得ヘキ乎蓋シ君主專治ノ國ニアリテハ國民ノ意  
 向ト政府ノ意向ト往々背馳スルコトアルヲ以テ政府ヨリ國  
 民ノ主義トスル所ヲ觀レハ是レ政畧ニ違フモノナリ國民  
 ヨリ政府ノ主義トスル所ヲ觀レハ是レ民情ニ反スルモノ  
 ナリ政畧ニ違フモノ非耶我レ得テ之ヲ知ラサルナリ民情  
 ニ反スルモノ是耶我レ得テ之ヲ知ラサルナリ斯ノ如キ時  
 ニ當リ演說條例ヲ設ケテ以テ人民ニ臨マハ凡ソ政府ト目  
 的ヲ異ニスル所ハ論說ハ盡ク國安妨害ト認メラルニ至  
 ルベシ

余輩海外ノ歴史ヲ繙キ右ノ如キ悲境ニ陥ルノ國ヲ目撃ス  
 ル毎ニ未タ嘗テ痛歎セズンバアラス幸ニ我邦ニテハ聖  
 主賢相ノ夙ニ治術ニ汲々セラル、ヲ以テ名ハ專治ト云フ  
 ト雖モ其實決テ余輩ガ前段ニ陳ルガ如キ政權ノ害用アラ  
 サルハ萬々保証スル所ナレモ如何セン其名ノ存スル所ハ  
 其ノ弊害ノ由テ生スル所タルハ古今ノ常勢ナルヲ以テ我  
 政府ガ國約憲法ヲ創定シテ以テ其名ヲ正シ國會ヲ設立シ  
 テ其義ヲ正フスルニ非ルヨリハ余輩人民タルモノガ萬一  
 ナ專治ノ弊害ニ過慮シテ斯ノ如キノ言辭ヲ吐露スルニ至  
 ルモ亦不當ニ非サル可キヲ信ズ  
 余輩前篇ニ於テ行政官吏ニ演說禁止ノ權ヲ委任スルノ危  
 險ナルヲ論セシカ此篇ニ於テハ更ニ一步ヲ進メ專治政府



ニ條例ヲ創立シ及ヒ之ヲ使用スルノ權ヲ委托スルハ衆童  
ニ及物ヲ持タシムルカ如キモノアルヲ以テ之ヲ至當ノ政  
府(即チ立憲政府)ニ委托シ及物ノ及物タル効用ヲ尽サシタ  
ント欲ス是レ即チ此ノ篇ノ眼目タリ讀者以テ如何トナス  
天下懼ル可キハ何物ソ  
沼間守一演說  
吉田次郎筆記

茲ニ人アリ諸君ニ對シテ諸君ハ快樂ヲ好ミ安寧ヲ欲スル  
乎ト問ヒ又之ニ反シテ諸君ハ快樂ヲ嫌ヒ安寧ヲ忌ム乎ト  
問ハ、諸君必ス之ニ答ヘテ云ハシ我輩ハ快樂ヲ好ミ安寧  
ヲ欲スルモノナリト而シテ人間ノ快樂安寧即チ公衆眞誠  
ノ幸福ナルモノ果シテ如何ナル點ニ於テ存スル乎將タ如  
何ナル點ヨリシテ退歩スル乎起因ヲ尋ルニ國ノ大本ノ  
正ニ正確ノ位地ニ立チ法律正ニ日進ノ勢力ヲ具スルノ時

ニ於テ始メテ公衆ノ幸福ヲ増加スルノ前途ヲトスベク之  
ニ反シテ大本常ニ正確ナラス法律常ニ十分ナラサルノ國  
ニ於テハ公衆ノ幸福ヲ前途ニ減却シ將タ之ヲ舉テ烏有ニ  
歸スルヲ証スベシ其然リ吾人カ公衆ノ幸福ヲ完受セシメ  
テ望マハ先ツ國ノ大本ヲ固定シ法律ノ前歩ヲ駛進セシメ  
シテ望マサル可ラス抑モ大本ノ正確ノ位地ヲ失ヒ法律  
ノ秩序ヲ紊ルカ如キハ種々ノ根元アリテ存スト雖モ之ヲ  
要スルニ災害ナルモノアリテ之カ媒酌ヲナサハル者ハ有  
ラサルナリ災害ノ胚胎スルヤ漸次ニ其國ヲ蠱シ其表發ス  
ルヤ直ニ其國ヲ舉テ離亂ノ極ニ陷ラシメ土崩瓦解復タ爲  
ス可ラサルニ至ル事既ニ此ノ如クナレハ公衆ノ幸福亦日  
ニ之ヲ減却シ遂ニ舉テ之ヲ失フニ至ルハ理ノ相從フモノ



ナリ吾人焉之ヲ未發ニ防ガザルヲ得ンヤ古人言ヘルアリ曰ク禍ノ作ルハ作ルノ日ニ作ラズシテ必ズ由テ起ル所アリト宜ナル哉言ヤ

漢ノ孝景皇帝即位ノ初年吳王濞反シ相次テ楚趙等相反ス之ヲ吳楚七國ノ亂トス周亞夫ノ功能ク之ヲ平定スト雖一時ハ漢家ノ社稷ヲ舉ケテ實ニ危險ノ地ニ臨マシメタリ此事實ニ景帝ノ世ニ在リト雖其遠因遙ニ漢家カ一閭ヲ封スルノ日ニ胚胎シ其近因正ニ文帝カ恭謙寛容ノ極罔疏ニ民富ニ或驕溢ニ至リ兼并ノ徒郷曲ニ武斷スルノ餘弊ニアリ故ニ七國ノ亂ハ景帝ノ世ニ始マラズシテ却テ高祖孝文ノ時ニ兆セリ降ツテ宋家ノ末世金ノ窘ムル所トナリ遂ニ胡元ノ亡ボス所トナリシモ亦其創業ノ際藩鎮ノ制未タ周到

ナラサルニ基ヒスルモノ、如シ又我朝源家ノ始メテ幕府ヲ置キ賴朝カ天下兵馬ノ權ヲ掌握スルニ當テヤ朝陽ノ萬家ヲ照ラシテ至ラサル所ナキカ如クナリシト雖モ未タ三代ヲ出テサルニ實朝ハ遂ニ公曉ノ殺ス所トナリ源家茲ニ亡ブ然レトモ源家ノ滅スル公曉カ實朝ヲ殺スノ日ニ在ラズシテ賴朝カ北條氏ヲ信任シテ範賴義經ヲ苛待スルノ時ニアリ足利氏ノ世亦然リ眼ヲ放テテ十三世ノ形狀ヲ通觀スルニ諸侯四方ニ割據シ甲起乙伏東爭西戰人民常ニ安處スル能ハズ足利氏ハ有レトモ無カ如ク遂ニ織田三好松永等ノ爲ニ倒サル蓋シ足利ハ織田三好松永ノ爲ニ亡ボサル、ノ日ニ亡ビシニアラズノ尊氏カ當初功勞者ニ封スルノ多キ日ニ其兆ヲ顯ハセシナリ近時ニ至リ慶應戊辰ノ年徳



川氏ノ大政ヲ失ヒシモ亦鳥羽伏見ノ一敗ニ非スシテ之ヲ  
 永遠ニ包藏シ來リシヤ諸君ノ眼前ニ知ラル、所ナラン由  
 是觀之禍ハ作ルハ日ニ作ラズシテ未タ發セサルハ日ニ兆  
 スルト云ハサルヲ得ンヤ  
 斯ク論シ來ルモ獨リ如何セン禍害ノ來ル其ノ何ノ時ニア  
 ルヲ知リ難キヲ若シ災害ノ其種子ヲ播クニ當リ人アリ我  
 々ハ今禍害ノ播布ニ着手セリ公衆ニ豫メ之ヲ知レト公  
 告セシメハ人皆之ヲ知ラシ然レトモ彼レ無形ニシテ觀ル  
 能ハズ彼レ口ナクシテ言フ能ハズ我輩ハ諸君ト共ニ之ヲ  
 觀察スルニ苦メリ詩ニ云フ天ノ未タ陰雨セサルニ及ンテ  
 牖戸ヲ綢繆スト易ニ云フ霜ヲ履テ堅氷臻ルト其レ然リ設  
 ヒ禍ノ去來スル之ヲ知ル能ハサルモノナリト雖モ上ニ揭

クル所ノ二語ニ徴シ以テ思テ費ヤスアラハ禍害ノ兆候ヲ  
 窺フニ當リ豈ニ知ルヲ得サルノ物ナランヤ諸君ヨ意テ此  
 ニ注クアラハ禍害ノ兆候ヲ發見スルニ於テ一日モ之ヲ怠  
 ル可ラズ一時モ之ヲ猶豫スベカラズ今一步ヲ進メテ前段  
 ニ陳ヘシ所ノモノヲ擴張セハ國ハ大平ヲ定メ法律ハ秩序  
 ナ整ヘ以テ公衆ハ幸福ヲ全フスルハ災害ハ兆候萌芽ヲ知  
 ルニ外ナラズ天ノ未タ陰雨セサルニ及ンテ牖戸ヲ綢繆ス  
 ルモノハ之ヲ未然ニ察シ以備フル所アルナリ霜ヲ履ンテ  
 堅氷臻ルハ之ヲ未然ニ量リ以テ戒ムル所アルナリ斯ノ如  
 ク災害ナル者ハ之ヲ知レハ安ク之ヲ知ラサレハ危キノ  
 毒質ヲ具セリ雖然之ヲ知ルモノハ獨リ有識者ニシテ而シ  
 テ愚人ハ固ヨリ之ヲ知ル能ハサルナリ

(未完)



東京本所區橫網町二丁目二番地

静岡縣士族

編輯主任 吉田次郎

同日本橋區元柳町十四番地寄留

青森縣士族

出版人 根津親德

東京々橋區新着町十壹番地

假本局 求友社

販行人 西宮松之助

同京橋區銀座四丁目十番地

明治十三年第六月廿四日刊行

○田舎土産

末廣重恭

○琉球諸島記

吉田次郎

○日本智識生育ノ變態

肥塚龍

○支那侮ルヘカラス

菅谷敬清

下

末廣重恭校閱  
吉田次郎編輯

櫻鳴雜誌

第十六號





田舎土産

末廣重恭演説

余ハ地方ヨリ歸リ久シ振ニテ此席ニ臨ミ諸君ト相見ルヲ  
得タリ再會ノ御土産ニ何か諸君ニ呈上セント欲スルモ余  
ガ郷里ハ海魚材木等ノ外ニ産物ト稱ス可キ者ナシ鹿大ニ  
シテ腐敗シ易キ者ハ之ヲ携帶スルニ便ナラズ因テ玆ニ一  
ノ竹筍ヲ持チ出シ不賤ノ幣物ト爲サントス然レモ此ノ竹  
筍ハ今ヨリ二千年前支那ニ發生セシモノナレハ或ハ堅ク  
シテ齒ニ合ガタカラソ諸君請フ之レヲ口ニ食ハズシテ之  
レヲ耳ニ食ヘ蓋シ竹筍ハ温暖ナル地方ノ特有物ナリ諸君  
ノ知ラル、ガ如ク我が邦ニテモ北海道ノ如キハ一ノ青竹  
ヲ求メントスレモ得ベカラズ昔者支那ノ北部ニ正直ナル



士人アリ偶々江南ニ遊ヒ皮ヲ蒙ツテ土中ニ突起スル者アルヲ見テ其ノ名ヲ知ラズ怪ンテ之レヲ問ヘハ曰ク是レ竹筍ナリ肉脆ニシテ美ナリ之ヲ煮テ食フ可シト士人喜ンテ之レヲ買ヒ携ヘテ旅寓ニ歸リ之ヲ園中ニ植エシニ筍ハ朝ニシテ數寸ヲ長セリ士人謂ラク今ニシテ之ヲ割庖スルハ惜ムベシ長大ト爲ルヲ待テ十分ニ之ヲ饜飽スルヲ得ント之ヲ待ツ數月筍ハ籜ヲ脱シ枝ヲ生シ亭々トシテ凌雲ノ勢アルニ至レリ士人大ニ喜ヒ斧ヲ以テ割リ刀ヲ以テ削リ之ヲ釜中ニ煮ルコト三日三夜ナリシモ堅シテ食フ可カラズ是ニ於テ士人ハ深ク農夫ヲ怨ンテ己レヲ欺クトセリ諸君ハ余ノ言ヲ聞イテ徒ニ抱腹絶倒スル勿レ夫レ竹筍スラモ時ヲ以テ食ハズ長シテ青篋ト爲ルニ至レハ復々齒牙ヲ以テ

之ヲ噬ミ碎ク可カラズ况ンヤ智識アル人民ニ於テチヤ十三年ノ星霜ヲ經過シ復々舊時ノ脆弱ナルガ如キニ非ザルヲ省知セズ曰ク人民ハ幼稚ナリ曰ク人民ハ無氣無力ナリト之ヲ矯メ之ヲ回ケ止タ己ガ意ノ如クナラシメントスルハ豈ニ亦此ノ士人ノ舊轍ヲ履マントスル者ニ非ズシテ何ゾヤ

余ハ都會ニ遊寓スル八年ノ久キニ及ベリ前月南海ニ歸リ親ク地方ノ事情ヲ目撃シ自ラ發明セシ所ノモノ一ニシテ足ラズ余ノ如キ常ニ社會ノ活動ニ注視シ地方ノ報告ヲ採取スルニ盡力スル者スラ想像ノ實際ニ背馳スル者アルヲ免カレズ夫ノ輕肥ニ乗ツテ膏腴ニ飽キ聲色ノ爲ニ耳目ヲ聳官スル者ノ如キハ何ゾ能ク坐シナガラ地方ノ民情ヲ洞



察スルヲ得ベケンヤ今日官吏社會中ニ常言アリ曰ク士族  
 ハ財産ナク農商ハ知識ニ乏シ故ニ地方ノ民權論ハ不平ト  
 誑惑トニ出ヅ之ヲ認メテ社會ノ公論ト爲ス可カラザルナ  
 リト嗚呼其レ然ルカ其レ然ラザルカ今日士族ノ目的ヲ失  
 ヒ方向ニ迷フモノ固ヨリ鮮少ナラズ然レモ進シテ社會ノ  
 下ニ奔走シ言論ヲ以テ公衆ノ尊敬ヲ得ル者ハ決シテ身ニ  
 財業ナク衣食ヲ他人ニ仰グ貧乏士族ニハ非ザルナリ農商  
 ノ頑固蒙昧ナルモノ固ヨリ一ニシテ足ラズ然レモ社ヲ結  
 ビ會ヲ起シ以テ政事ヲ談シ法律ヲ説クハ教育ナク知識ナ  
 キ田夫野人ノ企ダテ及ブ能ハザル所ナリ且ツ夫レ地租改  
 正ノ結果ト年豐ニシテ穀貴キトノ影響ニ因リ人民ノ活計  
 上ニ餘裕ヲ生シ中等以上ノ者ニ至ツテハ復タ自ラ来テ把

リ田ヲ耕スノ勞役ニ從事スルヲ要セズ而シテ教育ノ普及  
 スルヤ一町一村ニ學校ナキノ地ナキニ至ル是ニ於テカ農  
 商ノ壯丁ナル者ハ皆ナ新聞ヲ讀ミ翻譯書ヲ講シテ耳目ヲ  
 時事ニ注射シ而シテ士族ノ職業ヲ求メ又ハ教官郡吏ト爲ツ  
 テ町村ニ散布スル者徒テ之ガ智識ヲ分配スレバ民間ノ有  
 様ハ復タ封建政治ノ時ト同一視ス可カラザルナリ之レニ  
 加フルニ町村會府縣會ノ設立アツテ實地ニ政務ノ經驗ヲ  
 爲セバ如何ナル柔順ノ人民ト雖モ何ゾ其ノ進取ノ氣象ヲ  
 増加シザルヲ得ンヤ夫ノ國會設立ノ要請ノ如キ彼レニハ  
 百人此ニハ千人ト我レ先キニ名ヲ同盟簿ニ列シ職業ヲ廢  
 シテ集會ヲ爲シ費用ヲ吝マズノ委員ヲ派遣スルニ至ル誠  
 心ニ基キ熱望ニ出ルニ非ズンハ何ゾ能ク此ノ如クナラン



ヤ然ルニ今日ノ人民ヲ以テ十年前ノ人民ニ異ナラザルト  
思惟シ其ノ壽ヲ撚ナガラ揚言シテ曰ク社會ノ一ハ乃公ノ  
意ノ如クナラシム可キノミ無産ナル士族ト無識ナル農民  
ハ將タ何事ヲカ爲シ得ンヤト是レ嚮キニ士ヲ蒙リシ穉笱  
ヲ見テ其ノ今日ニ於テ已ニ亭々タル竹竿トナリシヲ解セ  
ザルニ坐スルノミ

琉球諸島記

吉田次郎手稿

(以下次号)

琉球藩ヲ廢シテ沖繩縣ヲ置カレシヨリ清廷ノ嘴ヲ此所  
分ニ容レント欲スルアルガ如キ我輩ノ常ニ意ヲ苦シム  
ル所ナルヲ以テ方今此事ニ關シテ稍ヤ議論ヲ江湖ニ絶  
チシガ如シト雖ヒ之ヲ過去ニ顧ミ之ヲ將來ニ想フテ杞  
憂自ラ堪ユル能ハザルモノアリ故ニ識者ニ就イテ琉球

諸島ノ位地其風土ノ一斑ヲ質シ以テ左ニ掲記ス讀者深  
ク我輩ガ刻苦憂慮スル所ヲ諒セバ僅々數百言ノ風土記  
亦以テ一篇ノ論策ニ充ツベキナリ

古代ノ琉球諸島ヲ分テ五部トナス最モ東ニアルモノヲ大  
島諸島トス鹿兒島ヲ去ルコト百五十里其次ハ本琉球トス  
鹿兒島ヲ去ルコト二百九十七里其次ハ宮古諸島トス鹿兒  
島ヲ去ルコト三百八十八里其次ハ八重山諸島トス鹿兒島  
ヲ去ルコト四百四十一里ナリ宮古島ハ琉球本島ノ西南申  
ノ方ニアタリ琉球本島那覇港ヲ去ル八十餘里其海路必ス  
計羅廣島ニ就ク計羅廣島ヲ出デ、宮古島至ル七十五里ト  
ス其ノ海路ノ半ニ於テ有名ナル八重ノ潮干瀬ト名ヅクル  
暗礁アリ暗礁ノ廣袤東西ハ凡ソ壹里半計ニシテ南北十五



里ニ涉<sup>ソマ</sup>レリ此海路ヲ航海スルモノハ常ニ此暗礁ヲ避クル  
 ガ爲メニ大ニ困難ス宮古島ハ高壹万貳千四百五十八石七  
 斗九升貳合ニシテ五六ノ群島ヲ總稱ス其重モナルモノヲ  
 ミツナ島ト云フ此島ハ宮古本島ヨリ西ノ方三十五里ニア  
 リテ周廻壹里ナリ此島ヨリ少シク申酉ニヨリテタラマ島  
 アリ周廻四里高三百二十八石ナリミツナ島ヲ合シテ或ハ  
 タラマ島ト惣稱ス次ナリレノ島ト云フ周廻壹里人居ナシ  
 次ナエラフ島ト云フ周廻四里三十町高二百五十四石次ナ  
 イルマ島周廻壹里八町上ノ諸島總稱シテ宮古島トイフ宮  
 古島ニハ相應ナル港門アリ之ヲ平良トイフ宮古島ヲ去ル  
 コト五十三里ニ八重山島アリ八重山島ハ八島聚合スルガ  
 故ニ此名アリ其最大ナルモノヲ石垣島トイフ周廻十六里

十七町トイヘモ實ハ二十里ニ餘レリ高二千五百三十八石  
 七斗九合ナリ此島ハ南島第一ノ沃野ニシテ五穀皆再熟ス  
 植物ノ性質極メテ良好ニシテ粟ノ穂ノ長サ二尺ニ餘ルモ  
 ノアリ小豆大サ母指頭ノ如シ餘ハ皆推シテ知ルベシ而ル  
 ニ五穀皆肥糞ヲ用フルコトナク播種スレバ則チ自然ニシ  
 テ登熟ス土地頗ル平坦ニシテ村落ノ街衢ミナ十字形ヲナ  
 シ以テ城邑ヲ構フベク又タ以テ軍團ヲ置ク可シ其次ナル  
 モノヲ西表島トイフ周廻十五里トイヘモ實ハ二十二三里  
 ナルベシ高三千三百三十二石七斗八升九合ニシテ南島特  
 殊ノ山林タリ滿島蒼鬱トシテ人蹟至ラズ四方ノ灘渚ニ及  
 ブマデ汀上ニ悉ク大樹ヲ生シ潮干レハ深林トナリ潮満レ  
 ハ海面トナル其内部ノ如キハ大川アリトイヘモ南岸ノ大



樹其川ヲ覆ヒ舟シテ入ルベカラズ筏シテ出ヅベカラズ其  
 樹木ハ桑黒柿ノ類最モ多ク紫檀黒檀ダガヤ鉄刀木ヤサンノ類枚擧ニ違  
 アラズ悉ク合抱ナラザルナシ朽テ阜チナシ枯レテ谷チ埋  
 ムニ至ルモ人敢テ斧斤チ入ル、モノナシ其所以チ問フニ  
 此島ノ如キハ琉球第一ノ寶庫ニシテ其万一ニ供ヘンガ爲  
 メニ石垣西表ノ兩島ニ令シテ往古ヨリ以來ゴギ鋸子斧鉞チ禁  
 シ又々船舶チ造ルチ禁ズ故ニ土人等小斧ナダチ以テ櫛ノ木チ  
 劉リテ小舟チ造リ之レニ乗テ僅ニ近島チ交通ス此島ノ産  
 物ノ第一ハ石炭ニシテ其質遙ニカ三池煤炭ノ上ニアリ西  
 表島ニ屬スル内離島外離島ノ如キハ炭脉海岸一面ニ露ハ  
 レ堀レハ直チニ船中ニ囑マキ入ルヘシ島ノ西南兩面ノ如キ  
 ハ至ル所炭坑ナラサルナシトイヘトモ古來琉球藩廳ニ於

テモ堀採ニ着手セズ曾テ維新ノ始ニ於テ海軍官吏ガ兩島  
 檢査ノタメ此島ニ航シ又々昨年松田道之君ガ琉球處分ノ  
 際其屬官輩ノ航海セシコトアリト聞ケト此ノ如ク鬱鬱タ  
 ル深林ナルニヨリ常ニ瘴氣ノタメニ害セラル、チ恐ル、  
 ニヨリ精密ナル炭坑ノ測量ノ如キハアリヤナシヤハ我輩  
 ガ未ダ知ル能ハザル所ナリ加ルニ北島ニハ南島第一ノ良  
 港アリテ内離島ト外離島トノ内部海灣ノ如キハ奧行凡ソ  
 二里ニシテ深サ二三十尋ナリ如何ナル時ト雖モ風浪ノ懸  
 念アルコトナシ次チ波照間島ト云フ周廻三里二十丁高四  
 百二十七石餘次チ荒城島アラクマクト云フ周廻三里高三百七十四石  
 餘次チ武富島タケトミト云フ周廻一里三十丁高五十二石餘次ニ黒  
 島周回二里二十丁高二百八十六石餘次チ鳩間島ト云フ周



回二十二丁次<sup>四</sup>チハルナ島ト云ヒ上ハルナ下ハルナノ二島  
ニ分ツ上島周回壹里十町下島周回二十七丁ナリ己上八島  
ヲ合シテ八重山島トイフ八重山島ヨリ酉ノ方ニアタリ四  
十八里ヲ距テ、與那國島アリ一ニ米<sup>子</sup>國島ニ作ル周回五里  
十町高三百二十二石ナリ與那國ハホルモサニ近キコト僅  
カニ三十里計リニシテ夜間海岸ニ火ヲ焚クヲ禁ス臺灣蠻  
人ノ襲來ヲ恐ルレハナリ

日本智識生育ノ變態  
肥塚龍  
智識ニ常態アリ變態アリ我が日本ノ智識ハ如ハ殆<sup>ハ</sup>ド變  
態ノ極ト云フ可シ何チカ常態ト云ヒ何チカ變態ト云フ請  
フ其由ヲ述ベン夫レ乾坤未ダ判セズ陰陽未ダ性ヲ別タザ  
ル時ニ當リ天地ナリ亦人類ナシ化工一タビ其妙用ヲ顯ハ

セシヨリ高キ者ハ日月星辰トナリ低者ハ山河大地トナリ  
人此間ニ生シテ万物主宰ノ能力ヲ具有セリ故ニ人類ノ靈  
智タル之ヲ天ニ稟クル者ナリ然レ十圍ノ木モ之ヲ培養セ  
ザレバ或ハ夭折ノ患ナキ能ハズ天賦ノ智モ之ヲ薰陶セザ  
レバ其具有ノ全能ヲ顯ハス能ハズ之ヲ培養スルノ度人々  
貧富ノ度ニ從ツテ同シキヲ能ハズ是レ天地ノ常經ナリ千  
金ノ子之ヲ養フニ鷄豚ノ肉ヲ以テシ之ヲ教育スルニ數十  
年ノ歲月ヲ以テセバ尋常普通ノ子弟ト雖レ誰レカ其智識  
ヲ長セザラン之レニ反シ子弟タル者才能アリト雖レ形体  
ノ養ヒニ欠クル所アリ教育僅カニ半途ニシテ止ムアラハ  
才其才ヲ伸ブルニ因ナク能其能ヲ養フニ遑ナカラシ故ニ  
普通一般ノ規則ニ從ハハオアルキハ則チ其智識ヲ長シ財



ナキキハ則智識ノ命運夭折ス之ヲ約言スレハ財ハ智識ノ糧食ト云フ可キナリ之ヲ一ケ人智識生育ノ常態ト云フ又轉シテ一國ヲ以テ一体トナシ此一体國ノ智識ヲ考フルニ此智識ノ生育モ一ケ人智識ノ生育ト殆ド其狀ヲ同クスル者ナリ彼ノ亞米利加ハ之ヲ英國ニ比シ貧人ノ集會所ト云フモ不可ナカル可シ亞米利加住民ハ凡テ泰西諸國ヨリ移住シタル人民ナリ故ニ國ニ素封万鍾ノ豪民ナク又襲世受祿ノ權門ナク偶々富商豪農ナキニアラサレトモ其富商豪農タル祖先ノ遺財ヲ繼ク者ニアラズシテ大抵一生數十年間ニ其財産ヲ蓄ヘシ人民ナリ英國ノ財産相續法タル可成子孫ヲシテ其所有ノ土地ヲ永續セシムルノ法ナリ亞米利加ニ「ロー、チ、フ、イン、テール」ナル者ナシ之レニ類似ノ法ナキ

ニアラザレトモ亞米利加ノ財産相續法タル英國ノ如キ封建世襲ノ餘臭ヲ帶ブル者ニアラズ英國ニハ政權ヲ世ニシ爵祿襲世ノ貴族アレトモ亞米利加ニハ天爵ヲ除クノ外人爵ニ上下ノ區別ナシ故ニ國極貧ノ民少シト雖モ亦極富ノ民モ少ナク極貧ノ民少ナキガ故ニ國ニ丁字ヲ解セザル民少シ極富ノ民少キガ故ニ國ニ學識絶倫ノ民少シ英國ハ之レニ反シ陶朱ノ富ヲ有スル者十百ヲ以テ數フルニ足ルト雖モ饑渴旦夕ニ追ルノ民ハ天星海沙ノ多キヨリモ多シ故ニ國ニ學識絶倫ノ士ヲ出スト雖モ又學識無一ノ民多シ是レ他ナシ米國ハ國爵祿世襲ノ民ナク大槩一世數十年間ノ間ニ其財産ヲ蓄ヘザル可カラズ其財産ヲ蓄ヘントモハ庠序ノ業ニ許多ノ歲月ヲ費スヲ得ザレハナリ先哲曰ク亞米利加



人民ガ實地ノ職業ニ就クノ日ハ他國人民ガ始メテ庠序ニ  
 入ルト其齡ヲ同クセリト夫レ斯ノ如シ故ニ亞米利加人民  
 ガ智識ノ立本トスル所ヲ見ルニ極メテ低シ其一例ヲ舉ン  
 ニ英國ノ學士ニシテ言苟モ學術上ニ涉レハ直チニ羅旬語  
 ナ引イテ英語ノ中ニ插入シ其ノ羅旬ヲ插入スルノ少キヲ  
 以テ羞トスル者ノ如シト雖モ米國學士ハ之レニ反シ言語  
 ハ極メテ平易ヲ尙ビ苟モ英語即チ米語ヲ以テ解シ得ルナ  
 レハ決シテ一般人民ノ解シ難キ羅旬語ヲ用ユル者ナシ是  
 レ英國學士冒リニ古語ヲ引証シ己レガ博聞強記ニ誇ルニ  
 アラザル可ク又米國學士モ己レ羅旬語ヲ解シ得ザルニ因  
 ツテ之ヲ爲スニアラズ只是レ英米二國ガ智識ノ本位ヲ立  
 ツルニ高下アリ一ハ財產偏集ハ國勢ヲ爲シ一ハ財產平分

ハ國勢アレハナリ之ヲ智識生育ハ常態ト云フ  
 翻テ日本ノ國勢ヲ見ユ我財產相續法タル果シテ米國相續  
 法ハ如キ者ナル歟曰ク長子相續法別シテ華士族家督相續  
 法ノ如キ依然トシテ封建ノ餘習ヲ帶ベリ然レハ亞米利加  
 人民ノ如ク國ニ貴賤人爵ハ異ナキ歟曰ク華族アリ士族ア  
 リ決シテ亞米利加人民ノ如キ人權平等ナル者ニアラザル  
 ナリ然レハ亞米利加人民ハ如ク財產平分ハ傾キアル歟曰  
 ク華族ナル者アリ祖先世襲ノ祿ヲ受ケテ家ニ巨萬ノ財產  
 ナ累ヌ嚮キニ祿券配當ノ令出ヅルト雖モ未タ全ク封建ノ  
 餘跡ヲ破却スルニ足ラズ而シテ長子相續法ハ民間土地ノ運  
 用ヲ妨ゲ貧農ハ益々窮シ富農ハ益々富メリ彼ノ米國ノ如  
 ク決シテ財產平分ノ法ヲ見ザルナリ夫レ斯ノ如ク我國ノ



國勢タル一モ米國ノ國勢ニ類似セザルヤ知ル可キナリ既  
 ニ米國ニ類似セザレバ必ラズ英國ニ類似セバ智識ノ生育モ米國ニ  
 ナリ既ニ其ノ國勢ノ英國ニ類似セバ智識ノ生育モ米國ニ  
 似ズシテ英國ニ類似スベキニ却テ然ラズ其ノ智識ニ至ッ  
 テ英國ニ似ズノ寧ロ米國ニ類スル者アリ即チ智識立本ノ  
 低クシテ少ク才智アル者ハ直チニ此本位ヲ踏越スルハ  
 弊アル者はナリ試ニ日本今日學士ヲ以テ自居ルノ士ヲ見  
 ヲ僅カニ書ヲ讀ミ文ヲ講スレバ自ラ以テ足レリトシ恬然  
 トシ之ニ安ンシ足僅カニ歐洲ノ地ヲ踏メバ自ラ社會ノ上  
 流ニ位スル者トナシ口僅カニ西學ヲ解スレバ自ラ學士ノ  
 聲色ヲ爲シ進取ヲ拙策トナシ退守ヲ(寧ロ怠ルト云ハン)名  
 按トナシ殆ソト後進ノ子弟ヲシテ智識ノ立本ハ一學手一

投足ノ間ニシテ踏越スルヲ得ルノ思アラシムル者ノ如シ  
 是レ余ノ日本ノ智識ヲ以テ智識ノ變態ト爲ス所以ナリ嗚  
 呼日本智識ノ變態斯ノ如クニ之ヲ短正セザレハ是レ英  
 國ノ弊處ヲ學ンテ其利ヲ捨ツル者ナリ然レモ之ヲ救フ術  
 ナキニアラズ請フ他日ヲ待ツテ之レカ方法ヲ論述セン  
 支那侮ルヘカラス 在山口縣 菅谷敬清郵送  
 貴社雜誌第十二號ニ於テ東直之助氏ハ支那恐ルニ足ラ  
 スト云ヘル演說ノ論題ヲ掲ケ支那ノ衰弱老疲セル現時將  
 來トモニ恐ルベキ實ナキ旨ヲ痛論セラレタリ余輩遠隔ノ  
 地ニアリテ親シク其演說ヲ聞ザレハ其深意ノアル所ハ之  
 ナ詳知スル能スト雖モ唯紙上ノ論辨ヲ一讀スルカ如キニ  
 於テハ余輩容易ニ之ニ左袒スル能ハザルノミナラス東氏



モ亦皮想ノ書生論者タルニ驚カザルヲ得ザルナリ  
 氏ガ論旨ノ要領タル唯支那ハ軀幹長大年齒七八十ニシテ  
 氣力衰弱容貌呆然タル老人ノ睡臥セルモノ、如ク知覺ノ  
 神經モナク后来醒起ノ期モナキ一大死屍タルニ過キスト  
 云フニアリ嗚呼是レ何ソ皮想視スルノ甚シキヤ東氏ヨ請  
 フ少シク眼ヲ字内ノ大局ニ注キ其活世界ノ現象ヲ視ヨ夫  
 レ目下支那ノ形勢ハ如何ナルモノトスルカ内ニシテハ二  
 十年來亂臣賊士相踵テ起リ飢饉疫戾交モ臻リ外ニシテハ  
 北ニ強魯ノ蠶食ヲ蒙リ南ニ英佛ノ覬覦ヲ受ケ加フルニ現  
 時クルシヤ事件ノ紛議ヲ生シ動モスレハ則チ全國ノ兵力  
 ナ尽シ將ニ魯國ト唯雄ヲ決セントスルノ勢ニ逼レリ其國  
 事ノ多端ナル實ニ我國今日ノ此ニアラザルハ氏モ亦早ト

ニ了知スル所ナルヘシ斯ル國歩艱難ノ秋ニ際シ猶能ク國  
 家ノ命脈ヲ維持シ四方強匪ハ侵掠ヲ受ルルモノ、豈老衰睡  
 臥死屍ニ均シキモノ、能スベキモノナランヤ然リ而シテ  
 余輩聞ク所ニヨレハ近時該國ニ於テ有名ナル諸大臣ハ頻  
 ニ奏請シテ内ハ以學制ヲ改革シ大ニ洋學館ヲ設ケ人材教  
 育ノ道ヲ開キ外ハ以學士ヲ海外ニ派遣シ專ラ外交ノ眞理  
 ナ講明セントスト是等ノ事ニ至テハ氏ハ如何ナル感覺ヲ  
 起シ來ルカ此ノ諸大臣ハ孰レモ身ハ内政外交ノ要路ニ當  
 リ深ク字内ノ大勢ト國家ノ危難ヲ察知シ亞細亞ノ一大帝  
 國タル支那前途ノ方向ヲ左右スベキ權力ヲ有スル顯官紳  
 士ニアラズヤ故ニ余輩ハ信ス現時支那人民ハ如何程守舊  
 主義ヲ持シテ惑ハズ又支那政府ハ如何程因循ノ政策ヲ執



テ動カザルニモ拘ラス此諸大臣等ガ能ク不屈不撓銳意奮  
前シ彼ノ外寇ノ刺衝ニヨリ益其精神ヲ磨勵シ一身ヲ以國  
家ノ犧牲ト爲スカ如キアラハ早晚亞細亞ノ大局面ニ於テ  
今後如何ナル大變動ヲ生スルヤモ亦未タ圖ルヘカラサル  
ナリ

以上陳ル所ハ唯支那ノ内政上ニ就テ早晚一大變革ヲ生ス  
ヘキ未發ノ萌芽アルヲ舉示セシマテニ未タ以テ氏ガ迷  
夢ヲ破ルニ十分ナラザルベケレハ今茲ニ外形ニ顯レ近年  
驚ベキ進歩ノ實アル軍備ニ就テ之ヲ論セシニ支那國ガ一  
千八百七十六年ニ當リ兵ヲ西域万里ノ外ニ出シテ喀什噶  
爾ヲ征シ獨リ氣候ノ變化糧食ノ空乏ナルノミナラズ強敢  
ナル回々宗徒ノ抗抵ニ加フルニ顯然タル魯國ノ刺衝ヲ以

テス然ルニ一ノ外國ノ援兵ヲ借ラズ容易ニ其局ヲ了リタ  
ル戰功ノ如キハ近來歐州人ノ常ニ嘆稱シテ止ザル所ナリ  
見スヤ此役ニ當リ僅カ廿一日ニシテ四百有余ノ英里ヲ進  
軍シテ三都府ヲ陷レ遂ニ喀什噶爾ノ戰ニ全勝ヲ得テアサ  
リク、ジャシ領ノ都府モ亦左宗棠等ノ軍ニ歸降セリ其軍略  
ハ壯大ナル東洋ノ歴史ニ於テ多ク見ザル所ナリ西人ガ中  
央亞細亞ノ時勢ヲ論スルニ當リ必ラズ支那ヲ算入スルニ  
至リシモ何ゾ職トシテ此等ニ原因スルニアラザルヲ知ラ  
ンヤ  
支那帝國ノ現状ハ已ニ斯ノ如ク數年來著シク其歩ヲ進メ  
又昔日ノ支那ニアラザルヲ知ルベシ而シテ其財政ノ如キ  
ハ素ヨリ其宜キヲ得タルモノニアラズト雖モ毎年國庫ニ



収入スル所ノモノハ殆ンド我邦ニ三倍シ其他物産ノ富實  
 チ占メ歐州ノ貿易益ス盛ナレハ海關稅ノ如キモ日ニ月ニ  
 増加スルノ勢アリ故ニ一旦事アルハ日ニ遇フモ其財源ノ  
 深キ決シテ我國ノ比ニアラザルナリ此ヲ是レ察セスシテ  
 徒ニ外形ノ柔順ナルヲ見テ遽ニ其國土ヲ衰眠人視スルガ  
 如キハ豈ニ憫笑スベキノ至ナラズヤ斯ク論シ來レハ氏ハ  
 余輩ヲ目シテ支那ニ心醉スルモノニアラザレハ偏ニ之ヲ  
 恐怖スルモノトナスカモ計ラズト雖余輩ハ決シテ之ニ  
 心醉恐怖スルモノニアラズ唯公平無私ノ心ヲ以テ世ノ輕  
 採論者ガ徒ニ外形ノ皮想ニ因リ妄リニ支那ヲ輕侮シ獨リ  
 其身ヲ愆ルノミナラズ遂ニ國家ヲ愆ルニ至ラントヲ恐レ  
 聊カ茲ニ論辨スルノミ

余輩ハ今此論ヲ了ントスルニ臨ミ一言以テ氏ニ問ハント  
 欲スルモノアリ抑モ今日ハ是レ如何ナル時ゾ見ユ彼ノ歐  
 州一二ノ強國ガ威力ヲ天下ニ逞ウシ全世界ヲ擧テ盡ク其  
 版圖ニ歸セントスルノ慾望ハ遂ニ我亞細亞ノ東方ニ向テ  
 進入シ漸ク將ニ其西方ニ歩及セントスルノ時ニアラズヤ此  
 時ニ當リ之ガ威力ヲ抑ヘ之ガ慾望ヲ挫キ以テ國家ノ獨立  
 チ保全セントスルニハ果シテ何等ノ力ニ頼ルカ如何程ニ  
 内政ヲ理メ如何程ニ軍備ヲ整フルモ到底一個一國ハ能シ  
 得ベキモノニアラズ必ラズヤ亞細亞東邦ノ同盟連合アル  
 ノミ故ニ余輩ハ斷シテ曰ク支那恐ルベキヤ否ハ暫ク置キ  
 今一步ヲ進メ支那ハ我日本帝國將來ノ爲ニ尤モ親愛スヘ  
 シ尤モ貴重スヘキノ一大友國ナリト東氏以テ如何ト爲ス



東京本所區橫網町二丁目二番地

靜岡縣士族

編輯主任 吉田次郎

同日本橋區元柳町十四番地寄留

青森縣士族

出版人 根津親德

東京々橋區新肴町十壹番地

# 假本局 求友社

販行人 西宮松之助

同京橋區銀座四丁目十番地

明治十三年第七月廿一日刊行



○利器ハ輒シ人ニ與フ可カラズ

末廣重恭

○政黨ノ弊害

東直之助

○佛國政体轉遷論 第五回

河津祐之

末廣重恭校閱  
吉田次郎編輯

## 嚶鳴雜誌

第十七號





○利器ハ輒ク人ニ與フ可カラズ 末廣重恭演說  
銳利ニシテ鐵石ヲモ斷ツ可ク之ニ觸ル、モノハ頭ヲ失ヒ  
命ヲ墜サ、ル無キ于將莫邪ノ劔ノ如キ天國正宗ノ刀ノ如  
キ之ヲ名ケテ利器ト謂フ此ノ器タルヤ其銳利ヲ極ムルガ  
爲メニ之ヲ使用スル者ノ善惡ニ因テ其ノ利害ヲ異ニセザ  
ルヲ得ズ試ミニ思ヘ正宗ノ寶刀ヲシテ盜賊ノ手ニ在ラシ  
ムレハ以テ人ヲ劫カシ財ヲ奪フノ器械トナリ其ノ世人ヲ  
傷害スル幾許ナルヲ知ラザルナリ猶一步ヲ退キ此ノ利器  
ヲ以テ其ノ使用ヲ辨ゼザル小兒ニ與フルト假定セヨ彼レ  
犬ヲ斬リ猫ヲ突キ門戸ヲ傷損スルノミナラズ或ハ近隣ノ  
小兒ト路上ニ戯レテ之ヲ殺傷スルノ恐レアリ故ニ其人ヲ



選擇シテ之ニ付與セザレハ其器ノ銳利ナルニ  
 從ヒ愈ヨ社會ノ妨害ヲ生出スルニ至ラノ故ニ曰ク利器ハ  
 輒ク人ニ與フ可カラスト  
 諸君ヨ世ニ善ク之ヲ用フレハ天下安居シ惡ク之ヲ用フレ  
 ハ人民戰栗ス其ノ鋒銛ノ銳利ナルヲ干將莫邪ニ過クル萬  
 々ナル者アルヲ知ルカ嗚呼治者ノ制定スル法律ハ社會ニ  
 向フテ如何ナル勢力ヲ有スルヤ政府ヨリ此ハ爲ス可ク彼  
 レハ爲ス可カラズト號令ヲ下ダセハ人民ハ謹テ之ヲ奉承  
 セザル可カラズ而シテ此ノ條ヲ犯スモノハ何百圓ノ罰金何  
 年ノ禁獄ニ處シ此ノ罪ヲ行フモノハ身首處テ異ニセシム  
 可シト謂ヘハ人民ハ不同意ニテモ決シテ之ニ背違ス可カ  
 ラザルニ非ズヤ吾人ハ嚮キニ十分ナル思想ヲ筆下ニ揮灑

セシモ新聞條例ノ出ルニ及ベハ之ガ爲メニ幾分カ自ラ掣  
 肘セラル、ニ至ル吾人ハ嚮キニ自由ニ演說シ自由ニ講談  
 セシモ集會條例ノ出ルニ及ベハ前後ヲ顧慮シテ其言說ヲ  
 迂曲ニセザル可カラザル場合アリ夫レ法律ノ勢力ヲ社會  
 ニ及ボス此ノ如シ故ニ之ヲ制定スルニハ注意ノ上ニモ注  
 意ヲ加ヘ其ノ時世人情ニ背馳セザラノヲ要ス漢祖ノ法  
 三章ヲ約セシハ人民ガ秦ノ苛政ニ苦シミ後ヲ承クレハ  
 ナリ徳川氏ガ百ヶ條ヲ定メ別ニ法律ヲ設ケザリシハ武門  
 政治ハ政令ノ簡短ナルヲ尙フ可キヲ知レハナリ昔者希臘  
 ノソロンハ國民ノ爲メニ貴重ナル法律ヲ制定セリ人アリ  
 ソロンニ謂テ曰ク子ガ法律ハ以テ萬世ノ典刑ト爲ス可キ  
 カソロン曰ク否ナ然ラズ余ハ今日雅典人民ニ適當ス可キ



ナ目的トシテ之ヲ起草セリト是實ニ萬古不易ノ金言ナリ  
 今日ノ制法者タル者ハ何ゾ茲ニ注意セザル可ケンヤ然ル  
 ニ余ハ謂ラフ法律ハ止マ其ノ人民ガ開化ハ度ニ從フテ之  
 ガ取舍ヲ爲ス可キノミナラズ第一ニ之ヲ奉行スル官吏ノ  
 智識ヲ思考シテ之ガ權衡ヲ定メザル可カラザルナリ何ト  
 ナレハ仮令ヘ如何ナル善良ノ法律ニテモ之ヲ使用スルノ  
 際ニ於テ其ノ目的ヲ誤マレハ忽チ實地ニ於テ意外ノ結果  
 ナ生出セザルヲ得ズ試ミニ之ヲ今古ニ徵スルニ其ノ類例  
 ハ殆ント枚擧スルニ遑マアラズ昔者天子ヨリ命シテ一州  
 毎トニ鷹ヲ貢セシメシコアリ是レ決シテ天下蒼生ヲ妨害  
 スル程ノ事柄ニハ非ザルナリ然ルニ知州事タル者ハ善良  
 ノ鷹鷹ヲ捕ユベキヲ屬官ニ令シ屬官ハ再ヒ其ノ意ヲ敷演

シテ之ヲ村役人ニ嚴達シ遂ニ人民ヲ驅リ農業ヲ廢シテ鷹  
 ナ捕ヘシムルニ至リ爲メニ民間ノ騷擾ヲ致セシコアリキ  
 又々天子ノ巡行ヲ爲ス時ニ當リ止マ道路ノ差支ナキ様ニ  
 ス可シト命令アレハ地方官ハ直チニ其意ヲ迎ヘ山ヲ切り  
 谷ヲ填メ新道ヲ開キ新橋ヲ架ケ民費ノ増加スルヲ顧ミズ  
 遂ニ天子ガ風ヲ觀俗ヲ察シ人民ノ疾苦ヲ問ハントスルノ  
 美舉ヲ以テ却テ地方人民ノ迷惑ト爲ラシムル等ハ往々ニ  
 ノ之レ有リ夫ノ宋ノ王安石ガ青苗ノ法ノ如キ後世ヨリ之  
 ナ認メ楛克聚斂ノ處置ノ如ク思惟スレモ決シテ然ラザル  
 ナリ蓋シ此法タルヤ青苗ヲ植ルノ時節ニ於テ政府ヨリ貸  
 下ヲ爲シ秋獲ノ後ニ於テ利子ヲ加ヘテ返納セシムルニ在  
 リ善ク之ヲ活用スレハ上下兩便ノ方法ニ非ズト謂フ可カ



ラズ然レモ當時地方官タル者輕薄ニシテ事體ヲ辨セズ多ク  
 貸付ヲ爲シテ以テ政府ノ歡心ヲ得ント欲シ其ノ志願セザ  
 ル者迄モ之ヲ強逼シテ青苗錢ヲ配付シ之ガ爲メニ苦情百  
 出シ遂ニ人民ノ憤怨ヲ來タスニ至レリ故ニ新法ノ害ハ必  
 ラズシモ其ノ制度ノ不良ナルニ非ズシテ之ヲ奉行スル者  
 ハ其ノ人ヲ得ザルニ基ケリ是レ則チ小兒ニ與フルニ利器  
 ナリ以テスルガ爲メニ社會人民ヲ傷害セシ者ニ非ズヤ  
 今日我が邦ニ於テ法律ヲ制定スル衙門ハ太政官ナリ太政  
 官ニハ博識雋才ノ士其ノ人ニ乏シカラズ故ニ廟堂ニ於テ  
 之ガ評議ヲ爲シ何々ハ英國ヲ學ブ可キト謂ヘハ即日ニ英  
 國ニ劣ラザル制度ヲ編立ツルヲ得ベク何々ハ獨逸ヲ摸ス  
 可キト謂ヘハ即日ニ獨逸ヨリモ嚴峻ナル條例ヲ造リ出ス

ヲ得ベシ米ナリ佛ナリ將タ魯西亞土耳其古ナリ苟モ之ヲ認  
 メテ摸擬ス可キト爲セハ學士ニ命シテ之ヲ翻譯セシメ全  
 國ノ遵奉ス可キ法律ト爲スニ於テ誠ニ自由自在ナル可シ  
 然レモ法律ハ無機物ニシテ自ラ運動スル能ハザレハ必  
 ラズ行政官又ハ地方官ヲシテ之ヲ舉行セシメザル可カラ  
 ズ故ニ政府ガ制定スル所ノ法律ニ於テ官吏ガ智識ノ程度  
 ニ適當セザラシムレハ亦遂ニ王安石ノ新法ト同一ノ結果  
 ナリ生出セザルヲ得ズ請フ集會條例ヲ以テ之ヲ證明セシ  
 政府ガ集會條例ヲ頒布セラレタルハ如何ノノ主意ナルヤ  
 固ヨリ吾黨ノ與リ知ラザル所ナレモ思フニ粗暴激烈ノ議  
 論ヲ制止セント欲スルノ政略ニ外ナラザル可シ然ルニ實  
 地ニ就キ地方官ガ此ノ條例ヲ履行スルノ景狀ヲ見聞スル



ニ實ニ吾黨ナシテ慨歎ニ堪ヘザラシムル者有リ或ル縣ニ  
 テハ巡查ナシテ演說場ノ門ニ立タシメ一々來聽者ノ身元  
 調ベテ爲シ犯則人ノ有無ヲ監察ス又或ル縣ニテハ演說者  
 ナシテ精密ナル演說ノ下書ヲ差出サシメ其ノ講談ノ少ク  
 下書ニ掲クル所ノ外ニ出レハ是レ認可セル事項ト背馳セ  
 ル者ナリトテ直チニ禁止スル者アリ古今天下此ノ如キ繁  
 碎苛察ノ處置アラシヤ要スルニ知事縣令ハ法律ノ精神ヲ  
 解セズシテ警察吏ハ又々長官ノ意見ヲ逢迎シ勝手氣儘ノ  
 規則ヲ作爲シテ之ヲ施行シ遂ニ集會條例ナシテ眞成ニ口  
 舌ヲ鉗シ言論ヲ抑ユルノ器具ト爲サシムルニ至レリ余之  
 ナ聞ク或ル内閣ノ紳士ハ人ニ語ツテ曰ク集會條例ノ範圍  
 内ニ於テ縛々トシテ言論ノ餘地ナキニ非ズ止ダ地方官ノ

之ガ履行ヲ誤マルニ因テ種々ノ不都合ヲ實地ニ生出スル  
 ノミ何ゾ之ヲ以テ罪ヲ法律ニ歸ス可ケンヤト是レ誠ニ然  
 ラン然レモ立法ハ法律ノ自ラ活動シテ自ラ人民ヲ支配ス  
 ルト思惟スルカータヒ之ヲ頒布セハ是非トモニ行政官地  
 方官ナシテ之カ取扱ヒテ爲サシメザル可カラズ干將莫邪  
 ト一般ナル銳利ノ法律ヲ舉ケテ之ガ使用ヲ知ラザル者ニ  
 付與シ而シテ其ノ人ヲ傷賊スル所ナカランヲ頼ムハ亦誤  
 ルノ甚キト謂フ可シ蓋シモルヒ子ハ實ニ貴重ノ良藥ナリ  
 然レモ之ヲヒ加減ヲ知ラザル者ニ任カセ其ノ人ヲ殺スニ  
 及ヒ我ノ罪ニ非ザルナリモルヒ子ハ罪ナリト謂ハシムレ  
 ハ世人ハ之ヲ許スヤ否ヤ故ニ余ハ政府ガ後來号令ヲ發ス  
 ルガ毎トニ止ダ時世人情ニ背馳セザルノミナラズ之ヲ奉



行スル官吏が智識ノ程度ヲ測量シテ之ガ權衡ヲ立テ歐米ノ法律ヲ直譯シテ直チニ我が邦ニ施行スルガ如キノ事ナカラントナ希望スルナリ

○政黨ノ弊害

東直之助

今ヤ人文大ニ進ミ憲法ノ制定ヲ希ヒ國會ノ開設ヲ望ム者東ニ出デ西ニ現レ有力ナル政黨モ漸ク將ニ其萌芽ヲ發セントス我帝國人民タル者ハ宜ク祝意ヲ表ス可キノ秋ナリ然リ而シテ我輩ガ此ニ政黨ノ弊害ヲ叙述シ不祥ノ文字ヲ寫出スルハ敢テ異ヲ立ツルニ非ス聊カ懷ニ感スル所アレハナリ

政治ハ榮譽ハ中心富貴ハ集點ナリ苟モ榮譽富貴ヲ好ムハ人間ノ通性タラシメハ各々其ノ眼睛ヲ政治ノ一點ニ注キ

進テ其權柄ヲ自家ノ掌中ニ握ラントスルハ天然ノ常數ニシテ毫モ怪ムニ足ラザル也然レモ一國ノ政治ハ無數ノ蟠根錯節ヲ包含スル故ニ蓋世ノ俊傑ト雖モ僅ニ其一身ヲ以テ之ヲ擔當スル能ハズ是ヲ以テ其同志ヲ招キ其部下ヲ集ムルニ至リ初メテ政黨ノ樹立ヲ天下ニ見ルニ至ル我帝國現時ノ實況即チ是ナリ  
兇惡無道ノ秦皇周厲ト雖モ其襁褓ニ在ルヤ唐堯虞舜ニ異ナラザル可シ數万ノ公衆ヲ以テ組成セル政黨ト雖モ其樹立ノ初ニ當リテハ所謂ル君子ノ眞朋ニ外ナラズ其畢生ノ目途ハ眞理ヲ討究シテ之ヲ實際ニ履踐シ以テ社會ノ幸福ヲ求メントスルニ在ルヤ恰モ我國ノ有志輩ガ國會ノ開設ハ今日ニ要用ナルヲ發見シ其實施ヲ大政府ニ促スカ如ク



ナル可シ雖然政黨ノ成立スルニ隨ヒ漸ク其目的ヲ威力ノ  
 養生ニ轉向シ夫ノ眞理ハ討究ノ如キハ之ヲ高閣ニ束テテ  
 問ハザルニ至ル我輩ハ史ヲ讀テ此ノ如キ事實ニ遭フ毎ニ  
 未ダ曾テ慨然トシテ嘆セズンハアラサルナリ此類ノ政黨  
 ハ必スヤ言論ヲ以テ威力ヲ得ルノ媒介トスルガ故ニ偶々  
 誠忠ナル言ヲ作シ公明ナル論ヲ立ツルモ其ノ目的トスル  
 所ハ天下人心ヲ收攬セントスルニ出ツルヲ以テ到底有害  
 無利ナル者ト云ハザルヲ得ズ何トナレハ其言論ヲ傾聽ス  
 ルノ公衆ヲシテ其外面ノ裝飾タル誠忠公明ニ眩迷セシメ  
 ハ遂ニ其ノ奸策ニ陥リ唯命是從フノ卑屈ヲ呈ハシ遂ニ二  
 三領袖ノ爲メニ毒ヲ社會ニ流スノ部卒タルニ至レハナリ  
 社會ノ狀勢果シテ此ニ至ラハ政黨ハ無限ノ威力ヲ得テ天

下復タ爲スニ足ル者ナキニ至ル其慘害ノ激烈ナル豈ニ爲  
 メニ悚然トシテ懼レザルヲ得ンヤ  
 威力ニ汲々タルハ獨リ奸惡ナル政黨ニ止マラス善良ナル  
 政黨ト雖モ或ハ免レサル所ナリ喩ヘハ云々ノ處分ハ眞理  
 ニ適合スルカ故ニ之ヲ實踐セザルベカラス之ヲ實踐セ  
 ニハ威力ヲ得ルニ非ザレハ其目的ヲ達スヘカラスト思惟  
 スル者ナキニ非スヤ是レ善良ナル政黨ガ一時ノ妄想ヨリ  
 シテ醜ヲ千歳ニ流ス所以也  
 己ニ威力ヲ以テ政黨ノ目的トスルニ至レハ其言論ハ威力  
 ノ消長得失ニ因ツテ變轉スルガ故ニ其言論ハ信用ヲ失ヒ  
 復タ秋毫ノ微力ナキニ至ルヲ免レズ吾輩人民ハ宜ク警戒  
 シテ此弊ニ陥ラザランヲ誓ハザル可カラサル也



言論ハ賞罰ノ源泉ニシテ暴君奸相ノ之ヲ杜絶スルハ其賞罰ノ嚴格ナルヲ恐ル、ガ故ナリ是故ニ言論ヲシテ十分ニ其效用ヲ尽サシメハ奸惡ナル政事ハ其迹ヲ社會ニ收ムルニ至ルベキナリ之ニ反シテ言論ノ本色ヲ誤リ遂ニ其信用ヲシテ何有ノ境ニ歸セシメハ頌言ハ讚美ニ遇フモ喜フモノナク駁論ノ筆誅ニ遭フモ怖ル、者ナク到底言論ノ勢力ハ人心ノ喜懼ヲ起スニ足ラズ所謂言論ノ審廷ハ其門戸ヲ鎖閉スルニ至ルベキナリ我輩ハ日本帝國ノ此ニ至ラザラソフヲ希望シテ止マザル也

今ヤ外交大ニ開ケ耽々ノ視、逐々ノ慾アル者其兇念ヲ我國ニ逞フセントスルノ秋ナレハ政黨ノ弊害ヲ豫防スルヤ丁寧慎密ナラサル可カラズ何トナレハ他日威力ニ汲々タル

政黨ノ起ルアリ愧々其志ヲ得ザルニ際シ外人ノ干戈ヲ借ス者アリ甘言以テ我ヲ誘ハハ安ヅ父母ノ國ヲ禍スル者ナキヲ保ツベケンヤ試ニ希臘史若クハ以太利史ヲ閱ヒ其的證實ニ乏シカラザルナリ然リト雖ヒ我勤王愛國ナル日本人民ハ豈ニ其覆轍ヲ踏ム者ナランヤ只當サニ其萬一ヲ警戒スベキノミ

我輩ハ已ニ政黨ノ弊害ヲ叙陳シタレハ一言ヲ我國ノ有志輩ニ呈シテ本論ヲ結ハントス曰ク諸君ハ其憲法制定或ハ國會願望ノ誠忠ヲ永遠ニ失ハス自黨ノ目的ヲ以テ眞理ノ討究ニ止メ毫モ威力ハ養成ニ涉ラザラシムナカレ

我輩ハ如キ者ヲシテ却テ老成人ヲ疑ハシムナカレ

○佛國政体轉遷論第五回

伊河津祐長筆記



余ハ前回ニ於テヘルベシュース等ノ論說ハ皆ナ舊制度ヲ破  
 碎スルノ功力アリト雖モ之ニ代フルニ如何ナル制度ヲ以  
 テスルヤヲ論究スル者ナカリシニ恰モ好シルソノ出  
 ズルアツテ之ニ代フルノ制度ヲ論出セリトマデニ陳述シ  
 テ其講談ヲ中止セリ今ヤ左ニルソノガ論說ノ要領ヲ揭  
 ケテ之ヲ諸君ニ示サン

ルソノノ說ニ曰ク善惡ヲ目的トシタル總テノ行爲ハ即  
 チ道德上ノ行爲ニシテ道德上ノ行爲ハ即チ善惡ヲ判決ス  
 ルノ力ニ基ツク而シテ凡ソ人トシテハ必ス生レナカラニ  
 シテ此ノ力ヲ有セザルハナシ若シ其力ナキハ如何ナル  
 容貌ヲ有スルモ決シテ人ニ非ザルナリ故ニ法律ハ總テ人  
 定ト神與トナ問ハズ人ハ決シテ物ト爲スヲ得ズ又物ノ

如ク取扱フベカラズトノ原理ニ基ケリ然リ而シテ人ト物  
 トノ區別ハ孰レニ在ルヤ物ハ純粹ニ機械トシテ用フルヲ  
 得ルモ人ハ必ス其目的ニ干係セシメザルヲ得ズ假令ハハ  
 穀物ハ物ナリ之ヲ播シテ之ヲ收穫シ牛羊ハ物ナリ之ヲ牧  
 シテ之ヲ屠殺スルモ唯ダ我が目的ヲ達スル爲メニ之ヲ機  
 械トシテ使用シ而シテ穀物牛羊ニ對シテ何ノ義務ヲ負フ  
 ニ及バス人ノ如キモ我が機械トシテ用フルヲ得レヒ其結  
 局ハ必ズ其人ヲシテ我ト同シク利益ヲ得セシメザル可カ  
 ラズ即チ目的ニ干係セシメザル可カラザルナリトルソ  
 ノ論スル所此點ニ至ルマデハ其方正ナル疑ヲ容レズ然  
 レヒ其次ニ論スル所ヲ見レハ大誤謬ヲ引出ス可キ辯說タ  
 ルニ免レズ其說ニ曰ク善惡ヲ判決スルノ力ハ則チ自由ノ



力ナルヲ以テ各人ハ如何ナル場合ニ於テモ自由ニ働キ自  
己ノ意思ニ從テ其行爲ヲ定ムルノ權利ヲ固有ス且此權利  
ハ自暴自棄スルニ非ザルヨリハ決シテ他人ヨリ之ヲ奪フ  
ヲ得スト果シテ此論ハ如何ナルハ如何ナル法律ヲ  
リトモ各人自ラ承諾シタルニ非ザレバ之ヲ遵守セシムル  
能ハザル可シ然リト雖ヒルソハ紫ノ朱ヲ奪フガ如キ  
巧妙ナル論理法ヲ以テ之ヲ裝飾シテ曰ク吾人ノ有スル諸  
ノ能力ハ各々差等アリト雖ヒ善惡ヲ判決スルノ力ニ至テ  
ハ人々皆ナ同一ニシテ毫モ差等アル無シ何トナレバ此力  
ハ唯或ル意思又ハ或ル行爲ノ他ノ意思若クハ他ノ行爲ト  
矛盾スルヤ否ヤヲ決スルノミナレバナリ故ニ甲ヨリ乙ハ  
多量若クハ善良ナル判決力ヲ有スルノ理ナシ然ラハ則チ

一人ノ判決力ニ反對シタル所ノモノハ必然正理ニ非ザル  
ナリ是ヲ以テ仮令〜如何ナル人タリトモ他人ニ命スルニ  
其己レニ否ト認ムル所ノ事ヲ以テスルヲ得可カラズ社會  
モ亦唯人ノ集合セルモノナレハ此權利ヲ以テ何人ニモ與  
フルヲ得ズ又決シテ此權利ヲ作爲スルヲ得ズ故ニ社會  
ヲ結びタル人ト雖ヒ其判決力ヲ以テ他人ノ判決力ニ附從  
スルハ理ニ於テ正シカラザルベシ是ニ由テ觀レバ政體ノ  
最モ善良ナルモノハ各人が毫釐モ自己ノ意思ヲ枉ゲズシ  
テ社會ノ法律ニ服從スル様ニ組立テタルモノ、外ナカル  
ベシト又代議ノ政體ヲ駁シテ曰ク主權ハ決シテ他人ニ讓  
ル能ハザルモノナルニ豈ニ人ヲシテ之レカ代理ヲ爲サシ  
ム可ケンヤ主權ナル者ハ唯一般人民ノ意思タルニ過キズ



意思ハ決シテ人ナシテ代理セシムルヲ得可カラズ我ト同  
 シキカ否ラザレバ我レト異ナリ其間ニ餘地ハアラザルベ  
 シ代議士ハ人民ノ名代人ニ非ズシテ特ニ其使節ナルノミ  
 何事タリトモ擅マ、ニ之ヲ確定スルヲ得可ケンヤ人民ニ  
 於テ各自ニ是ナリト確認セシ法律ニ非ザレハ決シテ之ヲ  
 眞誠ノ法律ト云フ可カラズ果シテ然ラバ彼ノ英國人民ノ  
 如キ自ラ自由ナリト誇ルト雖モ實ハ然ラズ唯議員選舉ノ  
 時ニ當テ自由ナルノミ選舉終レハ復タ舊ノ如ク奴隷ト爲  
 ルナリ如レ之其僅カニ有スル暫時ノ自由ノ間ニ其自由ヲ使  
 用スル所ノ舉措ハ己レヲ奴隷ニスベキ議員ヲ選ムニ在レ  
 ハ即チ其自ラ自由ヲ失フガ爲メニスルナリト云フモ敢テ  
 誣言ニアラザルナリトルノ論說ヨリ生ス可キ結果

ハ特リ右ニ述ル所ノミナラズ更ニ一層驚ク可キ結果ヲ生  
 出スルモノアリ彼レ己ニ如何ナル人タリトモ其同意セザ  
 ル法即チ自己ノ意思ニ反對シタル法律ニ從フ可キハ義務  
 ナシト説キタリ吁嗟此説ノ毒チ社會ニ流ス果シテ幾許ツ  
 ヤ請フ仔細ニ之ヲ説カン夫レ意思ハ決シテ僅カニ一行爲  
 ナ判定スルノミニテ尽クルモノニ非ズ昨日我意ニ可ト認  
 ムル所ノモノモ必ズシモ今日ニ至ツテ之ヲ否トセザルヲ  
 保チ難シ故ニ法律ノ如キモ昨日之ヲ是トシテ今日之ヲ非  
 トスルトアルベシ然ラバ則チ吾人ハ昨日可ト信セシ法律  
 ナリトモ今日已ニ之ヲ非ト認ムルキハ之ガ爲メニ箝束セ  
 ラル可キノ義務ナシト云ハザルヲ得ズ果シテ然ラバ此ノ  
 論說ハ實ニ各種ノ政体ヲ粉碎スルノミナラズ又各般ノ社



會ヲモ打破スルニ至ル可シ何トナレバ各人其意ノ可トセ  
 ザル法律ニ從フノ義務ナシトセバ人々悉ク離叛凌轢シテ  
 社會ハ忽チ土崩瓦解ノ形狀ヲ現シ修羅ノ道場ト變スルニ  
 至ラン其レ此ノ如ク今日ヨリ之ヲ見レバ其正理ニ背馳セ  
 ルヲ顯然庇フ可カラスト雖モルソハ巧ミニ之レ繃繆  
 セルヲ以テ當時其不條理ヲ曉ル者ナク其人心ヲ煽動セシ  
 最モ大ニシテ且ツ甚ダ當時ノ人望ヲ收攬セリ而シテ余  
 ハルソノガ其極メテ人望アリシヲ説キ出スニ先タチ  
 更ニ一步ヲ進メテ其論說ノ實際ニ行ハル可キ外形ヲ有シ  
 タル事ヲ示サントス  
 ルソノノ説ニ曰ク政務ハ人民ノ最大要務ナリ苟モ人民  
 ニ之レヲ忘ル、ニ至レハ是レ其國ノ滅亡ニ垂ントスル

ノ秋ナリ而シテ人民ガ政務ヲ以テ意トセザル精神ノ外部  
 ニ形ハル、ヤ千差万別ナリ例ハ一朝他國ト戰端ヲ開キ  
 干戈ヲ執ラザル可カラサルニ及ハバ兵隊ヲ雇フテ己レハ  
 家ニ逸樂シ而シテ其ノ議事堂ニ登テ事ヲ議セザル可カラ  
 ザルアレバ代議士ニ任シテ己レハ私事ヲ營ム而シテ此ノ  
 吾人ヲ奴隸ニス可キ兵隊ト自國ヲ敵ニ賣ル可キ代議士ト  
 ハ皆ナ其ノ金ト惰弱トヨリ生スルヲ覺知セズ末利ヲ事ト  
 シ遊惰ヲ喜ビ自國ノ興廢盛衰ヲ以テ己レガ痛痒ト爲サス  
 豈ニ憫笑ス可キニ非スヤ眞誠ノ自由國ト稱ス可キ國ハ則  
 チ然ラズ其人民各自ニ何事ヲモ之ヲ爲サンコトヲ冀ヒ義務  
 チ免カレシガ爲メニ金ヲ出ザス反テ其義務ヲ尽サンガ爲  
 メニ金ヲ出サントス其相懸隔セルコト豈ニ止ダ霄壤月鼈ナ



テ、ン、ヤ、要、ス、ル、ニ、專、制、ノ、下、ニ、生、活、セ、ル、人、民、ガ、議、事、堂、ニ、登、ル、  
 ハ、自、由、國、人、民、ガ、議、院、ニ、行、ク、ル、喜、ブ、ガ、如、ク、ナ、ラ、サ、ル、者、ハ、則、  
 テ、意、思、ヲ、其、議、案、ニ、留、メ、ザ、ル、ニ、由、ル、ナ、リ、此、ノ、如、ク、人、民、ノ、國、  
 務、ヲ、抛、擲、シ、テ、顧、ミ、ザ、ル、ニ、至、ル、ハ、一、ハ、衆、人、ガ、意、思、ノ、議、場、ニ、  
 行、ハ、レ、ザ、ル、ヲ、想、フ、ニ、ア、リ、一、ハ、各、自、唯、ダ、其、私、事、ヲ、營、ム、ニ、汲、  
 ヲ、タ、ル、ニ、因、ル、可、シ、而、シ、テ、其、終、極、ス、ル、所、ハ、政、府、ノ、權、利、ト、人、  
 民、ノ、權、利、ニ、關、シ、テ、大、ニ、人、民、ノ、思、想、ヲ、誤、リ、遂、ニ、僧、徒、ト、貴、族、  
 ト、ニ、貴、重、ナ、ル、第、一、第、二、ノ、地、位、ヲ、與、ヘ、公、衆、ノ、利、益、ヲ、ハ、之、ヲ、  
 第、三、等、ニ、置、ク、ニ、至、ル、豈、慨、嘆、ニ、堪、フ、可、ケ、ン、ヤ、然、リ、ト、雖、ヒ、今、  
 此、ノ、言、フ、可、カ、ラ、ザ、ル、ノ、弊、害、ヲ、治、療、セ、ン、ト、欲、セ、バ、之、ガ、藥、石、  
 無、キ、ニ、非、ス、而、シ、テ、其、藥、石、ヲ、止、ダ、一、方、ノ、ニ、人、民、ノ、困、睡、ヲ、  
 呼、覺、マ、シ、憤、發、努、カ、シ、テ、天、與、ノ、政、權、ヲ、自、己、ノ、手、ニ、恢、復、ス、ル、

ニ、在、リ、既、ニ、前、段、ニ、論、ス、ル、如、ク、人、民、ハ、其、許、諾、セ、ザ、ル、所、ノ、法、  
 律、ニ、服、從、ス、ル、ノ、義、務、ナ、ク、又、後、來、ニ、於、テ、モ、自、ラ、立、テ、ザ、ル、法、  
 律、ヲ、遵、守、ス、ベ、キ、ノ、條、理、ナ、シ、故、ニ、其、意、ニ、適、セ、ザ、ル、奇、酷、ハ、舊、  
 法、ハ、總、テ、之、ヲ、破、却、シ、而、シ、テ、世、情、ニ、最、モ、適、功、ナ、ル、所、ハ、新、法、  
 ヲ、設、ク、ル、コ、ソ、即、チ、人、民、ガ、負、擔、セ、ル、所、ハ、本、分、ノ、義、務、ヲ、尽、セ、  
 ル、者、ト、謂、ツ、可、キ、ナ、リ、ト、論、究、セ、リ、  
 此、論、說、タル、ヤ、余、ガ、前、回、ニ、講、述、セ、シ、學、士、ノ、論、說、ニ、比、ス、レ、バ、  
 頗、ル、實、施、シ、得、可、キ、モ、ノ、アル、カ、如、シ、故、ニ、佛、國、人、民、ハ、彼、ノ、論、  
 者、等、ガ、破、碎、シ、タル、所、ノ、舊、元、則、ニ、代、フ、可、キ、適、功、ナル、元、則、ヲ、  
 得、タル、ヲ、悅、ヒ、タ、リ、仮、令、ヒ、心、理、學、者、ガ、人、ハ、外、物、ノ、感、觸、ニ、由、  
 テ、成、立、モ、ノ、ト、說、キ、道、德、學、者、ガ、人、ハ、情、慾、ニ、從、フ、ヲ、大、德、ナ、リ、  
 ト、教、ヘ、又、諧、謔、論、者、ガ、人、民、ノ、已、ガ、仇、タル、寺、院、及、ヒ、政、府、ヲ、尊、



敬スルヲ罵詈訶笑シタリト雖モ其論說タル皆未ダ人民ヲ  
 誘導シテ此惡弊ヲ脱シ自由ト幸福トヲ得セシムルノ成績  
 ナシ左レハコソルソノ論說出ルヤ否ヤ人民ハ之ヲ偏  
 信スル恰モ狂癪ノ如クナリシハ亦決シテ怪ムニ足ラザル  
 ナリ實ニ此時ニ當リ政治上ノ弊害夥多ニシテ人民塗炭ニ  
 苦ミ其改良ヲ欲スルヤ旱天ニ雲霓ヲ望ムニ異ナラズ而シ  
 テ貴族若クハ富者ヲ嫉ムノ念怒モ亦極メテ深シ然ルニ當  
 時ノ著書ハ皆ナ此ノ悲慘ノ景狀ヲ脱スルノ正理ナルヲ說  
 キシノミニテ更ニ其之ヲ脱スルノ方法ヲ教ヘズ此際ニ當  
 ツテ現出スルルソノ著書ノ如キ其人心ヲ感動振起セ  
 シメハ毫モ怪ムニ足ラザルナリ尙ホ論辨ス可キ所アレヒ  
 其ノ聽者ノ倦ムニ至ラノヲ恐レ之ヲ次回ニ讓ル

東京本所區横網町二丁目二番地

静岡縣士族

編輯主任

吉田次郎

同日本橋區元柳町十四番地寄留

青森縣士族

出版人

根津親徳

東京々橋區新着町十壹番地

假本局

求友社

販行人 西宮松之助

同京橋區銀座四丁目十番地



弊社雜誌ノ儀ハ代價並ニ遞送税トモ前金ニ御遣シ無之候テハ遞送致サハル社則ニ有之候間何部分ニテモ御見込次第前金ヲ以テ御注文奉冀候也  
 壹册定價五錢 五册前金二十二錢五厘 十册前金四十三錢 二十册前金八十錢  
 但シ府外ノ分ハ別ニ郵税申受候

大賣捌所

東京銀座四丁目 朝野新聞社 同神田區雉子町三十二番地 巖  
 同日本橋區藥研堀 報知社支店 同虎ノ門外琴平町 靜霞堂  
 同日本橋區元大坂町 法木徳兵衛 同芝區三田同朋町 靜海堂  
 同淺草區元鳥越町廿一番地 共致社 同芝源助町 春陽堂  
 橫濱太田町二丁目 伊勢屋梅藏 所

東京銀座四丁目 博田秀之助社 橫濱野毛町二丁目 鈴木作平  
 同麴町區三番町 杉田善之助堂 石川縣金澤尾張町 牧野雲堂  
 同牛込神樂坂壹丁目十番地 大黒屋金之助 大坂堂島中壹丁目 春陽舍  
 同表神保町九番地 赤川五平 信州松本南深志町 窪田眞重  
 同赤坂裏壹丁目十六番地 高橋小兵衛 大坂本町四丁目 岡島眞重  
 同本郷區本郷四丁目十番地 湊屋小兵衛 相州橫須賀旭町 窪田眞重  
 同淺草並木町二十六番地 秋山茂左衛門 西京新極頓藥師下ル 窪田眞重  
 同日本橋區室町三丁目 大黒屋平吉 下総千葉 內國通運會社  
 同兩國吉川町二番地

明治十三年第八月十六日刊行

- 理論實際之關涉 杉山 藤次郎
- 何ニ依テ人民ハ政府ニ服従スルカ 草間 時福
- 貧病論 波多野 傳三郎
- 再ビ請願ノ權利ヲ論ズ 沼間 守一

末廣重恭校閱  
 吉田次郎編輯  
 櫻鳴雜誌  
 第十八號





理論實際之關涉

埜玉縣

杉山藤次郎郵寄

理論ハ必ズシモ實際ニ行ハレズ實際ハ必ズシモ理論ニ適  
ハズ理論ト實際トハ相懸隔シテ其歸ヲ同ウセズ何々論ハ  
所謂ル可言而不可行者タリ言ベクシテ行フ可カラサレハ  
之ヲ空論ト言フモ亦不可ナルナキナリ故ニ理論ニ適フモ  
實際ニ行ハレザル者ハ智者ノ探ラザル所ナリ理論ニ合ハ  
ザルモ實際ニ施シテ不可ナキ者ハ豈ニ之ヲ放棄ス可ケン  
ヤト理論ヲ輕ンシテ實際ヲ重ンズルハ是レ今日世人ノ通  
弊タリ嗚呼天下廣シト雖モ古今永シト雖モ愚論ノ太甚シ  
キ未ダ此論ノ右ニ出ヅル者アラズ否此論ト同シキ者アル  
ヲ聞カサルナリ



眞正ノ理論ハ必ズ實際ニ行ハレ善美ハ實際ハ必ズ理論ニ  
 適フ故ニ實際ニ行ハレザル論説ハ眞正ノ理論ニ非ラズシ  
 テ荒唐ノ空論ナリ(五行論虛無説ノ如キ即是也)理論ニ適ハ  
 ザル事業ハ善美ノ實際ニ非ラズシテ偏執ノ惡業ナリ(桀紂  
 始皇及ヒ路易十四世ノ所業即是也)世人ノ所謂ル理論トハ  
 如何ナル者ヲ指スカ必ズヤ天動論地方説ノ如キ者ヲ謂フ  
 ニ非ラザル可シ此ノ如キ者ハ是レ理論ニ非ラズシテ所謂  
 ル空論ナリ故ニ稱シテ理論ト爲ス所ハ必ズ心ニ善良ナリ  
 ト思惟スルモ其ノ實際ニ行ハレ難キ者ヲ謂フ者ナル可シ  
 然レハ是レ空論ニ非ズ何トナレハ此ノ如キハ目下直チニ  
 行ハレズト雖モ早晚必ズ行ハルハ期ナキニ非サルヲ以  
 テナレハナリ

在昔非撒格羅斯ガ地動説ヲ首唱セシ時ハ天下ノ輿論囂々  
 之ヲ排駁シ終ニ之ヲ空説トナシ一人ノ之ヲ信ズル者ナカ  
 リキ然レモ是レ眞正ノ理論ナルヲ以テ目下直チニ行ハレ  
 ズト雖モ後世一度加列利窩出デ、此説ヲ詳論セルニ及ン  
 デ終ニ天下ヲ舉ゲテ此説ヲ信ズルニ至リシニ非ラズヤ亦  
 曾克拉底斯ガ諸像神ハ眞ノ神ニアラズ眞ノ神ハ獨リ造物  
 者アル而已ノ説ヲ首唱セシ時モ天下ノ輿論ハ交モ之ヲ駁  
 撃シ神明ヲ褻瀆スル者ト爲シ終ニ死刑ニ處セラレタリ然  
 レモ是レ眞正ノ理論ナルヲ以テ後世人智ノ開發セルニ及  
 ノデ遂ニ天下ハ同ク是トスル所トナリシニ非ラズヤ彼ノ  
 蘆騷ノ如キ千七百年代ノ始メニ在リテ社會合約説ヲ首唱  
 セシ時ハ天下ノ人之ヲ橫斥シテ可言而不可行ノ空論ナリ



トセシガ其千七百年代ノ末ニ及ンデ此說遂ニ勢ヲ得テ壓  
 制ハ舊政府ヲ顛覆シ自由ノ新政府ヲ設立スルガ爲メ著ル  
 シキ功用アリシニ非ズヤ由是觀レ之理論ハ實際ノ原因ニシ  
 テ實際ハ理論ノ結果ナリ畢竟理論ト實際トハ異名同實ナ  
 ル者ニシテ決シテ二物ニアラズ理論ハ即チ實際ニシテ實  
 際ハ即チ理論ナリト云フモ亦敢テ過言ニハアラザル可シ  
 故ニ理論ヲ以テ直チニ迂論ト爲ス者コソ眞ノ迂論者ナレ  
 然レモ目下直チニ行ハレザル論說ハ是レ皆迂論ナリ空說  
 ナリト云ハハ其レ迄ノコトナレハ默シテ止マンカ否ナ猶一  
 言セザルヲ得ザル者アリ若シ夫レ目下ニ行ハル、者ニア  
 ラザレバ以テ論辨スルヲ要セズト爲サハ社會ノ文明ハ茲  
 ニ淹滯シテ少シモ進歩スルコトナシ啻ニ進歩セザル而已ナ

ラズ時トシテハ退歩スルコトアラシモ亦知ル可カラズ故ニ  
 苟モ社會ノ文明ヲシテ益々進歩セシメント欲セハ必ズヤ  
 未來ノ實際ヲ前言スル者アラシク要ス若シ夫レ後世ノ  
 實際ヲ前言スル者ナクンバ孰レノ方ニ向テ進入ス可キヤ  
 恰モ黑夜無提灯ニテ山路ヲ行クガ如シ亦危險ノ至リト謂  
 フ可キナリ  
 英國ノ碩儒邈克爾氏有言曰理論實際相須ツテ後チ國治ル  
 ト理哉此言ヤ獨リ理論ノミアリテ實際ナクンバ以テ國家  
 ナ治ルコト能ハズ獨リ實際ノミアリテ理論ナクンバ以テ國  
 家ヲ亂スニ至ル可キナリ故ニ理論ハ必ズ實際ヲ目的トシ  
 テ論ズ可ク實際ハ必ズ理論ヲ基礎トシテ行フ可シ然ラザ  
 レバ到底國家ノ治安ヲ見ル可ラザルナリ試ニ思ヘ東洋諸



邦ノ如キ理論家ハ實際ヲ目的トセズシテ實際家ハ理論ヲ基礎トセズ故ニ三千有餘年前ニ文明ノ端緒ヲ開キタルモ今日未ダ半開ノ域ヲ脱スルヲ能ハズ西洋諸邦ノ如キハ然ラズ是レ開明日淺シト雖ヒ驚ク可キノ進歩ヲ致セシ所以ナリ今時我邦ノ如キハ濛々昏昏ノ域ニ在ルニモ係ハラズ世人ハ實際ノミヲ尊ンデ理論ヲ顧ミズ嗚呼亦深ク憂フ可キナラズヤ

何ニ依テ人民ハ政府ニ服従スルカ 草間時福

大ハ以テ小ヲ壓シ強ハ以テ弱ヲ制スルハ一般動物世界ノ常ニシテ決シテ怪ムニ足ラザルナリ獨リ人類社會ニ至テハ全ク之レニ反シ寡ヲ以テ衆ヲ壓シ弱ヲ以テ強ヲ制スル者アルハ何ゾヤ見ル可シ干腮脾目其力能ク鼎ヲ枉ケ其勇

能ク三軍ヲ拉ク壯夫ニシテ一寡婦一小兒ノ願使ニ甘ンシ老者狂人ノ意想ニ服従セリ豈之レヲ咄々怪事ト謂ザルヲ得ンヤ人民ノ政府ニ服従スル即チ亦此類ナリ看ヨ政体ハ如何ニ民治的ナルニモセヨ被治者ハ常ニ強ニシテ衆ナリ治者ハ弱ニシテ寡ナリ況ンヤ君主獨裁貴族專治ノ政体ニ於テチヤ然ルニ弱ニシテ寡ナル者ハ却テ強ニシテ衆ナル者ヲ制御シ其命令ニ服従セシムルハ何ソヤ夫ノ權力ノ如キハ宜ク強者之レ以テ弱者ニ臨ミ衆者之レヲ以テ寡者ヲ制スヘキ筈ナルニ獨リ治者被治者ニ至リ其ノ之レヲ顛倒スルハ將タ何ノ理由アリテ然ルヤ說ヲ爲ス者アリ曰ク政府ニハ常備兵ナル者アリ虎賁羽林常ニ之レカ爪牙トナリ以テ政府ヲ維持シ以テ人民ヲ統御ス是レ弱者タル政府ガ



却テ强者ナル人民ヲシテ其命ニ服従セシムル所以ナリ故  
 ニ方今各國政府ハ皆競テ常備兵ヲ増ス其名ヲ問ヘハ外患  
 ニ備ヘ敵國ヲ防クナリト云モ其實ハ國內人民ノ不虞ヲ警  
 メ革命ヲ恐ルニ出ルナリト此説或ハ然ラシ然レモ此ノ數  
 十萬ノ軍人ハ何故ニ政府ノ命ニ服役シ其爪牙タルヲ甘ス  
 ルカ力ヲ以テ云ハ常備軍ハ大ナリ數ヲ以テ云モ常備軍ハ  
 衆ナリ是レ又一ノ疑點ニ非ズヤ人間世界ノ動物世界ノ顯  
 象ト相異ルノ斯ノ如シ然ラハ人民ノ政府ニ服従スルハ如  
 何シノ理由ニ出ルヤ曰ク私利ヲ謀ルガ爲メナリ曰ク利害  
 ナ計較スルガ爲メナリ曰ク先入ノ然ラシムルカ爲メナリ  
 何チカ先入ノ然ラシムルト云ヤ君主ハ天孫神子ニシテ政  
 府ハ天ノ名代人ナリトノ意想ヲ抱キ政府ハ其寡弱ナルニ

モ拘ラズ人民ヲ統御スルノ權利ヲ固有スル者ナリト信シ  
 遂ニ政治上ノ習慣トナリ第二ノ天性ノ如キ勢力ヲ顯出ス  
 ルニ至ル社會ノ顯象ヲ見ルニ先入ノ勢力多ク其事物ヲ支  
 配セリ彼ノ嫡子相續ノ權ノ如キ財產相傳ノ說ノ如キ官吏  
 奉行ノ威權ノ如キ貴族僧侶ノ特權ノ如キ皆是レ先入主ト  
 ナリ假用久シキヲ經テ遂ニ人ノ之レヲ怪シマザルノミナ  
 ラズ却テ之レヲ以テ人間社會普通ノコト爲スニ至ルニア  
 ラズヤ故ニ古今君主帝王ナル者ハ槩子此ノ機ニ投セリ羅  
 馬諸帝ハ自ラ天神ト同一ノ崇敬ヲ占有シペリウノインカ  
 スノ如キ索遜諸王ノ如キ又今日チベットノラマノ如キ皆自  
 ラ天孫神子ナリト稱シ或ハ天帝ト交通スル權利アリト唱  
 へ其他今日東洋諸國ニ此例鮮ナカラズ是レ則チ人民ガ強



且、ツ、衆、ナル、ニ、モ、拘、ラ、ズ、寡、弱、ナル、政、府、ニ、服、從、チ、甘、ス、ル、所、以、  
 ニ、シ、テ、君、主、帝、王、若、ク、ハ、政、府、ヲ、以、テ、統、御、ノ、權、利、ヲ、有、ス、ル、者、  
 ナ、リ、ト、ノ、迷、想、僻、說、ヲ、起、ス、一、大、基、本、タ、リ、  
 然、ラ、バ、何、ナ、カ、利、害、ヲ、計、較、ス、ル、ガ、爲、メ、ナ、リ、ト、云、ヤ、人、民、政、府、  
 ニ、服、從、セ、ザ、レ、バ、内、亂、興、起、シ、底、止、ス、ル、所、ナ、ク、新、政、府、ヲ、組、織、  
 ス、ル、ハ、在、來、ノ、政、府、ヲ、維、持、ス、ル、ニ、如、カ、ズ、故、ニ、其、利、害、ヲ、計、較、  
 シ、テ、政、府、ニ、服、從、ス、ル、者、是、レ、ナ、リ、何、ナ、カ、私、利、ヲ、謀、ル、ガ、爲、メ、  
 ナ、リ、ト、云、ヤ、自、己、ノ、安、居、逸、樂、ヲ、求、メ、ン、カ、爲、メ、ニ、出、デ、若、シ、政、  
 府、ニ、服、從、セ、ザ、レ、バ、尙、ホ、幾、層、ノ、不、幸、ヲ、被、ル、ヤ、モ、測、ル、ベ、カ、ラ、  
 ズ、ト、思、惟、ス、是、レ、私、利、ヲ、謀、リ、テ、政、府、ニ、服、從、ス、ル、者、ナ、リ、此、ノ、  
 意、想、ハ、各、々、同、シ、カ、ラ、ズ、ト、雖、モ、拘、リ、政、府、ニ、服、從、ス、ル、ノ、結、果、  
 ナ、生、ス、ル、者、ニ、シ、テ、同、一、ノ、服、從、ナ、リ、ト、雖、モ、其、ノ、之、レ、ヲ、致、ス、

所、以、ノ、意、思、ハ、概、テ、此、ノ、大、別、ア、ル、ガ、如、シ、是、レ、人、民、ノ、強、者、衆、  
 者、ノ、位、置、ニ、ア、リ、テ、却、テ、寡、者、弱、者、ノ、位、地、ニ、ア、ル、政、府、ノ、命、令、  
 ニ、服、從、ス、ル、所、以、ナ、リ、然、レ、モ、此、ノ、意、思、タ、ル、皆、個、々、人、々、ノ、思、  
 想、裡、ニ、ア、リ、實、ニ、服、從、セ、ザ、ル、ベ、カ、ラ、ザ、ル、義、務、ト、同、シ、カ、ラ、ズ、  
 故、ニ、此、ノ、服、從、ノ、義、務、タ、ル、理、由、ハ、別、ニ、之、レ、テ、求、メ、ザ、ル、ベ、カ、  
 ラ、ザ、ル、ナ、リ、古、來、學、者、ノ、此、ノ、服、從、ヲ、以、テ、人、民、ノ、義、務、ナ、リ、ト、  
 ス、ル、ノ、諸、說、モ、鮮、ナ、カ、ラ、ザ、レ、バ、今、其、大、畧、ヲ、述、ベ、其、迷、謬、ヲ、辨、  
 シ、此、ノ、服、從、ノ、果、シ、テ、人、民、ノ、義、務、タ、ル、ヤ、如、何、ナ、ル、道、理、ア、リ、  
 テ、然、ル、カ、ニ、論、及、ス、ベ、シ、  
 貧、病、論、  
 波、多、野、傳、三、郎、  
 人、ノ、團、樂、集、合、ス、ル、ヤ、其、談、話、中、必、ズ、當、時、ニ、肝、要、ニ、シ、之、ヲ、言、  
 語、ニ、發、セ、ザ、ル、ニ、得、ザ、ル、事、項、ア、リ、例、ヘ、バ、明、治、十、年、ニ、於、テ、ハ、



人々相見レハ必ズ西南ノ戦争ヲ談シ惡疫流行ノ際ニ當ツ  
 テハ必ズ相語ツテ豫防消毒ニ及ブ而シテ現時社會ニ於テ  
 各人ノ之ヲ稱スル恰モ一口ニ出ヅルガ如キノ通話ハ何者  
 ヲト考按シ來ラシニ國會開設論ニ非ザレハ必ズ物價騰貴  
 ノ苦情ナリ而シテ二者ノ中物價騰貴ノ如キハ直接影響ヲ  
 細民ニ及ボスニ因リ其苦情最モ甚ダシク嗚々喟々トシテ  
 道路ニ怨嗟ノ聲ヲ絶タザルニ至レリ或ハ曰ク我々ハ斯ク  
 物價騰貴ノ爲メニ苦シメヒ仰イデ貴顯社會ヲ見レハ毫モ  
 物價ノ騰貴ニ感スルノ色無シ何トナレハ今日ノ貴顯ハ肥  
 馬ニ乘リ輕裘ヲ衣花ニ酔ヒ柳ニ戯シ豪華ヲ以テ相競フ者  
 ノ如シ物價騰貴ノ餓莩路ニ横ルノ秋ニ際シ安ゾ能ク忍デ  
 之ヲ爲スヤト然レヒ此レ徒ニ世人ノ惡口ニ過ギズ貴顯ノ

人々モ外面ヨリ之レヲ觀レバ細民ノ疾苦ヲ痛痒ト爲サレ  
 ル如クナレヒ其實ハ心ヲ苦メ慮ヲ凝ラシ暫時モ細民ノ貧  
 困病ヲ治癒スルコトヲ忘レザル可シ左レハコソ嘗テ投機ノ  
 弊害ヲ察シ空米相場差留等ノ英斷アリシニ非ズヤ而シテ  
 吾輩モ亦實ニ自ラ其患者ノ一人ナルガ故ニ此病苦ヲ免カ  
 レンガ爲メニ思考ヲ費シ一ノ良法ヲ發明セリ因テ左ニ之  
 ヲ論述セントス  
 鬼王新左衛門曰ク四百四病の病より貧ホドつらいもの  
 ゐト然ラバ貧ノ難病タル得テ知ル可キナリ諺ニ曰ク戀  
 の病ハ四百四病の外なりト然レヒ其病源ヲ探知シ其ノ相  
 慕フ男女ヲシテ情ヲ通セシムレバ立コロニ之ヲ治療スル  
 ナ得ベシ戀病尙ホ然リ況ンヤ貧病ニ於テオヤ己ニ疾病ノ



部類ニ属ス何ゾ之ヲ治療スルノ方法ナカラシヤ而シテ余  
ト同憂者ハ亦之レガ爲メニ幾多ノ考案ヲ起シ現ニ世人ガ  
專ラ稱道スル貧病ノ治療法ハ三説ニ分レタリ一ニ曰ク貧  
富ノ平均ニ曰ク自由貿易三ニ曰ク移住拓地ト然レモ吾  
輩ハ此ノ三者ノ斷シテ衆庶ノ貧困ヲ濟フ能ハザルヲ信ズ  
ルナリ何トナレハ第一説ノ如キ之ガ説ヲ爲ス者ハ曰ク同  
シク是レ人ナリ何ゾ彼ハ富シテ此ハ貧ナルノ不公平アラ  
シヤ此ノ幸不幸アレハコソ富人ハ貧人ヲ籠絡使役シ富者  
益ス富ミ貧者ハ益ス貧ニシテ一大懸隔アルニ至レリ宜シ  
ク貧富ヲ平均シテ以テ此ノ窮苦ヲ濟メ可シト吁嗟是レ何  
等ノ怪説ヅヤ若シ此言ヲシテ實行セシメハ衆庶相延ヒテ  
以テ共ニ貧苦ニ陥ル可キナリ如何トナレハ人ハ勞ヲ厭ヒ

安キ好ム者ナリ苟キ貧富ヲ平均セハ誰カ自ラ起ツテ事業  
ヲ勉勵スル者アラシヤ故ニ此ノ平均説ハ到底現時ノ貧富  
ノ比較ヲ滅却スルノミニテ人々悉ク貧窮ニ陥リ終ニ雨露  
ヲモ凌グ能ハザルニ至ル可シ又第二論者曰ク自由貿易ヲ  
許シ海外ニリ夥シク食料ニ充ツ可キ物品ヲ輸入シ以テ我  
邦ノ物價ヲ低下セシム可シト此説モ亦決シテ其効ヲ見ル  
能ハザルナリ夫レ天下萬國何レノ國カ自國ニ消費スル外  
ニ於テ許多他國ノ需求ニ應ス可キ食物ヲ餘ス者アラシヤ  
故ニ此説ノ結果ハ特ニ金貨濫出ヲ助ケルノミニシテ毫モ  
我ニ益スルナキナリ又第三説ノ貧者ヲシテ遠地ニ移住セ  
シメ不毛ヲ開拓シ以テ自カラ作シテ衣食ヲ得セシム可シ  
ト云ガ如キニ至テハ亦思ハザルノ甚シキナリ抑モ英國ノ



如キハ富強ヲ以テ宇宙間ニ雄視スル邦國ナリト雖ヒ其ノ  
 貧富ノ相懸隔セルニ至テハ更ニ我邦ヨリモ甚シク而シテ  
 英國愛爾蘭ノ如キハ殊ニ甚シトス然レヒ人情ハ故土ヲ慕  
 ヒ移住ヲ憚ル均シク貧困ナレバ寧ロ父母ニ別レ里閭ヲ離  
 ル、ヲ欲セザル可シ現ニ我が北海道ノ如キハ左マデニ遐  
 遠ト云フニモ非ズ米國ノ彌斯西北沿河ノ地ヲ拓スルニ比  
 スレハ尙ホ容易ナリトス然レヒ人々北海道ト云ヘハ止ニ  
 鬼ノ住居スル怕ロシキ遠キ島ナリト想像シ政府ガ保護ノ  
 厚キニモ係ハフズ移住ヲ希フ者極メテ少ナキニ非スヤ然  
 ラハ則チ此ノ三說ハ一モ以テ貧困ヲ濟フノ策ニ非ザルナ  
 リ

吾輩ガ前說ヲ排斥シテ茲ニ說キ出ス所ノ救濟法ハ他ナシ

人々安リニ夫妻ハ配偶ヲ爲サズシテ人口ヲ減少スルニア  
 リ然レヒ此方法タル人ノ情慾ヲ抑制スルヲナレハ之ヲ實  
 行スルニ頗ル難ク且ツ我邦ニ於テハ未タ此方法ヲ行フニ  
 最モ肝要ナル三機械ナシ三機械トハ何ゾ即チ養老年金、生  
 命保險、及び貯藏銀行是レナリ西洋ノ諸邦ハ此ノ機械ノ充  
 分備具セルガ故ニ以テ老後生活ノ圖ヲ爲ス可ク以テ死後  
 遺族ノ生活ノ備ヲ爲スヲ得可シ我邦ニ於テ近時有志輩ガ  
 僅々二万圓許ノ資本金ヲ以テ貯藏銀行ヲ設立セシト雖ヒ  
 何ソ斯ノ如キ僅少ナルモノヲ以テ普ク國中ノ利益ヲ爲ス  
 ニ足ランヤ而シテ人々ノ視テ以テ後來ノ良圖ナリト信ズ  
 ル所ノモノハ即チ吾輩ノ認メテ以テ貧困ニ陷ルノ一大根  
 源ト爲ス所ノモノナリ何トナシハ人々相延ヒテ夙ニ婚姻



ナ爲シ以テ子ヲ生シ此ノ子ヲ養育シ成人ニ及ベバ之ヲシ  
 テ三機械ノ用ヲ兼テシメ財産ヲ擧ゲテ此子ニ讓與シ以テ  
 老後ニ樂隱居タラシムヲ圖リ之ニ遺族ヲ託シテ之ガ保護  
 ナ爲サシム而シテ實子ナキハ他人ノ子ヲ養フテ以テ後  
 嗣ト爲シ之ニ後計ヲ託シテ家族ヲ養育セシム是レ恰モ一  
 時ニ若干ノ金額ヲ預ケテ養老年金ヲ受ケ又ハ年々若干ノ  
 金ヲ委托シテ死後遺族ガ生活ノ資本ト爲ス者ト同一ノ意  
 見ニ出ルナリ故ニ我邦ニテ夙ニ妻ヲ娶リ子ヲ生シ人口ヲ  
 増殖シテ毫モ怪マズ家眷ノ増加シテ之ヲ養育スルノ道ヲ  
 得ズ爲メニ貧困ニ陥ルモ恬トシテ之ヲ耻ヂズ他人モ亦甚  
 グ之ヲ憐憫ス例ヘバ均シク身ノ不覺悟ヨリ出ルナリ然レ  
 酒ヲ嗜ミ色ニ溺ルハヨリ生スルハ貧困ハ他人之ヲ顧ミ

ザルモ所謂ル家内多ヨリ生スルハ困難ハ人舉テ之ヲ賑恤  
 セントナシ思フ何ゾ其レ誤レルハ甚シキヤ若シ我邦ヲシテ  
 養老年金生命保險及ヒ貯藏銀行ノ三者アラシメハ家内多  
 ノ貧困モ世人之ヲ横斥シ自身モ之ヲ羞耻トスルニ至ル可  
 シ故ニ吾輩ハ信ス貧困病ヲ濟フノ急務ハ先ツ此ノ三機械  
 ナ設クルニ在リト而シテ吾輩ハ此演説ヲ終ルニ臨ミ一言セ  
 ント欲スルモノアリ夫レ己レノ意ニ出テ夙ニ婚姻ヲ爲  
 ス者ハ是レ自ラ招クノ禍ニシテ其ノ貧困ニ陥ルハ自業自  
 得ト云フ可キナリ然ルニ我邦舊來ノ風習ニ親ト親トノ契  
 約ナルモノアリ本人ニ於テ婚嫁ニ意ナキモ父母ノ威權ヲ  
 以テ強テ之ヲシテ配偶セシメ終ニ多子ヨリ生スル所ノ貧  
 困ニ陥ルヲ免カレズ此ノ疾病ヲ致ス可キ弊害ヲ一掃シ而



シテ養老年金生命保険貯藏銀行ヲ調合セシ所ノ良藥ヲ以テ之ニ服用セシメバ如何ナル重体ノ貧困病タリトモ豈ニ治癒セザルノ理アラシヤ

再ヒ請願ノ權利ヲ論ス

沼間守一演說  
吉田次郎筆記

此ニ二三ノ人アリ此ノ人々ノ間ニ議論ヲ生スルニ當リ其議スベキ論點ニ向ヒテ必スヤ云ハン條理々々ト扱此條理ナルハ何物ゾト考フルニ即チ天下ノ正理公道ナリ抑モ此ノ正理公道ハ人間各個ノ間ニ紛起スル所ノ爭論ヲ判定スルノ「キイ」ナリト云ハサルヲ得ズ「キイ」ノ譯語タル鍵ニシテ物ニ錠アルヲ開クノ器ナリ恰モ正理公道ノ爭論紛議ヲ判シ之ヲシテ豁然貫通セシムルニ同シ斯ク考ヘ來レバ正理公道ハ如何ナルモノゾト審鑿スルヲ以テ人間社會ニ視息

スルノ最大緊用トス今支那ノ故典ヲ閱スルニ孔子匡ニ畏スルニ當リ曰ク天之未喪<sub>ニ</sub>斯文也匡人其如<sub>ニ</sub>予何ト云ヒ又桓魋ノ厄ニ遭フヤ曰ク天生<sub>ニ</sub>德於<sub>レ</sub>予桓魋其如<sub>ニ</sub>予何ト云ヘリ孔子ノ如キ一身ヲ舉ゲテ其ノ視テ以テ正理公道トナス所ノモノニ委シ百般ノ事理ヲ判セシヤ明カナリ故ニ相次テ漢儒ノ孔子ヲ尊ブモノ此ノ正理公道ヲ以テ一人一個ノ以テ立ツ所ノ地トナシ日夜孜孜之ヲ審鑿シテ己マザリシナリ其レ然リ往古以來漢儒ガ所謂ル正理公道ヲ認ムルノ道ハ今時歐米學士ガ之ヲ認ムルノ道ト相異ナルニモ拘ハラズ正理公道ノ大本ハ國ノ東西時ノ今古ヲ通シテ依然トシテ樹立セリ然レトモ今其ノ道ノ相異ナルモノヲ說カンニ古ハ目シテ無道非分ナリトセシトモ今ハ全ク正理ナリ公道



ナリト認メラル、ニ至レリ其例タル近ク之ヲ得ベシ古ヘ  
 ハ人子ニシテ其父ノ人ノ爲メニ殺サル、トアレハ其行兇  
 者ト俱ニ此天ヲ戴カズト爲シ艱難辛苦原野ノ蒸莽ヲ分チ  
 山溪ノ岩石ヲ潜ルモ意トセズ之ヲ搜索シ得テ汝コソ我父  
 ノ讎ナリ多年ノ怨刃ヲ受ケヨト色言シテ之ヲ殺サレハ  
 其心ニ飽カス人亦之ヲ稱シテ某家ノ子ハ孝子ナリ能クモ  
 先人ノ讎ヲ斃セリト賛賞シ而シテ官亦之ヲ鄉閭ニ旌表シ  
 テ以テ之ヲ勸奨シタリキ然ルニ現時ヨリシテ之ヲ視レハ  
 人類ニシテ自由自儘ニ人ヲ殺スヲ得ルトハ實ニ驚クベク  
 怖ルベキ怪事ナラズヤ  
 夫レ然リ斯迄ニ其道理ヲ認ルニ當ツテ變化ヲ呈セリ左レ  
 バ人或ハ然ラバ所謂ル正理公道ハ何物ニヨリテ極メフル

ベキト問ハシ今其分界ヲ立ツルニ苦ミ有ルガ如ク無キ  
 ガ如ク殆ンド有無ノ中間ニ逍遙シ我々が事ニ望ンデ是コ  
 ソ正理公道ナント主張シ以テ紛議ヲ判定スル能ハザルガ  
 如シ然レモ靜心平氣以テ之ヲ求メハ之ヲ認ルノ道ナシト  
 セズ他ナシ三千年ノ久シキ學士論者ガ之ヲ書ニ著シ之ヲ  
 史ニ傳ヘテ以テ研究論述セシ所ノ知覺見識ノ積累セシ所  
 ノモノニ就キ斯クアル故ニ此事ハ正理公道ナリト認ムル  
 ナ得テ往古ノ誤ツテ正理公道トセシ所ノモノモ今更ラニ  
 正理公道ニ非ズト認メラル、ニ至ルニ於カ正理公道ヲ認  
 ムルノ一大基本立ツ今又仮リニ一例ヲ舉ゲン人タルモノ  
 ガ猥リニ人ヲ打ツハ非道ナリ人ヲ打タザルコソ道理ナル  
 可ケレド問ハシ誰シモ然リト答ヘン又謂レナキニ人タル



モノハ猥リニ性命ト財産ヲ奪ハレザル方道理ナラント問  
 ハゞ同シク然リト答ヘン此ノ如クニ正理公道ガ衆多ノ人  
 ニ認メラレ既ニ正理公道トナリテ多ク社會ニ成立チタル  
 モノアリ左レハ我々ガ百事ヲ議論スルニ當リ正邪ヲ審判  
 スルニ於テハ此ノ正理公道ヲ以テセザルヲ得ズト明言ス  
 ルモ誰レ一人ノ之ニ反對スルモノアラン然ラハ正理公道  
 ハ恰モ有無ノ中ニアルガ如シト雖モ前ニ説クガ如キノ道  
 ニ據リテ之ヲ認ムルヲ得ベク縱令ヒ其ノ明文定形ナキモ  
 滿天下ニ公立シ沛然乾坤ノ間ニ充塞セリト云フテ可ナラ  
 ン見ラレヨ台湾ノ土民亞弗利加ノ酋族ト雖ヒ人ヲ殺スノ  
 不可ナルハ彼自ラ之レヲ知レリ  
 事少シク枚葉ニ渉ルガ如シト雖ヒ茲ニ本論ヲ援クルガ爲

メ地球上開化ノ程度ヲ説カン其開化ノ度ニ差違アルハ恰  
 モ四十年前後ノ學士ト三才ノ少兒ニ於ケルガ如キノ等級  
 アリテ存セリ我國ノ如キモ之ヲ廿年前ニ比スレハ莫大ノ  
 進歩ナラン併シ前ニ述ブルガ如キ等級ニ應シテ比較ヲ取  
 レハ猶十二三ノ小兒ガ漸ク詩語碎金ニ依頼シテ七言絶句  
 ナ並ベルノ有様ナラン故ニ實語教ヲ誦スルノ兒童ヨリハ  
 進ミテ居ルモ四十年前後ノ學士ニ比セハ最モ大ヒナル差  
 等アルベシ朝鮮ノ如キモ立國以來殆ド二三千年ニ及ヒ其  
 始メハ周室ヨリ箕子ヲ封シタリト云ヒ國學者ハ日本ノ祖  
 神之レヲ作レリトモ云ヒ荒唐ニシテ判然セザルモ何ニセ  
 ヨ所謂ル故國ナリ而シテ其文化ノ度如何ント察スルニ百  
 有餘年ノ前迄ハ遙ニ我國ノ右ニ出デタリ其証タル朝鮮ヨ



リ使節ノ來朝スルヤ當時ノ政府ハ頻リニ注意用心シ唯一  
 人ノ使節ニ對スルニ幾人ノ名儒ヲ以テシ彼ノ源白石ガ如  
 キ應接其當ヲ得タリト云フヲ以テ名譽ヲ其一世ニ得タル  
 程ナレハ其文化ノ如キ一步ヲ讓リ居タリシヲ想像シ得ベ  
 シ文化既ニ此ノ如クナレハ事理モ亦二三等ノ低クキニア  
 リシナラン而カモ現時ハ全ク之ニ反シテ朝鮮ノ開化ハ全  
 ク我國ノ下ニ落テ遙ニ四五等ヲ讓リテ恰モ十二三年ノ小  
 兒ガ大學ヲ素讀シ得ルノ穉童ニ對スルガ如クニ成リ行キ  
 タリ

(未完)

東京本所區横網町二丁目二番地

静岡縣士族

編輯主任 吉田次郎

同日本橋區元柳町十四番地寄留

持主 青森縣士族

兼印刷 根津親徳

東京々橋區新肴町十壹番地

假本局 求友社



弊社雜誌ノ儀ハ代價並ニ遞送税トモ前金ニ御遣シ無之候テハ遞送致サハル社則ニ有之候間何部分ニテモ御見込次第前金ヲ以テ御注文奉冀候也  
 壹册定價五錢 五册前金二十二錢五厘 十册前金四十三錢 二十册前金八十錢  
 但シ府外ノ分ハ別ニ郵税申受候

大賣捌所

東京銀座四丁目 朝野新聞社 同神田區雉子町三十二番地 巖々堂  
 同日本橋區藥研堀 報知社支店 同虎ノ門外琴平町 靜海堂  
 同日本橋區元大坂町 法徳兵衛 同芝區三田同朋町 靜海堂  
 同淺草區元鳥越町廿一番地 共致社 同芝源助町 春陽堂  
 橫濱太田町二丁目 伊勢屋梅藏 同芝源助町 春陽堂

取次所

東京銀座四丁目 博聞社 橫濱野毛町二丁目 鈴木木條吉  
 同麴町區三番町 杉田秀之助 石川縣金澤尾張町 牧野作平  
 同牛込神樂坂壹丁目十番地 積善堂 大坂堂島中壹丁目 靜雲舍  
 同表神保町九番地 大黒屋金之助 岐阜大田町 春陽舍  
 同赤坂裏壹丁目十六番地 赤川五平 信州松本南深志町 窪田重平  
 同本郷區本郷四丁目十番地 高橋屋小兵衛 大坂本町四丁目 岡島眞七  
 同淺草並木町二十六番地 湊屋左衛門 相州橫須賀旭町 大塚靜喜  
 同日本橋區室町三丁目 秋山茂左衛門 西京新極蛸藥師下ル 太田權七  
 同兩國吉川町二番地 大黒屋平吉 下総千葉 內國通運會社

下送 定時刊行

明治十三年第九月一日刊行

○佛國政体轉遷論第六回

河津祐之

○宗教ハ英雄ノ器械ナリ

飯塚八百太

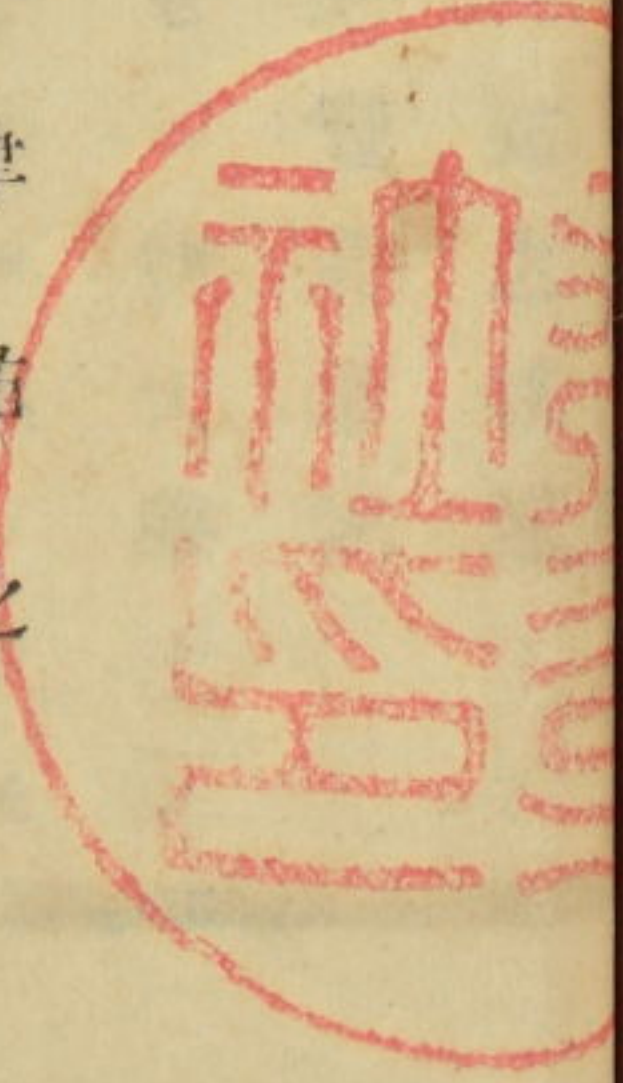
○朝鮮修信使來ル

末廣重恭

末廣重恭校閱  
 吉田次郎編輯

櫻鳴雜誌

第十九號





吉田大淵編著 木島重恭對圖 訓藤稿 第十式

○附註(對圖)對來 末 龜 重 恭

○宗 澤 八 英 業 八 器 尉 十 七 到 選 八 百 太

○附 註 對 圖 對 來 六 回 西 特 編 六

即 當 十 三 年 於 武 氏 一 日 所 計

櫻 鳴 雜 誌

第十九號 河津祐之講述

佛國政體轉遷論第六回 伊庭豐長筆記

余ハ數回ノ講述ヲ以テ佛國革命前ニ現出セル諸大學士ノ

論旨ヲ叙列シ頗ラ爾諸名ノ厭倦ヲモ顧ミザルニ至リシモ

ノハ其ノ諸大學士ノ著書ハ即チ百年以來佛國ヲ悲慘ニ沈

メシ所ノ禍害ノ原因ナリト確信スルヲ以テナリ抑モ佛王

ル<sub>ル</sub>ノ第十六世ノ位ニ即キシヨリ以來當時此國ノ人民ヲ

苦メタル社會上及ヒ政治上ノ弊害ハ甚タ夥多ニシテ且ツ

極メテ慘毒ナリシト雖モ是レ決シテ專ラ革命ノ原由ト稱

スルヲ得ス此等ハ寧ロ革命ニ其ノ機會ヲ與ヘタルモノト

云フ可シ之ヲ田野ニ譬レハルトソト等ノ論說ハ播磨セル

所ノ種ヲニシテ夫ノ弊害ハ之ヲ發生セシメタル良田ノ如



キナリ  
 凡ソ社會ニハ公ノ精神トテ其ノ國ノ法律ヨリモ更ニ一層  
 猛烈ナル勢力ヲ有スルモノアリ故ニ其政府ニ於テハ此ノ  
 精神ニ反對シタル法律ヲ施行スルヲ得ズ若シ強テ之ヲ施  
 行セシムレハ人民ノ憤怒ニ觸レ遂ニ其ノ政府ヲ轉覆スル  
 ニ至ル可シエメルソノハ之ヲ名ケテ社會ノ風氣ト云フ而  
 シテ此ノ風氣ノ正邪ハ極メテ重大ナルモノニシテ風氣正  
 ケレハ法律惡シキモ遂ニ改良スルヲ得可ク風氣邪ナレハ  
 何程善良ノ法律タリトモ之ヲ實行フルヲ得可カラズ其ノ  
 國ノ景狀及ヒ法律ハ一ニ此ノ風氣ニ從フモノナリ故ニ風  
 氣即チ公ノ精神ハ決シテ之ヲ輕々ニ看過ス可カラザルナ  
 リ左レハ余ガ前回ニ於テ論述セル如ク革命前ノ大學士等

ハ皆ナ破碎主義ノ理學者ニシテ其ノ著書ノ傾向ハ總テ物  
 ナ設立シ若クハ改正スルニ非ズシテ特ニ之ヲ破碎スルニ  
 在リ然ルニ其ノ著書ノ論說甚タ巧妙ナルカ爲メニ遂ニ此  
 ノ破碎主義ハ極メテ人望ヲ得テ不幸ニモ佛國人民ノ性質  
 ニ浸染シ全ク其ノ風氣ト爲ルニ至レリ故ニ佛國人民ガ百  
 年以來ノ風氣ハ則チ革命精神ト名ケザルヲ得サルモノト  
 ス吁嗟斯ノ如キ全國人民ノ精神ハ果シテ如何ナル結果ヲ  
 國家ニ生出ス可キカ余ハ今諸君ニ此ノ結果ヲ知ラシムル  
 ガ爲メ別ニ之カ解説ヲ爲スヲ要セズシテギゾノ文明史  
 中ニ於テノ政治風氣論ヲ引用シ來リテ之ヲ示サントス曰  
 ク既往ヲ忘レ既往ヲ卑シムハ國ノ大害ナリ此ノ如キ精神  
 ハ革命ノ時ニ際シテハ當時ノ惡制度ニ抵抗シテ奮起スル



ナ得可シト雖<sub>レ</sub>革命終リタル後チモ尙ホ破碎主義ノ風氣  
 ハ依然トシテ蟬脫スル能ハズ毫モ其ノ國ノ既往ヲ顧ミズ  
 古キ文明ノ元素ヲモ併セテ之ヲ壞滅シ去ルヲ以テ復タ新  
 タニ社會ヲ構造スルヲ得ス唯ダ革命ノ狀況ヲ永續セシム  
 可キノミ其ノ斯ノ如ク當時其ノ國ヲ占有スル者ハ其ノ國  
 ノ全ク自己ノミニ屬スルモノト信シ既往ノ事ハ總テ其ノ  
 善惡ヲ問ハズ既ニ死シ去リタルガ如キモノトシ古今聯續  
 ノ脈絡ヲ絶ツ者ハ是レ人間ノ重要ナル性質ヲ解セザルノ  
 ミナラズ又其ノ名譽氣運ヲ知ラザルモノト云フ可キナリ  
 此ノ如キ誤謬ニ陷イル人民ハ永ク混亂墮落ノ世界ニ在ッ  
 テ決シテ其ノ疾苦ヲ免ル、能ハザル可シ云々トキヅ一ノ  
 說ハ此ノ如シ而シテ又此ノ佛國學士等ノ論說ヨリ生セシ

其ノ他ノ結果ハ則チ佛國人民ガ宗旨上ノ性質ヲ變シタル  
 モノ即チ是ナリ既ニ前回ニ詳説セルガ如ク革命時代ノ理  
 學士ハ口ヲ極メテ宗教ヲ罵詈シ上帝ト云フ名スラ之ヲ言  
 フ者アレハ痛ク之ヲ輕侮蔑如セリ左レハ百智彙（フシロ）記（シト）書（ノ）ノ著  
 者ノ如キハ神ヲ尊崇スルノ事ハ業ニ已ニ迹ヲ社會ニ絶チ  
 タレハ佛國人民ニ必用ナラヌト云ヒ其書中ニ上帝ノ文字  
 ナ掲ゲザリキ而シテ此ノ宗旨ヲ信仰セザルノ風ハ依然ト  
 シテ今ニ佛國社會ニ存在セリ故ニ佛國人民ノ風氣ハ濫リ  
 ニ革命ヲ好ミ偏ニ宗旨ヲ厭惡ルス者ト云フモ決シテ誣言  
 ニ非ザルナリ  
 今ヤ數回ノ講述ヲ總括シテ之カ結局ヲ爲サン余ガ革命ノ  
 理學者ト名ケタル學士ノ業タル即チ破碎ノ業ニシテ一時



ノ禍客ヲ蕩掃スルニ於テハ則チ其ノ功頗フル偉ナリ然レ  
 臣破碎ノ事タル決シテ生長ノ手段ニ非スシテ唯社會ノ妨  
 害ヲ除クニ過ギザルノミ夫レ文明ノ域ニ進ミ道德ノ境ニ  
 達スル所以ノモノハ唯ダ社會ノ毒害ノミチ看破スルガ爲  
 メニ非スシテ苟モ善良ナリト認ムルモノアリ然ルニ一國  
 ナ放棄セズ務メテ以テ生長セシムルニアリ然ルニ一國  
 民ノ革命精神タル即チ是レ唯ダ毒害ノミチ看破スルノ精  
 神ナリ而シテ其ノ之ヲ全癒セシメントスルニハ政治宗旨  
 ハ論ナク其他何ニ限ラズ總テ之ヲ破壊碎粉セシムルニ非  
 ザレハ能ハズ是レ僅ニ其ノ一害ヲ除カンガ爲メニ萬利ヲ  
 併セテ之ヲ滅却シ去ルモノニシテ譬ヘハ一ノ惡蟲ヲ馳除  
 センガ爲メニ其ノ家ヲ焚燒スルト何ソ異ナラン佛國ノ如

キハ其ノ革命ニ於テ夥多ノ毒害ヲ破碎シタルヤ疑ナシト  
 雖臣亦不幸ニシテ政治黨派ノ長タル者其ノ事業ノ已ニ終  
 レル後ニ至ルマデ破碎ノ事ヲ止メザルノ慣習固着シテ離  
 レザルカ故ニ當時ノ人民ハ甚ダ此ノ精神ノ爲メニ不幸ニ  
 陥リタリキ而シテ現今ニ至テモ尙ホ此ノ疾苦ヲ免ル、能  
 ハザルナリ急進ノ害タル豈ニ恐レトル可ケンヤ  
 諸君ニ余カ革命ノ理學者ト名タル所ノ講述ハ今回ニ於テ  
 其ノ論旨及ヒ結果ヲ説キ了レリ故ニ次回ヨリシテ此ノ論  
 說ノ實地ニ佛國人民ノ政畧ニ現出シタル景狀ヲ掲ケテ以  
 テ之ヲ諸君ニ示サントス

宗教ハ英雄ノ器械ナリ

伊豫 飯塚八百太

目前ノ小利ヲ見テ後來ノ大害ヲ忘レ一日ノ安ヲ計ツテ百



年ノ大計ヲ誤ル者ハ是レ齷齪丈夫ノ常態ニシテ人間社會ノ通患ナリ苟モ書ヲ讀ミ理ヲ講シ社會ノ本鐸ヲ以テ自ラ任スル者ニシテ此ノ如キ狹隘ノ思想ヲ懷ムアラハ其ノ下風ニ立ツテ其ノ感化ヲ受ル者ニ如何ナル影響ヲ及ホス可キヤ況ンヤ事理ヲ知ラズ大勢ヲ辨セス人ノ行爲ニ効フテ其意想ヲ左右スル人民ニ於テチヤ之ガ先導トナリ之ガ師表トナル者ノ一言一行ハ其ノ影響ノ速ニシテ感化ノ敏ナル言フチ待タザルナリ

何者ノ腐儒カ今日ノ邪蘇宗教ヲ以テ社會ノ秩序ヲ整頓シ衆心ヲ固結スルノ効アルト爲スヤ何者ノ迂濶男兒カ今日ノ耶蘇教ヲ以テ民徳ヲ涵養シ民智ヲ開達スルノ媒灼ト爲サントスルヤ饒令ヒ其ノ言ノ如ク人民ノ智徳ヲ上進セシムルノ効アルトスルモ是レ小利ナリ其ノ大害アルヲ如何セシ我輩ハ今日ノ耶蘇宗教ヲ目シテ社會ノ秩序ヲ破壞シ衆心ヲ解弛渙散スルノ効アル者ト斷言セントスルナリ蓋シ宗教ナル者ハ英雄豪傑ノ士カ賴テ以テ其ノ權謀ヲ助ケ其私心ヲ肆ニスルノ一器械ナリ一國人民ガ恃テ以テ他ノ國民ヲ侵蝕シ掠奪スルノ一兵器ナリ

見ヨヤ我カ國徳川氏ノ霸府ハ其ノ宗教ヲ如何ニ用井シカ或ハ稱ス家康ハ佛道ヲ崇奉セリ釋教ノ信者ナリト殊ニ知テ大其ノ之ヲ崇奉セシ所以ノ者ハ其ノ之ヲ用フル所以ナルヲ然ラズンハ夫ノ秀頼ヲ誘惑シテ其ノ不善ヲ養成シ其ノ名臣ヲ離間セシカ如キ果シテ慈悲ノ道ニ適ヘル者カ夫ノ豐臣家ノ忠臣ナル加藤清正ヲ忌ンテ其ノ輔翼ヲ絶テ其

九



ノ覆滅ノ地ヲ爲スカ如キ果シテ因果報應ノ理ヲ悟リシ者  
 カ三尺ノ童子モ必ス能ク之ヲ辨セン然ラハ則チ其ノ之ヲ  
 用非シ所以ノ者ハ之ヲ以テ人心ヲ籠絡シ衆庶ヲ愚ニスル  
 一手段ト爲セシナリ其ノ軍ヲ率キテ戰場ニ臨ムヤ極樂  
 地獄ヲ説ケハ兵氣振作シ生者必滅チ聞ケハ士卒死チ甘ン  
 ス故ナクシテ人ヲ殺シ國ヲ奪ヘハ則チ過去未來ヲ唱ヘテ  
 以テ物議ヲ避ク蓋シ家康ハ能ク宗教ヲ用キシ者ト云フベ  
 キナリ徳川氏二百余年ノ霸業ハ宗教ノ力與テ功アリト云  
 フベシ而シテ夫ノ外國ノ教法ハ其ノ正邪ヲ問ハス一切之  
 チ絶テリ是レ其ノ内部ノ秩序ヲ破リ人心ヲ解弛シ其ノ崇  
 奉スル所ノ佛教ト反對ノ動作ヲ爲スチ知レハナリ宗教ノ  
 勢力ヲ有スルノ微弱ナル我國ノ佛教スラ猶ホ此ノ如シ況

ンヤ泰西諸國ニ於テオヤ況ンヤ耶蘇教ニ於テオヤ  
 諸君ヨ人ノ國ヲ制伏シ侵凌スル者ハ獨リ于戈兵革ニ非ス  
 シテ他ニ甚タ恐ルヘキノ武器アルコトヲ記憶セヨ夫ノ羅馬  
 ノ諸帝佛蘭西ノ「チャールマン」帝ノ如キ其ノ人ノ國ヲ制服  
 シ己レカ幕下ニ歸セシメントスルヤ必ス先ツ法師ヲ遣シ  
 其ノ人心ノ内部ヲ制服シテ而後チ于戈是レ從フ其ノ服セ  
 ザル者ハ之ヲ屠リ之ヲ辱メ曰ク天罰ナリ曰ク神怒ナリト  
 既ニ其ノ版圖ニ歸スルヤ又々宗教ノ力ニ頼テ之ヲ懷柔シ  
 之ヲ畏懼シテ以テ其ノ政畧ヲ資ス夫ノ十字軍ノ如キモ名  
 ハ西教徒救濟ノ義擧ナレトモ其ノ實ハ羅馬法王ガ頼テ以テ  
 己レカ版圖ヲ拓クノ一手段ニ供セシニ過キザルナリ其他  
 之ヲ近古ノ歴史ニ徵スルニ西班牙ノ瓜哇諸島ヲ押領シ英



ノ印度地方ヲ蠶食セシカ如キ多クハ宗教ノ力ヲニ是レ資  
 ル夫ノ葡萄牙ノ加特力法師ガ嘗テ我國ニ來リシモ其意亦  
 タ此ノ秘術ヲ試ミント欲セシニアリ徳川政府ノ之ヲ忌ン  
 テ容レザリシハ能ク其機ヲ見シ者ト云フベシ  
 我輩國史ヲ讀テ聖德太子カ虐臣蘇我馬子ノ 天皇ヲ弑シ  
 奉ルヲ見テ之ヲ因果應報ノ理ニ歸シ恬トシテ怪マザルノ  
 事ニ至ルニ及ンテ未ダ嘗テ宗教ノ弊害ヲ嘆セスンハ非ザ  
 ルナリ其ノ勢力ノ及フ處骨肉ノ親ヲ忘レ善惡ハ別ヲ辨セ  
 サラシムルニ至ル社會ノ秩序ヲ亂リ人心ノ團結ヲ解クハ  
 害物ニ非スシテ何ソヤ唯々此ノ一大害アリタトヒ其他千  
 百ノ小利アルモ決シテ相償フニ足ラザルナリ諸君ハ見ス  
 ヤ新約全書中耶蘇ノ言フ所ノ者ヲ見スヤ曰ク凡ソ汝ノ父

母妻子兄弟姉妹ヲ愛スル者ハ君ニ於テ無用ノ人ナリト其  
 意或ハ人世ノ情欲ヲ棄テ、專ラ神ニ事フルニアルベシト  
 雖ヒ其ノ言ノ弊タル必ス言フ可ラサル者アラン然リト雖  
 此宗教ノ善惡得失ヲ論スルハ本論ノ目的ニ非ルナリ  
 諸君ハ夫ノ魯西亞政府ノ所爲ヲ見ズヤ其ノ自國ノ教會ヲ  
 保護スルノ厚キ何ソ彼レカ如キヤ我カ帝國ニ來リテ其ノ  
 傳教ヲ職トスル者ハ其ノ費用ヲ政府ニ仰ク者ナリ其ノ指  
 揮ニ從フ者ナリ諸君ハ魯ノ士ト戰瑞ヲ開クノ所爲ヲ見ス  
 ヤ其ノ口實トスル所ノ者ハ自國ノ教徒ヲ保護スルニ在リ  
 其ノ目的トスル所ノ者ハ自國ノ版圖ヲ拓クニ在リ是レ皆  
 ナ其ノ乃祖ノ訓誨ヲ遵守スルナリ宗教ヲ以テ侵蝕器械掠  
 奪ノ兵刃ト爲スナリ然ト雖ヒ是レ獨リ魯國ノミナラサル



ナリ凡ソ耶蘇教ヲ信スル歐洲人ノ所行ヲ見ヨ口ニハ聖經  
 ナ唱ヘ手ニハ十字架ヲ執ルモ其ノ實際ノ品行ハ險惡醜陋  
 甚タ惡ムベキ者アリ而シテ其ノ言フ所ノ者ハ曰ク信義ナリ  
 曰ク友愛ナリ若シ果シテ信義友愛ナラハ條約改正何ヲ以  
 テ肯セザルヤ治外法權海關稅權何ヲ以テ返サザルヤ  
 其ノ言行ノ反スルヲ以テ宗教ノ一器械タルヲ知ル可シ  
 我輩ハ已ニ之ヲ古來ノ歴史ニ照シ之ヲ現今ノ事實ニ徴シ  
 斷シテ宗教ナル者ハ英雄ノ器械ニシテ他國ヲ覆滅スルノ  
 兵器タルヲ知レリ然リ而シテ猶ホ公衆ノ智德ヲ開達ス  
 ルノ說ヲ以テ之ヲ維持セントスルハ猶ホ毒藥ノ時トシテ  
 病ヲ治スルノ効アルヲ見テ恒ニ之ヲ服セントスルガ如シ  
 況ンヤ必スシモ其ノ効無キ者ヲヤ是レ目前ノ小利ヲ見テ

後來ノ大害ヲ忘ル、者ナリ是レ氣勢ノ治機ヲ見テ時ニ應  
 スルノ務ヲ知ラサル者ナリ是レ理論ニ偏シテ實際ヲ忘ル  
 、者ナリ國ヲ愛スルノ心無キ者ナリ宗教アルヲ知テ邦國  
 アルヲ知ラサル者ナリ社會ノ木鐸ヲ以テ自ラ任スル者ノ  
 決シテ言フベク爲スヘキノ事ニ非ルナリ嗚呼我輩ハ宗教  
 ノ弊害ヲ疾ム者ナリ耶蘇教ヲ海内ニ絶ツヲ望ム者ナリ  
 我カ日本帝國ニ聖德太子其人ノ如キ人物無キヲ欲スル者  
 ナリ社會ノ實益ヲ謀ル者ナリ理論ニ偏スルヲ好マサル者  
 ナリ邦國アルヲ知テ宗教アルヲ知ラサル者ナリ嗚呼耶蘇  
 教ノ毒ヲ天下ニ流スヤ久矣然ラハ則チ之ヲ救フノ術如何  
 ン亦唯々自國固有ノ宗教ヲ皇張シ以テ外教ノ侵冠ヲ防ソ  
 ニ在ルノミ是レ固ヨリ喜フベキノ事ニ非スト雖ヒ毒ヲ以



テ毒ヲ撃ツ實ニ事ノ已ムヲ得サルニ出ル者ナリ世ノ愛國者以テ如何ト爲スヤ

○朝鮮修信使來ル

末廣重恭

球琉ハ彈丸黒子ノ一小島ナリ之ヲ取ルモ我が邦ニ利無ク之ヲ棄ルモ我が邦ニ損ナシ然ルニ政府ハ其ノ國王ヲ優待シテ其ノ臣民ヲ撫育シ之ニ金圓ヲ賜ヒ之ニ舟舶ヲ與ヘ之ガ爲メニ大兵ヲ遠洋瘴癘ノ地ニ出タシ遂ニ全島ヲ舉ケテ我が封土ト爲シ我ト西隣ナル支那ト葛藤ヲ開クヲ辭セザルニ至ル我が政府ハ豈ニ南洋ノ群島ヲ占有スル虛名ノ爲メニ我が國用ヲ損シ我が國力ヲ傷スルヲ顧ミサルナランヤ謂フ速カニ其ノ所屬ノ名義ヲ明カニセズシテ之ヲ度外ニ放棄シ支那ヲシテ之ヲ領奪セシムレハ我が邦後來ノ利

益ニ非ザルノミナラズ萬一英佛魯西亞等ノ之ニ據テ海軍ヲ屯集スルノ要港ト爲スガ如キアラハ爲メニ東洋一般ノ平和ヲ妨害スルニ至ル可シト故ニ我が政府ガ琉球ヲ處分スル方畧ノ巧拙得失ハ姑ク置イテ論セズ其ノ目途トスル所ハ我が邦ノ利益ヲ保護シ東洋ノ平和ヲ維持セントスルニ在ルハ敢テ疑ヲ容レザル所ナリ之ト同ク朝鮮モ亦我が北鄰ノ小國ナリ其ノ國民ハ蒙昧頑固ニシテ工業產物モ極メテ僅少ナレハ之ト交際ヲ結ヒ貿易ヲ開クモ顯著ナル利益ヲ生出スルニ足ラザラントスルナリ然ルニ我が政府ハ維新ノ始メヨリシテ屢ハ使節ヲ派遣シ其ノ國人ノ疑懼ヲ速キ輒ク要領ヲ得サルニ係ハラズ銳意シテ其ノ通信貿易ヲ誘導シ夫ノ江華港ノ砲撃アリシニ乘シ大使ニ命シ數隻



ノ軍艦ヲ率イテ朝鮮政府ヲ強逼シ遂ニ條約書ニ調印セシメ茲ヨリ屢ハ公使ヲ派遣シテ開港ノコトヲ談判セシム夫レ此ノ如シ我が政府ハ朝鮮ヲ以テ我カ通商貿易ノ要地ト爲シ國民ノ利益ノ爲メニ強テ交際ヲ鷄林ニ求ムルニ在ルカ是レ決シテ然ラザルナリ蓋シ政府ハ謂ラク朝鮮ハ實ニ我カ北隣ニシテ其ノ盛衰存亡ハ實ニ亞細亞ノ大勢ニ關係セリ之ヲシテ速カニ世界ノ事情ニ通達セシメズ因循シテ強魯ノ爲ニ蠶食セラル、事アレハ我邦支那ヲ始メ亞細亞諸國ハ一日モ自ラ安居スル能ハザル可シト故ニ政府ガ朝鮮ヲ處分スル方畧ノ巧拙得失ハ姑ク置イテ論セズ其ノ目途トスル所ハ我が邦ノ利益ヲ保護シ東洋ノ平和ヲ維持セシトスルニ在ルハ敢テ疑ナ容レザル所ナリ

夫レ維新以來政府ガ琉球ニ對シ朝鮮ニ對シテ施行スル政畧ノ目的ニハ即チ此ノ如キモノ有リ殊ニ朝鮮政府ニ向フテ其ノ通商貿易ヲ誘導スルノ爲メニハ實ニ百般ノ計較ヲ費ヤシ或ハ兵力ヲ以テ之ヲ畏トシ或ハ誠實ヲ盡クシテ之ヲ説キ務メテ彼ノ國民ヲシテ鎖港ノ迷夢ヲ一覺セシメントセリ豈ニ朝鮮ノ國勢ハ實ニ直接ノ關係ヲ我が邦ニ及ホス可キト爲スガ故ニ非ズヤ然レバ今回通信使ノ來朝アリシガ如キハ誠ニ政府ガ十年來ノ目的ヲ達シ朝鮮政府ト眞密ノ交際ヲ開ク可キ一大機會ニ非ズト謂フ可カラザルナリ然ルニ政府ガ其ノ信使ヲ待遇スルニ於テ却テ世人ガ意想ノ外ニ出ルガ如キノ景狀アルハ何ゾヤ夫ノ前年ニ於テ軍艦ヲ以テ大使ヲ護送シ江華ニ上陸シテ彼ノ政府ニ談判



セシハ決シテ一朝ノ出來心ニ非ズシテ大ニ後來ニ期圖セ  
 シ所アリシヤ得テ知ル可キナリ然レハ今日此ノ失フ可カ  
 ラザルノ時期ニ際會シナカラ之ヲ度外ニ放棄スルハ決シ  
 テ政畧ノ其ノ宜キヲ得タル者ニ非ザルナリ  
 回顧スルニ今ヲ距ル二十年前我が邦ノ始メテ歐米諸國ト  
 交際ヲ開クヤ毫モ海外ノ事情ニ通達セザルニ因リ一國ヲ  
 舉ゲテ情忌ノ心ヲ懷キ一洋人ノ内地ヲ通行セントスル者  
 アレハ曰ク是レ我が險要ヲ窺フナリ一軍艦ノ海岸ヲ測量  
 スルアレハ曰ク是レ我ヲ襲撃セント欲スルナリト爲メニ  
 外交上ニモ内政上ニモ言フ可カラザル困難ヲ生出セシガ  
 其ノ翻然トシテ一國ノ目的ヲ變換シ以テ今日ノ時勢ニ訓  
 致セシ者ハ其ノ最始ニ於テ公使又ハ其ノ附屬官吏ガ海外

ニ航行シテ實際ノ形勢ヲ見聞シテ其ノ報告ヲ内地ノ人民  
 ニ傳ヘ西洋ハ夷狄ニ非ズ禽獸地界ニ非ズ其ノ交際ヲ求ム  
 ルノ主意ハ貿易ニ在ツテ槍奪ニアラズ宇内ノ形勢ニ通セ  
 ズ閉鎖メ自ラ守ルノ却テ危險ナルヲ知フシメタルニ外  
 ナラサルナリ今日朝鮮ノ事情ハ我が邦二十年前ノ形勢ト  
 一般ナリ殊ニ彼レ半島ノ一小國ヲ以テ南ニ日本アリ西ニ  
 支那アツテ北ハ滿州ニ接シ古來外國ノ爲メニ其ノ疆土ヲ  
 蹂躪セラル、者其ノ幾回ナルヲ知ラズ故ニ一國ヲ舉ゲテ  
 外人ヲ視ルト仇敵ニ異ナラズ之ニ加フルニ彼ノ元祿ノ役  
 ニ於テ我が邦ノ爲メニ悲慘ノ毒害ヲ蒙リタルニ因リ今日  
 ニ至ルマテ往事ヲ談メ爲メニ戰栗セザル者無シト聞ケリ  
 夫レ此ノ如シ故ニ維新出來政府ヨリシテ屢ハ使節ヲ派遣



シテ交際ヲ求ムルモ彼レ兵馬ノ其後ニ從ハシテ恐レ依違  
 シテ決セズ江華ノ一戰ニ次クニ大使ノ派遣アルヲ以テス  
 彼レ我が火器ノ精ナルト軍艦ノ大ナルニ驚キ一時ノ平和  
 ナルヲ求ムルガ爲メニ已チ得ズシテ條約書ニ調印セシト  
 雖モ官吏ナリ人民ナリ一日モ能ク猜忌ノ念ヲ晴ラスチ得  
 シヤ南望シテ常ニ烽火ノ警アラシキヲ憂慮スルハ敢テ疑  
 ナ容レザル所ナリ故ニ朝鮮ニ向ッテ親密ノ交際ヲ爲サン  
 ト欲セハ先ツ彼レガ猜忌ノ念ヲ解クニ在リ彼ガ猜忌ノ念  
 ナ解カントスルニハ止マ其ノ國人ヲ誘導シテ我が邦ニ來  
 遊シ我が形勢ヲ目撃シ我が内情ヲ視察シ自ラ省悟スル所  
 アラシムルニ在ルノミ今ヤ幸ニシテ修信使一行ノ來朝ア  
 ツテ彼レガ奉スル所ノ使命ノ外ニ於テ隱カニ我が帝國ニ

依頼セント欲スル所ノ者アルガ如シ是レ獨リ朝鮮一國ノ  
 爲ノメノミナラズ我が日本帝國ノ爲メ將タ亞細亞全洲ノ  
 爲メニ決シテ之ヲ輕々看過ス可カラサルナリ (以下次號)

東京本所區横網町二丁目二番地

静岡縣士族

編輯主任 吉田次郎

同日本橋區元柳町十四番地寄留

青森縣士族

持主 兼印刷 根津親徳

東京々橋區新看町十壹番地

假本局 求友社



弊社雜誌ノ儀ハ代價並ニ遞送税トモ前金ニ御遣シ無之候テハ遞送致サハル社則ニ有之候間何部分ニテモ御見込次第前金ヲ以テ御注文奉冀候也  
 壹册定價五錢 五册前金二十二錢五厘 十册前金四十三錢 二十册前金八十錢  
 但シ府外ノ分ハ別ニ郵税申受候

大賣捌所

東京銀座四丁目 朝野新聞社 同神田區雉子町三十二番地 巖々堂  
 同日本橋區藥研堀 報知社支店 同虎ノ門外琴平町 靜霞堂  
 同日本橋區元大坂町 法本徳兵衛 同芝區三田同朋町 靜海堂  
 同淺草區元鳥越町廿一番地 共致社 同芝源助町 春陽堂  
 横濱太田町二丁目 伊勢屋梅藏

取次所

東京銀座四丁目 博聞社 横濱野毛町二丁目 鈴木作吉  
 同麴町區三番町 杉田秀之助 石川縣金澤尾張町 牧野雲平  
 同牛込神樂坂壹丁目十番地 積善堂 大坂堂島中壹丁目 春陽舍  
 同表神保町九番地 大黒屋金之助 岐阜大田町 窪田重平  
 同赤坂裏壹丁目十六番地 赤川五平 信州松本南深志町 岡島眞七  
 同本郷區本郷四丁目十番地 高橋屋 大坂本町四丁目 大塚靜喜  
 同淺草並木町二十六番地 湊屋小兵衛 相州横須賀旭町 岡島眞七  
 同日本橋區室町三丁目 秋山茂左衛門 西京新極蛸藥師下ル 大塚靜喜  
 同兩國吉川町二番地 大黒屋平吉 下總千葉 内國通運會社

下茂  
 定時刊行

明治十三年第九月十七日刊行

○黨派ノ利害

田中岩三郎

○國政ハ果シテ人民ノ反射ナル乎

杉山藤次郎

○華族院ヲ立ルノ論

金子堅太郎

末廣重恭校閱  
 吉田次郎編輯

櫻鳴雜誌

第二拾號





黨派ノ利害

黨派果シテ國家ニ利有ル乎曰ク然リ黨派果シテ國家ニ害無キ乎曰ク然ラズ黨派ニ公黨私黨ノ別有リ公黨ハ國家ニ利シテ私黨ハ國家ニ害ス故ニ余輩ハ先ツ公黨私黨ノ區別ヲ辨シテ然ル後チ黨派ノ利害ヲ論斷セント欲スルナリ何チカ公黨ト云フ曰ク國家ノ公益ヲ目的トシテ同衆ヲ團結スル者は是レナリ何チカ私黨ト云フ曰ク一身ノ私利ヲ目的トシテ黨與ヲ集合スル者は是レナリ宋ノ歐陽修曰大凡君子與ニ君子以同道爲朋小人與ニ小人以同利爲朋然小人無朋惟君子則有之其故何哉小人所好者利祿也所貪者財貨也當其同利之時暫相黨引以爲朋者僞也及其見利而爭先或利盡而交疎則反相賊害雖其兄弟親戚不能相保君子則不然所守者道



義所行者忠信所惜者名節以之修身則同道而相益以之事國  
 則同心而共濟終始如一此君子之朋也トブルンチュリー曰ク  
 公黨ハ國家ノ爲メニ己ヲ使ヒ私黨ハ己ノ爲メニ國家ヲ使  
 フ公黨ハ國家ニ利有リ私黨ハ國家ニ害有リト善哉兩氏ノ  
 黨派ノ區別ヲ辨別スルヤ蓋シ歐陽修ハ君子小人ヲ分ツテ  
 眞偽ノ名ヲ下シブルンチュリー氏ハ己ヲ使ヒ國ヲ使フヲ別  
 ツテ公私ノ名ヲ下ス其ノ歸着スル所ハ同一ナリ東西地ヲ  
 異ニシ古今時ヲ同フセザルモ識者ノ見ル所ハ符節ヲ合ス  
 ニ異ナラズ故ニ余輩ハ故ヲニ多辨ヲ費ヤスヲ要セズ二氏  
 ノ説ク所ヲ以テ既ニ黨派ノ區別ヲ辨スルニ十分ナリト信  
 スルナリト云フ然レモ其ノ黨派中ニ又々小  
 黨派ニ公利ノ別有ル斯ノ如シ而シテ其ノ黨派中ニ又々小

種類有リ政治ニ關スル者ヲ政黨ト稱シ宗教ニ關スル者ヲ  
 教黨ト云ヒ商業ニ關スル者ヲ商黨ト名ケルガ如シ然レモ  
 其黨派ノ如何ナル種類タルヲ問ハズ其間ニ於テ自然ニ公  
 私ノ別有リ公黨ハ國家ニ利シ私黨ハ國家ヲ害スルノ理由  
 ハ皆ナ同一ニシテ公ナル者ハ國家ノ爲メニ己ヲ使ヒ私ナ  
 ル者ハ己ノ爲メニ國家ヲ使フ故ニ今ヤ其ノ利害ヲ論斷ス  
 ルニ當リ姑ク政黨ノ一派ニ就テ之ヲ證明スルモ敢テ不可  
 ナル無キナリ讀者試ニ英國政治上ノ組織ヲ看ヨ今日英國  
 ニ保守自由黨ノ兩黨アリギスレール氏ハ保守黨ノ巨魁ト  
 ナリグラットストーン氏ハ自由黨ノ首領トナリ兩黨常ニ相  
 軋轢シテ勝利ヲ政治上ニ争ヒ互ニ一起一伏有リト雖モ素  
 ト是レ巨魁首領等ガ一身ノ私利ヲ計ルガ爲メニ國家ヲ使



フノ私黨ニ非ズシテ單ニ國家ノ爲メニ公利ヲ計ルヲ以テ  
 目的トシ政治上ニ就キ互ニ意見ノ異ナルヨリ生ズル所ノ  
 競争ナルガ故ニ啗ニ妨害ヲ國家ニ與ヘザルノミナラズ保  
 守黨勝利ヲ得レハ保守黨ヲ以テ内閣ヲ組織シ自由黨勝利  
 ヲ得レハ保守黨ハ勇退シテ席ヲ自由黨ニ讓リ兩黨互ニ新  
 陳交代シテ各黨ノ思想ヲ政治上ニ實行スルノ自由ヲ伸暢  
 スルヲ得ルニ因リ英國ヲシテ政治上ノ美名ヲ宇内ニ赫灼  
 タラシムルニ非ズヤ公黨ノ國家ニ利スル此ノ如キ者アリ  
 然レハ私黨ノ國家ニ害有ル所以ハ何ゾ其黨派中巨魁首領  
 ト仰ガル、一二ノ人物ガ自己ノ地位ヲ高メ自己ノ慾望ヲ  
 満足センガ爲メ世人ヲ籠絡シテ以テ勢力ヲ張り反對黨派  
 ヲ壓倒セントスルヨリ陰謀術策至ラザル所無ク毫モ良民

ノ自由權利ヲ妨害スルヲ顧ミザル者是レナリ夫ノ佛國顛  
 覆ノ後ニ於テ各黨派ガ互ニ暴權ヲ張り社會ヲ擾亂シタル  
 形跡ヲ見レハ其ノ毒害ノ實ニ恐怖ス可キヲ知ルニ足ラン  
 而シテ近ク其ノ一例ヲ舉グレバ明治十年西南ニ破裂シタ  
 ル鹿兒島ノ私學校黨ノ如キモ亦然リ此ノ一黨ノ擾亂ニ因  
 リ余輩ガ同胞ノ頭上ニ被ラシタル大害ハ之ヲ其首領タル  
 西郷一人ノ政治上ニ懷キタル不平鬱憤ノ破烈ニ歸セザル  
 ヲ得ズ私黨ノ國家ニ害有ル豈ニ亦タ著明ナラズヤ  
 前段ノ議論ニ因リ黨派ノ公私ニ因ツテ其ノ利害ヲ異ニス  
 ルヲ見ルニ足レリ讀者試ニ一步ヲ進メ現今我が社會ノ實  
 況ヲ看ミ果シテ如何ナル顯象ノ眼前ニ現出スルモノ有ル  
 カ國勢ハ駸々トシテ文運ノ曙光ニ向ヒ政治上ニ宗教上ニ漸



ク將ニ真正ノ公黨ヲ樹立セントスルガ如キ萌芽有ルモ獨  
 リ商業ノ一事ニ至ツテハ全ク之ニ反對スルガ如キ傾向無  
 キヲ免レザルナリ余輩之ヲ聞ク頃日有名ナル紳士社會ノ  
 間ニ於テ一大軋轢ヲ生シ互ニ黨與ヲ立テ、軋轢ノ勢ヲ顯  
 ハシ甲黨ノ爲ス所ハ乙黨之ヲ妨害シ乙黨ノ商業ハ甲黨之  
 ナ挫折セントシ互ニ競争シテ商業上ノ利權ヲ壟斷セント  
 計リ詭術ヲ施シ陰謀ヲ行ヒ今日ノ同志ハ明日ニ相容レザ  
 ルノ讎敵トナリ昨日マテ相睥睨セシ競争者モ今日ハ親密  
 ナル同謀者ト爲ルガ如キ有様有ルニ至レリト蓋シ商業ハ  
 固ヨリ各自ノ利益ヲ得ルヲ以テ目途ト爲スニ因リ其ノ黨  
 派ノ成立モ他ノ諸黨ト同一視ス可カラズト雖モ今日商業  
 社會ノ軋轢ハ必ズシモ利益ノ競争ニ非ズシテ地位ヲ爭ヒ

名譽ヲ嫉ミ、一身ノ私怨私憤ニ因ツテ互ニ相賊害スルニ出  
 ヅ、嗚呼是レ商業上眞成ノ公黨ト謂フ可キカ余輩ハ其ノ之  
 ガ爲メニ商業ノ發達ヲ妨害シ殆ント名狀ス可カラザルノ  
 混雜ヲ生出スルニ至ランコトヲ恐ル、ナリ且ツ此ノ私黨ノ  
 軋轢ヲシテ獨リ商業上ニ止マラズシテ其ノ影響ヲ將サニ  
 成立セントスル政黨ノ上ニ及ホサシムルコトアラハ社會人  
 民ノ不幸ハ果シテ如何ンヤ夫レ政治ト商業トハ密接ノ關  
 係アツテ互ニ影響ヲ相及ホス者タリ今ヤ商業社會ニ於テ  
 諸紳士ノ舉動ハ此ノ如シ何ツ冥々ノ間ニ政黨ヲ攪動シテ  
 一大風波ヲ其ノ社會中ニ捲キ起サイルヲ知ランヤ弊害ノ  
 終極スル所ハ遂ニ私黨ノ爲メニ國家ヲ使ハル、コト無キヲ  
 保マズ豈ニ痛歎セザル可ケンヤ



蓋シ今日我が邦ノ商權ハ殆ント外人ノ手ニ占取セラレ復  
 タ之ヲ如何ントモスル無キナリ然レバ我が商業ニ從事ス  
 ル諸紳士ニシテ心ヲ一ニシ力ヲ合セ以テ之ニ從事スルモ  
 猶ホ其ノ及ハザルヲ恐ル一時ノ小憤ニ因リ相改メ相陷レ  
 爲メニ國家ノ公益ヲ顧ミザルニ至レバ余輩ノ竊カニ諸紳  
 士ノ爲メニ取ラザル所ナリ嗚呼公黨ハ國家ニ利シテ私黨  
 ハ國家ヲ害ス獨リ政治ノ事ニ止マラザルナリ苟モ紳士諸  
 君ニシテ利己主義ヲ主張セバ何ツ自ラ省ミ早ク真正ノ公  
 黨ヲ結合シテ國家ノ爲メニ公益ヲ計ラザルヤ古語ニ曰ク  
 公益ヲ計レバ私利其ノ中ニ在リト  
 國政ハ即チ人民ノ反射ナル乎 杉山藤次郎  
 國政ハ即チ人民ノ反射ナリトハ方今天下ノ輿論ナレヒ余

輩ハ之レニ同意スル能ハザルナリ何トナレバ人智ニ適合  
 スル政治即チ人民ノ反射ニ出ル政治モ全ク之レナキニ非  
 ズト雖モ概スルニ政治社會ノ進歩ニ後ル、止ダ十歩百歩  
 ノミニ非ズ之レヲ如何ンゾ能ク人智ヲ政鏡ニ寫ス者ト謂  
 フチ得ンヤ試ミニ今日宇内ノ有様ヲ視ヨ開明ノ進ミ文物  
 ノ盛ソナルニモ係ラズ能ク其ノ人智ニ適合スルノ政治ヲ  
 行フモノハ獨リ合衆國アルノミ英國ノ如キハ稱シテ完全  
 ノ政治ト爲スト雖モ人智進歩ノ迅速ナルニモ似ズ却テ政  
 體改良ノ遲緩ナルヲ見レバ亦政治ノ人智ト其ノ水準ヲ得  
 ルヲ信ゼザルナリ佛國ノ如キハ名ハ共和政治ナレモ其ノ  
 實ハ英ノ君民同治ヨリハ遙カニ壓制束縛ノ氣ヲ帶ビタレ  
 バ之レモ亦人智ニ適合スルノ政治トハ謂フ可ラズ英佛既



然リ況ンヤ其他不完全ノ政體政治ニ於テチヤ而シテ日  
 耳曼魯西亞ノ二政府ノ如キハ人民ノ希望ニ背馳シ壓制束  
 縛ヲ逞フスルニ因リ遂ニ社會黨虛無黨ノ蔓延シテ其政府  
 ナ顛覆セント謀ルニ至レリ以テ政治ノ人智ト相距ルノ太  
 タ遠キヲ見ルニ足ルナリ支那ノ人民ハ隨分馬鹿モ馬鹿ナ  
 レモ猶ホ壓制政治ヲ厭フ者アレハ未ダ之レヲ稱シテ今日  
 ノ政治ト同等ナリト謂フ可ラズ必ズヤ人智ノ幾分カ政治  
 ニ優ル所アラン世人ハ比斯馬爾克ゴルチヤコツフチ以テ  
 天下ノ智者ナリト云ヘモ余輩ハ之レヲ信セズ何トナレバ  
 此ノ二子ニシテ人智ノ度ヲ知ラバ何ゾ壓制束縛ヲ行ヒ以  
 テ人望ニ背馳スルノ理アランヤ社會ノ現像ニ暗キ者ハ智  
 ニ非ズシテ即チ痴ナルノミ

今ヤ我邦人民ノ國會ヲ熱望スルヤ大旱ノ雲霓ニ於ケルニ  
 異ナラズ寐テモ國會起テモ國會ト云フ有様ニテ心ニ思ヒ  
 口ニ言ヒ筆ニ記スルコトハ一トノ國會ナラザル無ク國會論  
 ノ外見ル可キ者ナク國會談ノ外聞ク可キ者ナキガ如ク新  
 聞モ國會雜誌モ國會演說モ國會講談モ國會ト東ニ西ニ南  
 ニ北ニ喋々噴々呶々喃々トシテ國會々々ノ聲ハ鼓膜ヲ打  
 チ破ラントスルノ勢ヒアリ嘻々亦盛シナリト謂フ可シ然  
 ルヲ政府ハ知ラヌ顔ノ半兵衛ニテ毫モ之レヲ顧慮セザル  
 ナ以テ之レヲ見レハ國政ノ決シテ人民ノ反射ナラザルヲ  
 解スルニ足レリ故ニ苟クモ今日ノ國政ヲ以テ直チニ人民  
 ノ反射ナリト謂ヒ之ニ就テ社會ハ有様ヲ推究セントシハ  
 吾輩人民ハ豈ニ迷惑千萬ノ至リニ非ズヤ蓋シ熊公八公ノ



社會ニアテサルヨリ以上ハ誰レカ敢テ之レヲ甘受セシヤ  
 故ニ吾輩ハ今日我カ邦ノ實跡ニ就テ國政ハ人民ノ反射ニ  
 非ザルヲ證明セシトスルナリ  
 猶ホ一步ヲ進メ政治ノ常ニ人智ニ後ル、所以ヲ推究スル  
 ニ政府ト人民トハ其地位ヲ異ニシ其ノ感覺ヲ同ウセズ政  
 府ノ利ハ人民ノ害ト爲リ人民ノ得ハ政府ノ失ト爲リ其利  
 害得失ノ常ニ相反對スルガ故ニ政体ノ異同ヲ問ハズ執政  
 者ノ智愚ヲ論ゼズ政府ニ立チ執政者ト爲レハ多少必ズ歴  
 制束縛ノ氣象ヲ帶ビザルヲ得ズ已ニ此ノ氣象アレハ人智  
 ト同等ノ政治ハ到底之ヲ施行スル能ハザルナリ朝ニ出レ  
 ハ官權ヲ唱ヘ野ニ在レハ民權ヲ唱フ是レ獨リ我邦人士ノ  
 然ルニ非ズ五洲亦皆然リ是レ即チ五洲ノ間ニ於テ能ク

人智ト同等ノ政治ヲ施ス者鮮ナキ所以ナリ  
 天下ハ活機ニシテ時勢日ニ變遷ス決シテ彼ノ埃及ノ尖塔  
 ヤ奈良ノ大佛ト同一般ニ不動體ノモノニ非ラズ而シテ人智  
 ハ日ニ月ニ進動シテ止マズ故ニ去年ノ愚人ハ今年ノ智者  
 トナリ昨日ノ不肖者モ今日ハ賢人トナル故ニ現今ノ政治  
 ガ自ラ人智ニ適合スルト思惟スル政府モ瞬速ノ時ニ之ト  
 一大距離ヲ生ズルハ是レ政治ノ常体ナリ假令政体ガ共和  
 ニシテ孔子ヲ大頭領ト爲シ顏回ヲ副頭領トシ七十子ヲ以  
 テ國會ヲ組織スルモ人智ニ適合スル政治ハ容易ニ施行ス  
 ル能ハザルナリ况シヤ頑冥ナル政治家ガ己レノ意見ヲ固  
 守シ社會ノ風潮ニ從フヲ轉移スルヲ知ラザルニ於テチヤ  
 國政ノ人民ノ反射ナラザルハ豪モ怪ムニ足ラザルナリ然



ラハ則チ國政ハ何者ゾヤ目ク國政ハ人氏ノ奴隸ナリト謂  
 フ可キナリ何トナレハ政治ハ人智ノ進歩ニ逼メラレ已ム  
 ナ得ズシテ漸次ニ歩チ動カス猶ホ主人ノ前ニ進行シテ奴  
 隸ノ其後ニ從フニ異ナラズ西人ノ言ニ曰ク官吏ハ人民ノ  
 奴隸ナリト官吏ニシテ已ニ奴隸ナレハ其ノ奴隸ノ掌中ニ  
 在ル政治モ亦奴隸タル可キハ固ヨリ當然ノコナリト是  
 レヲ顧ミズ政府ヨリ社會ノ事務ニ干涉シ曰ク以テ開明チ  
 進メ以テ人智チ開クト豈ニ亦一大笑ス可キナラズヤ  
 ○華族院チ立ルノ論  
 頃日國會論ハ世上ノ一大問題トナリシニ政治ヲ談スル  
 論士ハ槩チ議院ノ一局タルヘキチ主唱シ未ダ一人ノ上院  
 チ建テ、二局議院チ設置スルコトヲ論スル者ナシ是レ予カ

今茲ニ上院チ建ルノ意見チ陳述シテ以テ廣ク江湖ノ諸君  
 ニ質サント欲スル所以ナリ  
 抑モ一局ノ議院ニシテ足レリトスル論者ハ一般人民ノ景  
 況チ視ルコト甚疎ナリ何トナレハ今日ノ人民ハ堯舜ノ政治  
 ニ沐浴スル者ニアラズシテ正邪曲直ノ混淆錯雜スル地球  
 上ニ呼吸スル者ナレハ公明正大ニシテ毫末ノ偏私モナキ下  
 院チ設置スルコトハ輒ク望ム可カラズ之チ慮ラズノ惟ニ一  
 局ニシテ足レリトスルハ所謂ル席上ノ空論ニシテ實際ニ  
 行フベカラザルモノ也歐米各國ニ於テモ碩學有名ナル政  
 治家ガ單ニ正理ニ因テ議院ノ性質及ヒ其組織チ論スル時  
 ハ上院ノ如キハ實ニ無益ナルガ如キト雖モ方今歐米ノ形  
 況及ヒ其人文ノ進歩ニ於テスルモ未ダ直チニ上院チ廢シ



專ラ一局ノ民選議院ヲ以テ一國ノ安寧ヲ保存シ黎民ノ幸  
 福ヲ増加スルヲ得ベキト論定スルモノナシ且ツ歐米各國  
 ニ於テ一國トシテ現ニ一局議院ヲ以テ國政ヲ經緯スル者  
 アル無キナリ彼ノ歐洲ニ於テ共和政治ノ嚆矢タル瑞典ノ  
 如キモ新ニ政体ヲ組織スルニ當リ上院ノ廢スベカラザル  
 ナ主唱シ終ニ上院ヲ置キカ毎州ヨリ一二ノ上院議員ヲ選舉  
 セシメ其憲法ハ今ニ至ルマテ依然トシテ存遺スルニ非ス  
 ヤ又佛朗西阿蘭伊太利西班牙等ノ如キモ皆ナ上院ヲ置ク  
 リ而シテ其上院ノ議員ハ或ハ人民直接ノ撰舉ニ非スシテ  
 政府ヨリ之ヲ命シ或ハ各州廳ヨリ拔選シテ上院ヲ組織シ  
 國政ニ參與セシムルモノナリ  
 凡ソ人民ガ直接ニ選舉シタル下院ノ議員ハ常ニ民間ニ交

際シ民情ヲ目撃スルガ故ニ其言行兩ナカラ人民ノ一方ニ  
 ノミ傾向シ喜怒愛憎ハ多ク民間ノ通論ニ影響セラレ動モ  
 スレハ一朝ノ見聞ヲ以テ万世ノ政治ヲ斷シ或ハ認メテ國  
 民ノ權理ナリト思想スル時ハ一意ニ之ヲ奉持シテ他ニ着  
 目セズ廣ク宇内ノ形勢ヲ考ヘ細カニ社會ノ事情ヲ察スル  
 能ハズ爲メニ褊頗ノ意見ヲ主張シ銳意ニ之ヲ決行シ後日  
 ニ至リ其勢焰ノ減消スルニ及ヒ前說ノ不適當ナルヲ悔悟  
 スルコアルハ歐米各國ノ歴史ニ就テ歷々証明ス可シ且ツ  
 下院ノ議員ハ人民ノ撰舉ニ依ツテ議堂ニ登リ政治ヲ論議  
 スルコトヲ得ルモノナレハ或ハ自己ノ持論ヲ枉ケテ一時ノ  
 流行ヲ趁ヒ慢リニ偏私ノ管見ヲ持シテ人民ノ愛顧ヲ求メ  
 次回ノ改撰ニ於テ再ヒ撰拔セラレシコトヲ希望スルハ歐米



各國ニ於テ下院議員ノ通弊ナリ故ニ民間ニ於テ政府ガ徴収スル稅額ノ苛酷ヲ稱シテ罵々タル時ニ於テ下院ノ議員タル者ハ其勢ニ誘導サレ實際ノ如何ヲ究メズ之ニ雷同シ遂ニ議院ニ同ノ一方ニ傾向スルガ如キアラハ之ヲ如何セシ然レモ上院ヲ建テ之ニ充ルニ門地財産學識經驗アツテ恒ニ獨立ノ地位ニ居リ眼前ノ利害ニ眩惑セラレズ沈靜ナル論理ヲ以テ政治ヲ論究スル上院議員アツテ之ヲ再考復審シ其ノ偏私ノ議決ヲ修正セハ始メテ其ノ過不及ヲ中裁シ正大公明ノ處分ヲ見ルニ至ラン

蓋シ下院事務タルヤ實ニ千緒萬端ニシテ實ニ瞬間ノ猶豫ヲ得ザルモノ許多ナリトス例ヘハ今日ノ議題ハ英國ノ交際支那ノ通商ニシテ明日ハ會計警察海陸軍等ノ處分ナ

リ此等ノ問題ニ就キ細密ニ之ヲ論究セントスルモ議院ハ毎年一度ノ集會ニシテ其時間ニ制限アリ何ゾ能ク一々之ヲ精思熟考シテ毫モ粗漏ナキヲ保ツ可ケンヤ故ニ上院ヲ建テ、下院ヲ繁忙ヲ助ケ其議決スル所ヲ一層精密ニ復議スル時ニハ一國ノ政治ニ過失ナキヲ得ルノミナラズ彼ノ下院ノ議員ガ熱心シテ保護セント欲スル人民ノ幸福モ茲ニ至ツテ始テ十分ナル堅固ヲ得ベキナリ

右ニ陳述スル所ハ上院ノ廢スベカラザル論說中ニ於テ一ニノ理由ヲ擧ケ其ノ主意ノ槩略ヲ示スニ過ギズ其ノ細密ナル解説ノ如キハ此ニ臚列スルニ遑アラズ故ニ予ハ直ニ進シテ我が邦ニテ如何ナル上院ヲ建ルヲ以テ適當ト爲



我邦ノ上院ヲ組織スルニハ第一ニ華族第二ニ勅任官及ビ  
 十年以上奉職シタル知事令ノ辭職セシモノヲ以テスベシ  
 第一ニ華族ヲ以テ上院ノ議員ヲ組織セント欲スル所以ハ  
 何ゾヤ蓋シ一國ノ政治ヲ經緯スルニ當テ人民ノ心情ニ基  
 キテ之ヲ誘導スル時ハ或ハ理論ノ勢力ニ過クル功驗ヲ顯  
 スコアリ門閥ハ人民ノ欣慕スル所ナリ位階ハ公衆ノ愛敬  
 スル所ナリ而シテ人民ハ已ガ同等ノ人ニ制治セラレハ  
 リハ寧ロ門閥位階アル人ニ制治セラレシコトヲ甘受スルハ  
 社會一般ノ風習トモ云ベキナリ我邦ノ華族ハ昔日封建ノ  
 國主ト朝廷ノ公家トニ依テ成立スル者ナレハ全國ノ人民  
 ガ之ニ懷服スルハ彼ノ陋巷ノ論客市井ノ遊士ニ勝ルヤ疑  
 ナキナリ且ツ華族ハ祖先ノ遺産ヲ領襲シテ許多ノ財産ヲ

所有シ衣食ノ爲メニ學術ヲ研究スルヲ妨クルノ患ナシ然  
 レバ深奥ノ學術ヲ研究シテ議堂ニ立ツ時ハ其論ヤ必ズ卓  
 絶ニシテ大ニ公益ヲ表スルコトアラシク則今華族ノ衰弱不振  
 ハ蓋シ亦其ノ故アリ舊來封建ノ弊習ニ因リ深宮ニ長シ婦  
 女ノ手ニ育セラレ毫モ民間ノ患苦ヲ察セズ一國ノ政治ニ  
 當ラズ維新以來華族ニ列スルモノ一國ノ政治上ニ就テ一ノ  
 責任ナク位階門閥ヲ有シテ人民ヲ獎勵スルノ職務ヲ帶ビ  
 ズ遂ニ財産ヲ浪費シ酒色ニ耽醜シ心志ヲ敗リ行狀ヲ損ス  
 ルニ至レリ苟モ華族ニ與フルニ上院議官タルノ位地ヲ以  
 テセバ其ノ幾ント靡微衰頹ニ陥ラントスル精神ヲ挽回シ  
 奮然トシテ位階門閥ニ耻ザルノ心志ヲ勃興シ大ニ政治上  
 ノ勢力ヲ得テ國家ノ基礎社會ノ根本ヲ堅固ナラシムルニ



至ル可シ此ノ如クナレハ華族中ノ少年ハ益々學業ニ勉勵  
 シ精神ヲ活發ニシ異日上院ニ坐シテ一國ノ政治ヲ左右セ  
 ント欲スル大望ヲ培養シ日夜孜々トシテ自ラ止マザル可  
 シ然レハ華族ノ風習ヲ一變シテ一國ノ上流ニ坐シシメ歐  
 州諸國ノ華族ト並馳シテ政治上ノ勢力ヲ得セシムルハ極  
 メテ易々ナルノミ  
 第二勅任官知事令ノ辭職スルモノヲ以テ上院ノ議員ヲ組  
 織セント欲スル所以ハ何ゾヤ人心ノ尤モ渴望スル所ハ財  
 産ナリ近世歐米開化ノ我國ニ傳播セシヨリ世人皆ナ從來  
 ノ虛聞空名ヲ博取セントスルノ心情ヲ放棄シ爭フテ財產  
 ナ貯蓄シ錦衣玉食ニ戀々シ妻子ノ養育ニ汲々タリ故ニ在  
 朝ノ有司モ專ラ財產ヲ蓄フルヲ以テ目途トシ一旦冠ヲ懸

ルノ後ハ徒ニ一身ノ安逸ヲノミ營求シテ毫モ政治ノコトニ  
 注意セザルハ恰モ秦人ノ越人ノ肥瘠ヲ視ルニ異ナラス是  
 ノ他ナシ一タヒ印綬ヲ解ケハ復タ國家ノ大政ニ關係スル  
 所ナケレハナリ故ニ勅任官及ヒ十年以上奉職スル知事令  
 ノ辭職スルモノヲシテ終身華族ニ列スルノ榮譽ヲ蒙ラシ  
 メ且ツ天下人民ニ示スニ國家ノ功臣ニ報酬スルノ優渥ナ  
 ルヲ以テシ立法權アル上院ノ坐席ニ列シテ一國ノ政治ニ  
 參與セシムルハ有官ノキト雖ヒ財產ニノミ着目セズシ  
 テ深ク一國ノ政治ヲ研究シ一日モ自ラ倦怠セザル可シ蓋  
 シ此法タルヤ既ニ希臘ノ「スパ」トタ國ニ行ハレタリ抑モ最  
 始彼國ニ於テ人民ノ集會スル一局議院アリ其ノ民間ヨリ  
 出タル鹿暴ノ論者ハ口舌ヲ以テ議場ヲ瞞着シ徒ラニ民權



國權ヲ主唱シテ真正ノ民權ヲ妨害シ終ニ一國ノ政治ヲモ  
 壞亂スルニ至レリ是ニ於テ着實老練ナル政治家ノ考案ニ  
 因ツテ此ノ方法ヲ立テ以テ其病害ヲ療治シ過激ノ議論ヲ  
 擯斥シ永ク「スパイタ」ヲシテ真正ノ自由國タラシメタリキ  
 是レ宜ク我カ邦ノ今日ニ摸擬ス可キ所ナリ  
 然レモ右ニ論述スル所ノ如ク華族勅任官知事令ヲ合シテ  
 皆ナ上院ニ列セシメナハ或ハ其人員ノ夥多ニシテ却テ煩  
 雜ヲ起スノ憂アラン故ニ先ツ上院議員ノ人員ヲ定メ而シ  
 テ勅任官知事令ヲ一代華族トナシ舊來ノ華族ト共ニ族籍  
 ナ同フシ其中ヨリ上院ノ議官ヲ撰舉セシメ以テ上院ヲ組  
 織スル時ニハ第一ニ華族ノ衰態ヲ挽回シテ奮勵ノ氣象ヲ  
 起シ王家ノ大政ヲ輔翼スル責任ニ背カザラシムベシ第二

ニ在官ノ有司ヲシテ辭職ノ後ト雖モ政治ニ參與シ廣堂ノ  
 顧問トナルノ榮譽ヲ占有スルコトヲ得セシムベシ第三ニ下  
 院ノ議論ノ缺點ヲ補正シ一時ノ流行ニ影響サレタル論說  
 ナ修正刪除シテ公明正大ナル議決ヲ奏上シ以テ本邦ノ上  
 院ハ實ニ堂々タル日本帝國ノ立法院タル權力ト名譽トヲ  
 維持スルコトヲ世上ニ明示スルニ至ラン華族院ノ利益タル  
 實ニ此ノ如キ者アリ夫ノ一院ヲ主張スルハ徒ニ理論ヲ先  
 キニシテ實際ヲ究メザル者ナリ故ニ予ハ議院ヲ分ナテ二  
 局トナシ華族院ト國會トヲ以テ之ヲ組織シ華族院ヲ以テ  
 上院トナシ國會ヲ以テ下院トナシ而シテ一國ノ政事ヲ經  
 緯セバ必ズ駸々乎トシテ開明政体ノ域ニ進ミ百万ノ黎庶  
 ナノ人文ノ風習ニ沐浴スルニ至ラシム可キヲ信スルナリ



東京本所區橫網町二丁目二番地

靜岡縣士族

編輯主任 吉田次郎

同日本橋區元柳町十四番地寄留

青森縣士族

持主 根津親德

東京々橋區新肴町十壹番地

# 假本局 求友社

弊社雜誌ノ儀ハ代價並ニ遞送税トモ前金ニ御遣シ無之候テハ遞送致サハル社則ニ有之候間何部分ニテモ御見込次第前金ヲ以テ御注文奉冀候也  
壹册定價五錢 五册前金二十二錢五厘 十册前金四十三錢 二十册前金八十錢  
但シ府外ノ分ハ別ニ郵税申受候

東京銀座四丁目	朝野新聞社	同神田區雉子町三十二番地	巖
同日本橋區藥研堀	報知社支店	同虎ノ門外琴平町	靜
同日本橋區元大坂町	法木德兵衛	同芝區三田同朋町	靜
同淺草區元鳥越町廿一番地	共致社	同芝源助町	春
橫濱太田町二丁目	伊勢屋梅藏		陽

東京銀座四丁目	博聞社	橫濱野毛町二丁目	鈴木
同麴町區三番町	杉田善之助	石川縣金澤尾張町	牧野
同牛込神樂坂壹丁目十番地	大黒屋金之助	大坂堂島中壹丁目	靜
同表神保町九番地	赤川五平	岐阜大田町	春
同赤坂裏壹丁目十六番地	高橋兵衛	信州松本南深志町	窪田
同本郷區本郷四丁目十番地	湊屋小兵衛	大坂本町四丁目	岡島
同淺草區並木町二十六番地	秋山茂左衛門	相州橫須賀旭町	大塚
同日本橋區室町三丁目	大黒屋平吉	西京新極蛸藥師下ル	岡田
同兩國吉川町二番地		下総千葉	太田

取次所  
大賣捌所  
内國通運會社



東京兩國吉川町二番地  
 同美土代町一丁目七番地  
 同牛込保櫻川町  
 同西久保櫻川町  
 同芝柴井町  
 同神田錦町一丁目十番地  
 同表神保町  
 同今川小路二丁目  
 同南傳馬町二丁目  
 同新橋通琴平町二番地  
 同飯倉三丁目  
 同淺草寺内  
 同並木町二十一番地  
 同諏訪町壹番地  
 同瓦町二番地



大黒屋平吉  
 關野彌兵衛久  
 深野華兵衛  
 文明明太  
 中島幸次郎  
 兒玉直次郎  
 大坂屋善兵衛  
 伊勢屋善三郎  
 永盛堂  
 駿河屋  
 長村安次郎  
 西村安次郎  
 瀬山順三郎  
 森本順三郎

靜岡池川町御池下  
 西京寺町二丁目  
 名古屋本町七丁目  
 下総水海道七丁目  
 神戶長狭通七丁目  
 水戸市根積町  
 勢州津東町  
 大坂南清水上ノ町  
 尾州知多郡半田町  
 勢州山田一志町  
 播州姫路旗手町  
 江州彦根山本町二丁目  
 紀州和歌山本町二丁目  
 群馬縣前橋本町二丁目  
 淡路洲本内通  
 函館地蔵町  
 小樽港新地町

杉藤久兵衛  
 伊藤久兵衛  
 吉田久兵衛  
 新田久兵衛  
 弘讀々  
 勸興社  
 淺野捕東  
 小栗太郎兵衛  
 加藤長  
 吾々車  
 新々々  
 平井文  
 博井文  
 坂本文忠  
 堀井文忠  
 堀井文忠

東京市京橋區尾張  
 近藤新主堂  
 七拾地  
 十冊前金四十二號  
 二十冊前金八十號



